

## I. 景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

### 1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北海道)	◎	＊	＊	＊
	○	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・中東情勢や自然災害などの影響で、先行きの社会情勢や物価動向がどのように推移するのか、不安は深まるばかりであるものの、客の購買動向は、これまでと比べて、やや落ち着いている状況にある。
	○	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・新しい店舗が開店した効果もあって、新規客が増えている。既存客も一定数の来店がみられる。新規客と既存客の相乗効果で、売上も販売台数も伸びており、2か月連続で前年を上回っている。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・桜の開花が例年よりも早かったことから、ゴールデンウィークを前にして、週末の来客数が増加している。また、4月末から、地域一体となった人気アニメのイベントが始まることで、大きな集客につながる事が期待できる。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・販売量に大きな増減はみられず、おおむね横ばいで推移している。急速な回復に向けた兆しはみられないものの、大幅な落ち込みもないことから、消費者の購買意欲は一定水準を維持している。
	○	タクシー運転手	販売量の動き	・4月13日に運賃の値上げをしたところ、懸念していたような乗り控えが余りみられなかったことから、売上は増加傾向で推移している。ただし、中東情勢の影響で、燃料費の負担が増していることから、経営的には厳しい状況となっている。
	○	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・春を迎えて、人流が回復していることで、客の来店や相談の動きは一定水準を維持している。特に、都市部の店舗を中心に、料金プランや通信環境の見直し、固定通信に関する問合せが多くみられる。また、物価上昇に伴う家計の負担増を意識して、契約内容や費用対効果を慎重に確認する客が増えている。全体として需要は底堅いものの、比較検討を行った上で契約する傾向が強まっている。
	○	観光名所（従業員）	来客数の動き	・例年と比べて、雪解けも桜の開花も早かったことから、4月に入ってから、多くの観光客でにぎわっている。ゴールデンウィーク前に桜のシーズンを迎えたことで、当地の行楽期間が長期化していることもプラスである。また、例年よりもクルーズ客船の寄港が多いことから、インバウンドの利用も増加している。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・例年と比較して、欠航が多かったものの、輸送量は増加している。特に、トラックなどの工事車両の輸送量が大幅に増加している。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・中心市街地を訪れる客がいまだに少ない。駐車場に止めている車も、他県ナンバーは少ないままである。一方、夜間については、週末を中心に、異動などに伴う歓送迎会が行われていることで、多少の人出がみられる。
	□	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・日本人による購買は前年を下回っている。一方、外国人による購買は、中国以外のアジア各国の購買力が伸びていることから、前年を上回っている。これらのことから、全体的な売上は横ばいで推移している。
	□	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・店内イベントなどの効果により、各部門の売上は堅調に推移しているものの、全体的には前年並みの状況が続いている。物価の上昇が続いていることから、こうした傾向はしばらく続くと思われる。
□	スーパー（店長）	お客様の様子	・中東情勢が長期化していることで、客から商品の入荷状況や価格動向などを質問されることが増えている。米の価格について聞かれることも増えている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	スーパー（店長）	来客数の動き	・例年と比べて、雪解けが早かったこともあり、3月はサイクル用品や行楽用品の動きが活発だったものの、4月はその反動で低迷している。期間の累計で見ると、前年並みの販売量にとどまっている。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・3月は、周辺自治体によるプレミアム付商品券などの施策効果、加熱式たばこ値上げ前の駆け込み需要がみられたものの、4月に入り、中東情勢の不透明感が増していることから、客の来店動向が鈍化している。売上は、駆け込み需要の反動もあって、前年と同水準にとどまっている。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物価高が続いていることから、客の節約志向は高いまま推移している。
	□	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・光熱費などの高騰は続いているものの、必要な商品を買いたいという客の買物行動は大きく変わっていない。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車、中古車、サービス部門のいずれも前年の売上実績が悪かったことから、前年比では約1割の増加となった。ただし、3か月前と比べると、やや落ち込んでいる。
	□	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・3か月前と比べると、前年比は上昇傾向にあるものの、中東情勢の影響で駆け込み需要が生じていることが要因となっている。これは特殊要因による影響であり、全体の景気が上向いているとは判断できない。
	□	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・ようやく雪の影響がなくなったものの、来客数の減少が収まらない状況にある。ただし、客単価が上昇していることで、何とかしのぐことができている。
	□	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・期待していたほどのインバウンド需要がみられない状況にある。
	□	美容室（経営者）	お客様の様子	・4月に入り、ガソリンや灯油の価格が落ち着いてきたことで、客の安心感が高まっており、前月と比べて、客の来店状況が回復している。
	□	美容室（経営者）	販売量の動き	・ここ3か月、売上がほとんど変わらずに推移している。
	□	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・資材価格が高騰しているなか、ナフサ不足の影響や人件費の上昇により、建築単価が一段と高止まりしており、消費者の購入意欲を押し下げている。
	▲	商店街（代表者）	販売量の動き	・販売量や客単価が上向き始めていたなかで、石油関連製品の価格が高騰し始めたことで、客の消費行動が慎重になっている。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・人の動きが、活発ではなくなっている様子がうかがえる。
	▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・最近の物価高、特に石油関連製品の価格高騰により、当社の主力商品である酒類への支出が抑制され始めている。
	▲	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・中東情勢の影響を要因とした物価高により、マイナスの影響を受けている。
	▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・中東情勢の影響で駆け込み需要が増えており、雑貨品の販売量が伸びている。特に、石油化学製品を原材料とするような商品で動きが顕著である。
	▲	スーパー（役員）	単価の動き	・商品価格が上昇していることから、売上は前年比プラスとなっているものの、商品の値上げが続いていることで、客の節約志向は強まっている。
	▲	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・これまでは、来客数こそ減っていたものの、商品の値上げに伴って、客単価が上昇していたことから、売上は前年を上回っていた。しかし、4月に入ってから、客単価が前年並みで推移している。米や卵に加え、ガソリンなどの値上げが進んでいることで、客が食費を抑えざるを得ない状況となっている。
	▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・中東情勢の影響により、ガソリンなどの生活必需品の値上がり感が懸念されていることから、客が消費を抑えている。
	▲	コンビニ（店長）	お客様の様子	・おにぎりやパンなどの値引き時間に合わせて、来店する客が増えている。
	▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・中東情勢の影響やそれを要因とした物価上昇により、客の買い控えが生じている。金利が上昇傾向にあることもかなりのマイナス材料となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・物価高が続くなか、中東情勢の影響により、自動車業界においても、ディーゼルオイルの入荷時期が未定になったり、尿素水やウォッシャー液の出荷制限が生じたりするなどの影響が生じている。ただし、タイヤやサービス部門の売上が好調なことから、店舗の売上は、予算を5%ほど上回っている。一方、電装品や車内用品などは、予算を5%ほど下回っており、苦戦している。客にとって必要な商材やメンテナンスが優先される傾向が強まっており、景気は余り良くない状況にある。
	▲	その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	単価の動き	・灯油価格の急騰により、販売量が低調に推移している。
	▲	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・前年の売上を下回りそうなことから、景気はやや悪い。3月は新規客の利用が多く、にぎわったものの、4月は地元主婦層を中心に利用客が減少している。周りのレストランやホテルからは、主要客層がインパウンド、国内客にかかわらず、客の動きが落ち着いているとの声を聞く。全体的に売上も減少しており、食材納品業者にも影響が出ている。また、周りの小売店の食品売場では、安価な肉や魚介のパック販売が増えており、高単価商品を以前ほど見掛けなくなっている。
	▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・3月は大型コンサートの影響もあって、国内線の利用者が増加し、国際線も観光客も中心に前年を上回る傾向で推移した。この結果、3月の空港利用者数は過去最高を記録した。しかし、4月に入り、中東情勢の影響により、石油関連製品を中心に、多くの商品で値上げの動きがみられるようになったことで、消費者の生活防衛意識が高まっている。このため、4月の景気はやや悪くなっている。
	▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・中東情勢の影響とそれを要因とした原油価格の高騰により、旅行需要が冷え込んでいる。航空会社では予約数の伸び悩みが、旅行代理店では予約のキャンセルや問合せの減少といった影響がみられている。特に海外旅行は敬遠されがちで、国内旅行にシフトする動きも一部みられるものの、全体としては消費者の旅行意欲が減退している状況にある。こうした状況が続くことになれば、観光関連産業に大きな影響が生じることになる。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・雪解けに伴い、路面状況が良くなったことから、徒歩や自転車を利用する客が増えている。そのため、タクシーの利用客が減少している。
	▲	美容室（経営者）	それ以外	・物価高が収まらないため、景気はやや悪くなっている。特に、原油価格の高騰は、光熱費などに直接響いてくることから、影響が大きい。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・今年の春は、雪解けが早いこともあって、来客数も多く、順調に推移していたものの、原油の供給不安の高まりにより、ガソリン価格が急騰したことをきっかけに、車で来店する客が急激に減少しており、月全体の来客数の減少につながった。駐車場の稼働率も落ちている。
	×	スーパー（店長）	来客数の動き	・中東情勢の影響もあって、客の様子に落ち着きがみられなくなっている。
	×	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・石油関連製品について、ガソリンはもちろん、それ以外の製品でも値上げの動きが進んでいるとの報道がみられ始めてから、客の来店動向が明らかに落ち込み始めている。年金の支給日や給料日には、客の動きがみられるものの、それ以外の日は、客の動きが非常に鈍くなっている。
	×	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・例年と比べて、早めに気温が上がり始めたことから、衣替えが進むと期待していたものの、価格にシビアな客層が増えている。まとめ買いの量も減っており、客の来店はあっても、売上につながらないことが多くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	その他専門店 [造花] (店 長)	単価の動き	・中東情勢を要因としたナフサ不足の影響を大きく受けている。出荷制限により、まともに入荷されない商材が増えており、思うように商品を販売できない状態となっている。
	×	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・中東情勢の影響により、客のマインドが明らかに低下しており、国内客、インバウンド、団体客、個人客のいずれも予約が鈍化している。特に、国内客については、物価高もあいまって、予約数が非常に伸び悩んでいる。また、原油の供給体制に不安定さが増していることを要因に、仕入単価が大幅に上昇しており、希望数量の確保に苦慮している。
	×	旅行代理店 (従 業員)	来客数の動き	・燃料価格の高騰により、国際線の需要が落ち込んでいる。また、国際線の燃油サーチャージ上げが、国内線の需要にも影響している。北海道・三陸沖後発地震注意情報の影響もみられ、景気は悪くなっている。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・3月末から雪解けが一気に進み、暖くなるのも早かったことから、タクシーの利用は冬期間と比べて激減している。タクシー1台当たりの売上は、前年比マイナス5%となった。3月までは、前年12月の運賃値上げと冬期間の運賃割増しの効果で順調に売上が伸びていたものの、4月に入ってからは、夜間の人出も少なくなっている。週末の繁華街の人通りも少なく、3月までのにぎわいが感じられない状況にある。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・石油関連製品の価格が上昇するとの懸念から、消費者の生活防衛意識が強まっている。不要不急の外出を控える傾向がみられるようになっており、それに伴ってタクシー利用も減少している。
	×	住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・中東情勢の影響により、原油価格が上昇しており、それに伴って、原材料価格の高騰、物資の供給不足といった影響も出ている。ただでさえ住宅着工が少ないなか、コストが上昇する一方であることから、景気は悪くなっている。
	×	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを訪れる客の購買意欲がかなり落ち込んでいる。その理由として、エネルギーや食料品などの値上げが一段と進んだことで、客の住宅購入に充てる予算が大きく減少していることが挙げられる。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	建設業 (役員)	受注量や販売量 の動き	・新年度に入ってからからの工事の受注状況は、官民共に好調であり、既に計画を上回る工事量を確保できている。雪解けが急速に進んだことも追い風となっており、例年よりも早い段階で、本格的な工事が始まっている。
	○	輸送業 (支店 長)	受注量や販売量 の動き	・石油関連製品の不足により、物流への問合せが増加している。また、早めの商材調達などにより、輸入量や国内輸送量が増加している。
	○	通信業 (営業担 当)	受注量や販売量 の動き	・商談の引き合いが以前よりも増えている。
	○	広告代理店 (従 業員)	受注量や販売量 の動き	・売上が順調に推移している。
	○	その他サービス 業 [建設機械 リース] (営業 担当)	受注量や販売量 の動き	・引き続き国内建設投資は堅調に推移している。ただし、中東情勢の長期化については、留意を要する。
	□	農林水産業 (経 営者)	受注価格や販売 価格の動き	・青果物については、収穫期前であることから、動きがみられない。ここ数年、りんごの収穫量が減っていることもマイナスである。
	□	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・受注量が前年を下回っている状況は変わらない。
	□	建設業 (従業 員)	受注量や販売量 の動き	・景気が上向いていると思うほどの案件の相談があるものの、担当できる人材が不足していることから、契約まで至らないことが多い。心情的には、好景気と考えたいものの、実際の景気はこれまでと変わっていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・強風などの悪天候の影響により、作業が停滞する日が多く、取扱量は減少している。一方、バター、粉乳の在庫が堅調に推移していることから、保管量は増加している。また、ゴールデンウィークを前にして、飲料容器関連、農産品、雑貨などのトレーラー貨物が大きく動いている。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年と比較すると、販売実績は大幅に増えている。ただし、前年からの大型案件の納入に伴うものであり、ベース商材の販売量は前年から25%ほど減少している。
	▲	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・中国からのインバウンドの減少幅がやや縮小し始めているものの、中東情勢の影響を受けて、インバウンドの動きが全体的に落ち込み始めている。
	▲	家具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・中東情勢の影響により、景気はやや悪くなっている。
	▲	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・人口減少の影響と新築住宅の価格高騰により、着工棟数の減少が続いている。さらに、中東情勢の影響により、先行き不透明な状況となっている。
	▲	建設業（経営者）	取引先の様子	・毎月のように、資材価格の再見積りが生じている。見積金額は、以前と比べて2～3割上昇しているため、利益が縮小している。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・大幅な賃上げが続いたことで、企業の人件費負担が増加している。また、物価高騰に伴う価格転嫁も十分に進んでいないことから、企業収益を圧迫しており、景況感はやや悪くなっている。中小企業の賃上げ幅は、前年と比べて縮小する見通しとなっている。
	▲	司法書士	取引先の様子	・不動産業や建築業において、中東情勢の影響で、塗料などの資材の不足や価格高騰が生じていることで、案件の遅延や中止などがみられるようになっている。円安を背景とした輸入品の価格高騰もあいまって、景気の悪化が進んでいる。
	▲	司法書士	受注量や販売量の動き	・仕事の引き合いは多かったものの、月内に報酬を受領できた案件が少なかった。
	▲	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・新規受注の確保に苦戦している。
	×	—	—	—
雇用関連	◎	—	—	—
雇用関連	○	—	—	—
（北海道）	□	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・求人数の引き合いは、3か月前と比べて、10%ほど減少している。ただし、企業と求職者の面接件数は20%ほど増えており、企業の採用意欲は強まっている。内定数も3か月前よりも増えている。一方、採用に当たって、企業はスキルよりも人柄を重視しており、教育次第で伸びる人材、短期で退職しない人材を求めるようになっている。売手市場ではあるものの、企業の採用基準は厳しさを増している。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・業界を問わず、中途の正社員雇用が減少している。一方、新卒採用は増加傾向にあり、採用者数は前年を上回っている。IT企業では、AIの台頭により、募集する職種に変化が生じているほか、採用人数よりも質の高さを求める企業が増えている。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・求人広告に対する反応が、ここに来て高まりつつあり、20代の若年層の採用につながった事例もみられる。就職活動の早期化も進んでおり、大学1年生のうちに内定が出る事例もみられる。ただし、スポットワークの増加により、雇用の不安定化が進んでおり、先行きに対する不透明感は強まっている。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数の伸び悩みを背景に、景気は横ばいで推移しており、3か月前と比べて、大きな変化はみられない。雇用面に関しては、人手不足と採用抑制の動きが併存している状況にある。
	▲	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・前年と比べて、求職者の動きが鈍く、応募者数は前年の9割程度となっている。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・物価高が顕著であることに加え、今後に向けて、物資不足などの不安な報道があふれていることから、景気はやや悪くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・物価高が続くなか、中東情勢を要因とした原油価格の高騰により、物価高が一段と進んでおり、全ての経済活動に影響が出始めている。また、価格転嫁が進んでいない中小零細企業が多く、体力のない企業が倒産する事例も生じている。こうした事例は、氷山の一角であり、注視が必要な状況にある。
	▲	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・求人動向に大きな変化はみられないものの、企業経営に、中東情勢の影響が出始めている。特に、食品小売では、トレーや包装資材などの調達に支障が生じており、今後、価格転嫁に向けた動きが強まる懸念が懸念される。
	×	*	*	*

## 2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (東北)	◎	観光名所（職員）	来客数の動き	・来場者数の増加に伴い、売店の売上も増加している。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・3か月前は大雪の影響により出歩くのが大変だったため、来客数は少なかった。そのときと比べたら来客数は多くなっている。
	○	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・販売量は前年比では増加している。
	○	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・イベントなどを開催すると来客数が増加する。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数は3か月前比108%、前年比118%である。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新年度に入り人の動きが活発化しており、来客数も増加傾向にある。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・気温上昇に伴い、来客数が増加している。
	○	コンビニ（店長）	お客様の様子	・税金の支払などで来店するタイミングが増え、それに伴い売上が若干増加している。
	○	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・夏物が入荷するなか、気温の上昇に伴い、購買意欲が高まっている。一方、生活費全般の値上がりの影響か、来店頻度が低下している客もみられる。
	○	家電量販店（従業員）	販売量の動き	・新たな省エネ基準の2027年からの導入が浸透してきた影響もあり、気温がそれほど高くないにもかかわらず旧モデルのエアコンを購入する客が増えている。旧モデルのため単価は高くないが、販売台数が前年を上回る実績となっており、全体の売上を支える柱となっている。景気はやや良くなっている。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・会社関係の歓送迎会があったため2～3か月前より良い。物価高のため利益は少ないが、来客数は多くなっている。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・中国の春節が暦の関係で2月中旬以降にずれただため、1月の集客はそこまで伸びなかった。一方、4月は桜の開花時期が例年より約10日早かったため、日本人客の予約を中心に利用時期の前倒しの動きがみられた。その結果、ゴールデンウィーク期間を前にして良くなっている。
	○	通信会社（経営者）	お客様の様子	・キャンペーンの効果もあり、放送サービス、通信サービスの新規加入者数が増加している。特に工事不要のインターネットサービスが順調に伸びている。さらに、集合住宅への一括導入が増加しているが、これは新規入居者向けにWi-Fi環境が最優先で求められており、アパートオーナーが入居シーズンに間に合わせて契約しているためである。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数は3か月前まで前年割れしていたが、4月は新規客、常連客共に前年比100%に回復している。
□	商店街（代表者）	お客様の様子	・中東情勢の先行きに不透明感があることから、地方においても物価上昇が続くとみられ、景気は小康状態にある。	
□	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・商品が値上がりしているにもかかわらず、売上は前年比100%である。実質的に売上は減少しているといえる。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	<input type="checkbox"/>	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・来客数の減少に伴い、販売量が減少している。
	<input type="checkbox"/>	一般小売店〔茶〕（経営者）	お客様の様子	・中東情勢とそれによる値上げや品不足に対して、客からは不安の声が上がっている。
	<input type="checkbox"/>	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・ガソリン価格は落ち着きを見せているものの、消費マインドは依然低いままである。特に飲食費に対する節約志向は強く、外食や宴会を控える傾向が顕著である。中東情勢などの影響による更なる物価上昇への懸念も根強い。
	<input type="checkbox"/>	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・来客数減少、客単価上昇という構図に変化はない。施策により来客数は増加するが、撤退ブランドの影響と化粧品を含む雑貨系商品の伸び悩みが課題である。
	<input type="checkbox"/>	百貨店（経営者）	販売量の動き	・売場全体での販売量は減少しているが、イベントによる集客がプラスに働き、全体売上の減少分を補っている。前年踏襲の取組はほぼ減少傾向であり、客が常に新鮮さを求める傾向は年々強まっている。
	<input type="checkbox"/>	百貨店（従業員）	お客様の様子	・入店客数は微増しているものの、食品を中心とした販売価格の改定なども重なり、客の購買行動は必要最低限にとどまる厳しい状況が続いている。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（経営者）	単価の動き	・値上げ品の増加が続くなか、価格訴求や低単価商品の拡売に注力した結果、平均1品単価は前年をやや上回る程度に抑えられ、営業収入は前年を上回っている。一方で、買上点数及び来客数は前年水準の維持が難しく、収益面では厳しい環境にある。消費の低迷は続いており、一段と厳しさが増している。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	販売量の動き	・米の値上げにより商品単価が上がっていることから、総菜の売行きが悪い。肉は冷凍調理品が売れている。日持ちがするうえ扱いやすいためとみている。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	お客様の様子	・特売品の価格について、競合店と比較して更に安くならないかといった問合せがあるほか、夕方の値引きのタイミングをうかがいながら少しでも安い商品を買って回る客が増えている。
	<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数、販売量、単価共に横ばいが続いている。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・客単価は微増しているが、購入点数は微減となっている。購入金額を意識しながら調整する動きがみられる。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・売上と粗利益は前年比微増だが、人件費などの経費も若干増えているため、トータルでは変わらない状況である。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	それ以外	・除雪代の支払が終わっていない上に、雪が解けても客の戻りが鈍い。物価高の影響により買い控えも発生している。経費の増加が続くなか、経営は厳しさが増している。
	<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・前月同様、新入社員の制服や作業服等の受注は多い。しかし、店頭販売では相変わらず来店客が少ない。
	<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・来客数の減少を客単価の上昇でカバーしている。
	<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客はお買い得商品を中心に購入している。売上は確保できても、利益の確保は難しい状況である。
	<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・来客数が前年を割っている。また、スーツの買い控えにより、客単価も大幅に低下している。
	<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・売上、来客数共に前年比90%である。物価高に加えガソリン価格が高騰しており、節約志向による買い控えが生じている。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車が出ているにもかかわらず、個人客からの受注が増えない。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の配車は依然多くないが、3月末で自動車税環境性能割が廃止されたことを受け、登録を先送りしていた分の売上が増加している。中古車の需要は引き続きあるが、新車の配車が進まないため下取り車が増えず、中古車の在庫は不足している。
	<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・繁忙期は過ぎたものの、来客数に変化はない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	その他専門店 [白衣・ユニ フォーム] (経 営者)	販売量の動き	・年度初めの売上は繁忙期で伸びるものの、年を追う ごとに減少している。また、十分な利益を確保できな いケースも多く、売上が増えるほど支払負担が増す状 況にある。その結果、利益が残らないという悪循環に 陥っている。
	□	一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・来客数は3か月前と変わらず、前年比97～98%で推 移している。
	□	都市型ホテル (支配人)	来客数の動き	・主流であった東南アジア圏からのインバウンドが季 節要因により減少している。
	□	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・インバウンド需要が富士山周辺に流れており、動き が余り良くない。
	□	通信会社 (営業 担当)	お客様の様子	・顧客の設備投資意欲に変化はみられない。
	□	通信会社 (営業 担当)	お客様の様子	・客の様子に変化はない。
	□	通信会社 (営業 担当)	販売量の動き	・販売数量、見込み案件等が例年並みにある。
	□	観光名所 (職 員)	来客数の動き	・来客数は予約客、振り客共に微増の状態が1年近く 続いている。落ち込む様子はみられず、来月の予約状 況も同様の傾向にある。
	□	遊園地 (経営 者)	来客数の動き	・34年ぶりの入園料値上げや天候不順もあったが、新 機種導入効果もあり、来客数は前年を上回っている。
	□	競艇場 (職員)	単価の動き	・来客数も客単価もほぼ変わらない。常連客は毎日来 るものの、売上は上がらない。
	□	美容室 (経営 者)	単価の動き	・リラクゼーションメニューを利用する客が減少して いる。中東情勢への不安感から消費を控える動きがみ られる。
	□	その他サービス [自動車整備 業] (経営者)	単価の動き	・インフレの進行により、販売価格も上昇している。
	□	設計事務所 (経 営者)	販売量の動き	・引き合い自体は堅調に推移しているが、客が求める 内容を実行するには予算超過となり進展しないケース が増えている。その要因は、建設費の高騰と資材不足 などに伴う工事期間の長期化にある。
	□	その他住宅 [リ フォーム] (従 業員)	販売量の動き	・コンロ、給湯器、エアコンの交換工事は増えたが、 大型のリフォーム工事は減っている。
	▲	商店街 (代表 者)	お客様の様子	・物価上昇が続いている。
	▲	一般小売店 [医 薬品] (経営 者)	単価の動き	・前年秋以降、売上の悪化が続いている。過去最低を 更新した前月からはやや持ち直しているものの、3か 月前と比べると依然として低い水準にある。一方で、 物価高騰を見越したまとめ買いの動きもみられる。
	▲	百貨店 (経営 者)	販売量の動き	・来客数は前年を大きく上回っているものの、買上率 や客単価など販売面では苦戦している。
	▲	スーパー (経営 者)	それ以外	・中東情勢の影響が続いている。
	▲	スーパー (店 長)	単価の動き	・毎月の値上げや燃料費の高騰により、消費を控える 動きがみられる。
	▲	スーパー (店 長)	単価の動き	・1品単価は上昇しているが客単価は低下しており、 物価高による買い控えの動きがみられる。
	▲	スーパー (店舗 運営)	販売量の動き	・相次ぐ値上げやガソリン価格の高騰、先行き不透明 な地政学リスクの影響を受け、全体的に買い控えの動 きがみられ、買上点数が減少している。
	▲	スーパー (業務 担当)	販売量の動き	・販売量、買上点数の鈍化が顕著に表れている。
	▲	スーパー (販促 担当)	単価の動き	・販売点数は前年と比べ減少している。仕入原価の上 昇に伴い、価格転嫁を行っており、1品当たりの販売 単価は上がっている。
	▲	コンビニ (経営 者)	単価の動き	・商品の値上がりが続くなか、当地では賃金が上がっ ている人が少なく、消費を抑えている人が多いため、 売上は上がらない。
	▲	コンビニ (経営 者)	来客数の動き	・来客数は微減が続いており、販売量は4か月連続で 横ばいの状況にある。例年であれば雪解けとともに来 客数や販売量は上向くが、商品価格の上昇の影響か、 経営環境は厳しい。
	▲	コンビニ (エリ ア担当)	単価の動き	・来客数は季節トレンドに沿って推移しているもの の、単価の伸びは鈍化している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・今月は来客数が大幅に減少している。原油価格高騰などが影響しているのか、カジュアル品など比較的安価な商品を購入する客が大幅に減り、ついで買いをする客も2割ほど減少している。スーツやズボンを目的に買いする客は減っていない。
	▲	家電量販店(従業員)	来客数の動き	・前月に続きエアコンの販売が好調で、前年比120%の伸びとなっている。単価も高く、テレビの不調をカバーしている。全体の売上は前年比約105%だが、客が買物に対してより慎重になっている様子がうかがえる。
	▲	乗用車販売店 (従業員)	お客様の様子	・ガソリン価格が高騰している。また、電気自動車を発売するが、新車価格が上がっていることに加え、電気料金も上がっているため、支払総額と購入後の維持費がネックになり買い控えが出ている。
	▲	乗用車販売店 (店長)	お客様の様子	・物価高やガソリン価格上昇の懸念から、特にガソリン車の引き合いが目に見えて減っている。反面、中古車の需要は上昇傾向にあるが、全体の収益を支えるほどの盛り上がりはない。総じて収益的に苦しい状態である。
	▲	住関連専門店 (インテリアコーディネーター)	販売量の動き	・資材価格や物流費の上昇により、マンションや戸建て住宅の価格が高騰している。その影響によりインテリアに掛ける予算はかなり低くなっている。
	▲	その他専門店 [酒](経営者)	お客様の様子	・米価の高騰から米離れが加速し、4月からの値上げもあり動きは鈍い。また、中東情勢の影響により、重油を原料とする燃料や資材、消耗品についても先行きが見通せない状況にある。生産から流通、小売、消費者に至るまで、民間だけでは対応が難しい不安要素があり、身動きが取れない状況にある。
	▲	その他専門店 [ガソリンスタンド](営業担当)	販売量の動き	・中東情勢の影響に伴い需給のバランスが崩れ、燃料油や潤滑油等に欠品が多く発生していることから、販売量が減少している。
	▲	その他小売 [ショッピングセンター](統括)	来客数の動き	・売上は前年比98%、来客数は同92%である。改装のため一部飲食フロアが今月からクローズしている影響もあり、来客数は前年比では5%程度減少している。また、1品単価の上昇により、客単価は5%増加している。生鮮食品もレジ通過客数は前年比未達である。これまで堅調だった生活雑貨類も、吟味して1点購入する光景がみられるなど財布のひもは固く、消費が好調とは言い難い。
	▲	高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・ここ数か月、予約数の減少が続いており、月ごとに比較しても明確な減少傾向がみられる。
	▲	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・2~3か月前は、鉄道会社の特別企画乗車券の販売やせり鍋提供といった要因もあり、関東からの来店客が多く、景気が非常に良かった。今月の景気も悪くはないが、それと比べると少し落ち込んでいる。
	▲	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・中東情勢の影響か、客足は良くない。
	▲	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・長引く物価高のほか、中東情勢や地震、熊出没の影響により、予約数が少なくなっている。
	▲	観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・物価高や中東情勢の影響により、来客数が減少している。
	▲	観光型旅館(スタッフ)	来客数の動き	・来客数が前年同月比89%に減少している。
	▲	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・中東情勢や物価高の影響により、一部では旅行を見合わせる動きが出てきている。
	▲	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・熊の出没や地震、山林火災の影響により、観光客数や宿泊者数が減少している。
	▲	通信会社(営業担当)	それ以外	・物価が上がり続けている。スーパーで買物をしていると割引の日だけ人が多い。
	▲	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・来客数は目標値に対し、3か月前は96.8%だったが、今月は96.7%と下向いている。
	▲	ゴルフ場(支配人)	それ以外	・原油価格の先行きが不透明となり、消費行動に影響が現れている。
	▲	美容室(経営者)	来客数の動き	・物価高が影響し、美容に掛かる費用を節約していると考える。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	その他サービス [寮管理] (管理人)	単価の動き	・中東情勢の先行きが不透明ななか、消費者の節約志向が強まり、消費は減少している。このため、景気はやや停滞している。
	×	一般小売店 [寝具] (経営者)	販売量の動き	・商品に動きがない。
	×	スーパー (経営者)	お客様の様子	・中東情勢の長期化により物価が上昇しており、客の買い控えがみられる。物価高騰に対して賃金の伸びが追い付いていない。
	×	自動車備品販売店 (経営者)	お客様の様子	・油脂関係類の入荷が不安定となり、単価も上昇している。業界全体でみても、オイル交換から板金塗装まで幅広く影響を受けている。
	×	住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・受注生産をしている。製作するものは数か月前に決まっており、今月の受注量は少ないことから、販売量が減少している。
	×	その他専門店 [靴] (経営者)	販売量の動き	・中東情勢の影響による先行きの不透明感から、消費者は必要最低限の支出を心掛けている。
	×	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・当店は記念日など祝い事による利用が多い。しかし、今年は外食離れや支出を抑える行動がみられ、入学祝いなどの利用がかなり減少している。非常に厳しい状況が続いている。
	×	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・例年であれば、新年度になり進級進学の祝い事や仕事関連の歓送迎会等で動きが活発になる月だが、客層が異なる和食部門、居酒屋部門共に来客数が落ち込んでいる。
	×	観光名所 (職員)	来客数の動き	・花見で来客数が伸びる時期にもかかわらず、今年は花見関連の来客数が余り伸びていない。
	×	住宅販売会社 (従業員)	それ以外	・中東情勢により、物が高い若しくは入荷できないため、多くの現場に影響を及ぼしている。
	企業 動向 関連  (東北)	◎	—	—
○		*	*	*
□		農林水産業 (従業者)	それ以外	・果物は収穫前でまだ販売を開始していない。
□		食料品製造業 (製造担当)	受注量や販売量の動き	・飲食店は好調に推移しているものの、土産品の購入には結び付いていない。首都圏に出店している店舗では平日の利用客も多くにぎわっているが、地元店舗では平日の利用客が少ない。
□		出版・印刷・同関連産業 (経営者)	取引先の様子	・美術展や観光振興キャンペーンなど自治体の周年事業イベントがめじろ押しである。しかし、活況なのは一部の業種に限られる。
□		電気機械器具製造業 (総務担当)	取引先の様子	・引き続き受注の動きは鈍く、様子見の期間が長引いている。
□		輸送用機械器具製造業 (経営者)	取引先の様子	・月初めは良い状況でスタートしたものの、当月の実績は計画値に届いていない。一部事業で上向きの動きはあるものの、全体では依然として良い状況とはいえない。
□		建設業 (従業員)	受注価格や販売価格の動き	・受注は堅調である。しかし、資材価格の高騰や人手不足の影響もあり、案件を対応するのに苦慮している。
□		建設業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・以前から見積り対応を行っていた小規模案件について、一定の受注があった。
□		建設業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・大型物件の受注がなく、受注額は3か月前と変わらない。
□		建設業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・受注実績、受注予定のいずれを見ても、景気が良い状況は変わらない。
□		通信業 (営業担当)	取引先の様子	・客からの値下げ要請が続いており、契約の見直しを迫られている。
□		通信業 (営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・現時点ではインフラ料金の影響は受けていない。
□		金融業 (広報担当)	取引先の様子	・中東情勢の影響により、原油由来製品の価格高騰に加え、入荷が滞るケースも散見されている。その影響により、運送業、温泉施設、クリーニング業、建築業など経営に悪影響が及ぶ取引先は増加しており、対象となる業種も拡大傾向にある。一方で、足元ではインバウンド需要が好調で、サービス業、宿泊業、飲食業の業績は良くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	広告業協会（役員）	受注量や販売量の動き	・期首は例年控えめの広告費で始まる業界だが、今年は経済の先行きに不透明感が強く、様子見をする企業も多いため、全体的に前年比ややマイナスでのスタートとなっている。3か月前と比べても変わらず、広告出稿量は微減で推移している。
	□	公認会計士	取引先の様子	・顧客の月次、決算状況から判断している。小売業、サービス業はある程度業績の良い会社が多いが、製造業、建設業関係が悪い。特に建設業関係は春に着工予定だった工事が秋以降に延期されるケースもあり、売上の確保が難しい状況にある。全体としての景気はやや悪いと判断している。
	□	その他非製造業 〔食料品卸売業〕（経営者）	取引先の様子	・飲食店の客の入込は週末中心で、平日は閑散としている。
	▲	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月前半の春休み期間中は土産品の動きが好調だったが、中旬以降は動きが鈍くなっている。
	▲	食料品製造業（営業担当）	それ以外	・受注量は前年並みを維持しているが、原材料価格の改定が毎月あり、利益が大きく圧迫されている。
	▲	出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先のうち、特に建設業関係の客からは良い話を聞かない。
	▲	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中東情勢の影響により、発注が慎重になっている。
	▲	不動産業（従業員）	それ以外	・当地の不動産市況は下向き基調にある。実勢相場は、駅近物件は横ばい、郊外物件は小幅ながら下落している。住宅ローン金利の上昇もあり、取引が動いている物件は限定的である。
	▲	広告代理店（経営者）	取引先の様子	・メディア各社の出稿量は前年比では減少しているとの情報がある。中東情勢等の不安定要因もあり、客先が投資に慎重になっている様子がうかがえる。
	▲	経営コンサルタント	それ以外	・ガソリンや食料品など生活必需品の値上げが著しく、販売する側、購入する側双方が困惑している。
	▲	その他企業〔企画業〕（経営者）	それ以外	・原油価格の上昇に伴い物価が上がっている。小売店では客が買上点数を抑える傾向がみられ、客単価も伸びていない。
	▲	その他企業〔協同組合〕（職員）	それ以外	・原油価格の高騰に加え、石油関連の原料や資材が入手困難となっており、発注にえられる見通しが立たない。製造業全体が同様の状況である。
	×	窯業・土石製品製造業（職員）	受注量や販売量の動き	・官需、民需共に発注工事が低調で需要が落ち込んでおり、厳しい状況である。
	×	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・主力事業のパソコン市場が前年比約3割の減少となっている。4月から受注量も減少している。
	×	輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・業種として、営業費用に占める燃料費の割合が大きい。燃料価格の高騰で厳しさが増すなか、サーチャージ制などによる価格転嫁が進まず、収益を大きく圧迫し続けている。
雇用 関連 (東北)	◎	—	—	—
	○	*	*	*
	□	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・中東情勢など将来への不安要素は若干あるものの、今月についてはその影響はみられない。建設業、卸売業、飲食業、アミューズメント分野では、引き続き求人を出している。
	□	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・企業の採用意欲は低下している状況にある。特にメンバークラスの経験が浅い層を対象とした求人において、複数名枠での募集が減少している。そのため、全体の採用者数も伸び悩んでいる。
	□	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・東北の求人数は前年比120%と増加しているが、登録求職者数は同86%と減少している。景気が良くなっていないという点は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・直近3か月の新規求人数は、前年同月比で増減はあるが、大きな変化はない。
	□	学校〔専門学校〕	求人数の動き	・専門学校への求人数は、前年比では大きな変化はない。
	□	その他雇用の動向を把握できる者	周辺企業の様子	・物価高による原材料費や燃料費の高騰により、経営に影響があるとする企業が多い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	アウトソーシング企業（経営者）	それ以外	・他業種からの参入があり、競争が激しくなっている。
	▲	求人情報誌製作会社（経営者）	周辺企業の様子	・原材料価格の高騰に歯止めがかからず、採用活動において広告料などの費用を掛けられない企業が非常に多くなっている。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	採用者数の動き	・広告収入が2割減少している。
	▲	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・有効求職者数は増加し、有効求人数は減少が続いているため、有効求人倍率が低下してきている。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年同月比で有効求職者数は増加傾向にあり、有効求人数は減少している。有効求人倍率は低下傾向にある。
	×	*	*	*

### 3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北関東)	◎	家電量販店（店員）	販売量の動き	・前月は前年比98%だったが、今月は121%と大きく伸びている。消費をけん引した商材は、エアコンで135%、洗濯機145%である。冷蔵庫は振るわず90%での着地である。エアコンは2027年度から省エネ達成率が100%を超えないと生産できなくなるため、価格上昇を懸念した駆け込み需要が始まっている。
	○	一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・飲料品関係の売上が増加している。
	○	家電量販店（企画担当）	販売量の動き	・新たな省エネ基準が開始されることを背景として、特にエアコン需要が高まっており、家電の販売数量、売上がけん引している。
	○	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・特に目立つ良さも悪さもなかったが、販売量がやや上向いている。客の動き、来客数も若干だが多い傾向にある。
	○	タクシー（経営者）	お客様の様子	・昼も夜も動きが良かったので、前年同月と比べて7%の増収である。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・若年層に人気のあるツイストパーマやホワイトブリーチ等、単価の高いメニューが多く出るようになってきている。おしゃれにお金を掛けられるくらい、景気が良くなったのではないかとみている。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・4月に入り、値上げの話が聞こえてきて、特に石油の問題が大きい。皆がチラシを見ながら、スーパーで買物をしている。我々も持ちこたえられず、値上げをする状態が続いている。
	□	スーパー（商品部担当）	それ以外	・物価上昇の影響は、売上や客単価が低下したままで変わらず、悪い状況が続いている。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・今までは値上げの影響もあって良かったが、来客数は3か月前と比べてそれほど伸びていない。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・値上げにより客の価格意識が高まり、来店頻度の低下と競合店への流出が重なって、来客数が減少している。
	□	家電量販店（営業担当）	単価の動き	・エアコン早期取付けの施策により、金額は前年比105%で推移できている。他のカテゴリーでは映像関連が悪く、92%と苦戦している。
	□	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・新車、中古車等の販売低迷、微減は、既に1年くらい続いている。その分を車検整備などのサービス部門で補っている。赤字にこそならないが大変である。
	□	その他専門店（総務担当）	単価の動き	・仕入単価の高騰で、やや悪いままで変わらない。
	□	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・年度替わりの宴会を始め、1組当たりの来客数は増えている。
□	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・団体予約は程よく入っているが、平日のフリー客の動きが鈍い。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	単価の動き	・中東情勢の影響が極めて読みにくい。調理時に使用する手袋類、包装材などの資材関連で、業者によっては出荷制限の動きも見られる。価格上昇だけではなく、食材や資材類の確保にも注意が必要になっている。
	□	都市型ホテル（支配人）	単価の動き	・3か月前と比べて、宿泊部門は上向きであるが、料飲部門は下向きであり、両部門合わせると変わらない。
	□	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・4月の販売量の動きはやや良いが、例年と変わらない。
	□	旅行代理店（所長）	来客数の動き	・中東情勢の影響やガソリン等の価格高騰により、例年よりも来訪者数が伸び悩んでいる。日帰り客はある程度来ているものの、宿泊者数は今一つである。
	□	通信会社（社員）	単価の動き	・生活用品や飲食関連等、多くの品目で販売価格が上昇している。その影響により、当社サービスへの新規加入の鈍化や解約が増えている。
	□	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・前年と比べて、天候に恵まれた週末を迎えることが多く、来客数が増加している。
	□	ゴルフ場（従業員）	お客様の様子	・来客数は前年比102%と好調なものの、集客が期待できるゴールデンウィークの予約の動きは鈍い。
	□	設計事務所（所長）	お客様の様子	・中東情勢の影響により、クライアントが動きにくくなっている。
	□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・最近、住宅関連、貸店舗、貸事務所等の問合せ、引き合いが少なく、ほとんど動きがない。逆に、店舗等については閉店等が目立ち、特に、個人商店の閉業が目立っている。飲食店関係が本当に芳しくないようである。
	▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・物価上昇に慣れたものの、中東情勢の動きに対する不安も重なり、節約志向が更に高まっている。
	▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・前年を基準にした売上達成度で3か月前と比較すると、両月共に前年の売上は上回っているものの、3か月前より1割程度下回っているため、やや悪くなっている。2月末に起きた中東情勢の変化は、原料の値上げや旅行客の減少といった直接的な影響は限定的である。ただし、毎年4月は、桜を目当てに多くのインパウンドが訪れるが、今年は例年と比べて少なく、購入額も少なかった。
	▲	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・来客数が前年比1～2ポイント落ち、そのまま売上に直結している。中東情勢によって連日、原油関連の報道もあり、移動費抑制で来客数が減少していると考えている。毎日のように来店していた客が3日に1回程度になっているとの報告も上がっている。
	▲	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・来客数はほぼ前年並みだが、客単価が下がり売上は前年割れとなっている。
	▲	スーパー（経営企画）	販売量の動き	・販売金額は伸びているものの、販売数は減少傾向のため、やや悪くなっている。
	▲	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・4月1日からのたばこの値上げもあり、今月は来客数や販売量がかなり低下している。
	▲	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・中東情勢の影響により石油供給不安が連動している。
	▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・3月の受注台数はここ3か月で最低となった。
	▲	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・中東問題と物価高がじわじわと市場に影響を及ぼしている。必要なアイテムや市場連動型の電気料金、重油等が2倍若しくはそれ以上になったり、石油由来の必須アイテムが実際に手に入らなくなっている。早急に対応をしないと、事業所を一時閉鎖ということになりかねない。
	▲	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・原油価格の高騰など影響が大きく、費用が増えて利益が圧迫されている。
	▲	旅行代理店（営業担当）	来客数の動き	・4月からの値上げや海外情勢を背景に、消費行動が鈍くなっている。
	▲	タクシー運転手	お客様の様子	・例年だと4月は歓迎会の時期で利用客は増える。週末に小規模な歓迎会があったようだが、1次会だけで夜9時頃には終了し、深夜の客がいなかった。
	▲	通信会社（営業担当）	単価の動き	・中東情勢の影響で、石油や物価は今後高騰するとみっており、消費が冷え込む可能性がある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	通信会社（総務担当）	販売量の動き	・前月までは3月末で利用できなくなるサービス利用者の買換えにより販売が増えていたが、特需が終わったため、やや悪くなっている。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・食料品の価格が2～3割上がっており、それに伴って、他の業種でも全てが値上がりしている。消費者にとっては賃金の上昇率と比べても物価の上昇率の方が高いため、まずは食べることを優先させなくてはならず、我慢できるものはできるだけお金を使わないようにしている。美容についても、これまで1か月に1回だった利用を2か月ごとにする人が多く聞かれている。
	▲	その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	販売量の動き	・建築コストの高騰に加え、一部の建築資材に在庫の枯渇や納期の大幅な遅延が発生している。契約自体が延期や見送りになるケースも頻発している。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	来客数の動き	・客からの依頼が減ってきている。問合せはあるものの、やはり金額的に折り合いがつかないようである。
	×	乗用車販売店（経営者）	それ以外	・自動車メーカーの悪いニュースが立て続けに出ている。
	×	一般レストラン（経営者）	それ以外	・宴会数はやや増えつつあるが、低予算である。企業の営業担当から聞いたが、物価高なのに1人当たりの予算が減らされ、接待用の弁当や食事の費用のやりくりが大変だということである。当社としても低予算の物を作ってあげたいが、物価が上がっているため、対応に苦慮している。
	×	通信会社（局長）	それ以外	・中東情勢の影響が続いており、石油の輸入が不安定で見通しが立たない。このままでは各方面の生産ストップや販売中止につながり、購入できても高額になると予想される。
	×	ゴルフ練習場（経営者）	来客数の動き	・生活必需品全般の価格上昇により、買い控えが発生している。
	×	住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・LPガスの価格高騰により、原価が上昇し利益を圧迫している。売上が減少するとますます悪くなることが予想される。
企業 動向 関連  (北関東)	◎	—	—	—
	○	経営コンサルタント	取引先の様子	・米国の関税政策や中東情勢の影響による原材料価格の高騰の影響を受け、製品価格の改定を見越した駆け込み需要で、一部の化学製品を製造する中小企業では受注が急増している。自動車関連の部品製造業では、これまでの受注減少傾向が一段落し、一定の業績を維持している。
	□	出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ナフサ不足による値上げ連鎖が止まらないものの、受注量は前年と変わらない。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量や販売量の動きに特別変化がないため、変わらない。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中東情勢の変化や中国の輸出規制によるサプライチェーンのダメージの情報は多くあるものの、現状ではサプライチェーンの断絶までには至らず、状況的には3か月前と変わらない。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先は上場企業が10社ほどあるが、ほぼ全社で先行きの不透明な状況が続いている。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が徐々に減ってきている。これから多少は変わっていくとみている。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・継続で受注していた医療機器の組立て作業が、量産品に関しては今月末で終了する。
	□	輸送用機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・主要取引先の生産は、計画どおりに推移している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・夏物家電のエアコンの省エネ規制によって価格が現状の1.5倍になるとの予測から、前年と比べ、現状3割ほど増えている。また、白物家電等の需要も、前年並みの物量を確保している。ただし、中東情勢の問題により、燃料価格の高騰やドライバー不足によるコスト高もある。運賃については、交渉でかなり上がっている部分はあるものの、その他のコスト負担が大きく、利益は薄くなっている。
	□	司法書士	受注量や販売量の動き	・景気が良くなるとか悪くなるというよりは、いつもどおり変わらずに推移している。
	□	社会保険労務士	取引先の様子	・今のところ、地方では報道にあるような中小企業の賃上げは難しいとみている。
	▲	食料品製造業（経営者）	取引先の様子	・物価高や中東情勢等から、消費者の生活防衛色が一層強くなり、取引先の小売店は軒並み売上を落としている。
	▲	化学工業（管理担当）	競争相手の様子	・競合では材料の入手ができずに製品出荷を一時停止している。当社でも製品の材料価格高騰や入手困難となる時期が近い。
	▲	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・全てが値上がりしている。
	▲	輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・ゴールデンウィークを控え、各取引先は生産量を落としているため、若干悪くなっている。
	▲	広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・飲食店の閉業が過去にないほど多い。それなりに集客していた店まで、材料費、人件費、光熱費等、何もかも上がり、経営を圧迫して耐え切れない状況になっている。
	×	金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・資材不足に伴って、作業に遅れが生じている。
	×	不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・最低賃金上げで人件費が大幅に上がった分を、新規取引量増加でカバーする見込みだったが、想定を下回ったため、予定の利益を達成できていない。空室テナントも入居がない状態が続いている。
雇用 関連  (北関東)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・事務職の求職者のなかでも一般事務ばかりが人気で、専門性の高い職種は敬遠される傾向が強くなっている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で連続して微増しているが、前年同月と同水準である。
	▲	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・新年度に入り、前年度からの引継ぎや入園、入学といった切替え時期でもあったため、当然のことながら、購買力は全般的に上がっている。ガソリン、灯油等の高騰も波があり、資金調達と購入予定の金額や物品がやや控えられている。米価は安くなってきたが、野菜や総菜関係等は、価格の上昇から多少買い控えられている様子である。
	▲	人材派遣会社（管理担当）	採用者数の動き	・自動車関連部品の製造派遣採用数が減少しているため、やや悪くなっている。
	▲	学校〔専門学校〕（副校長）	周辺企業の様子	・取引企業からの情報によると、中東情勢の影響により物が不足し取引が難しい状況で、今後も改善の見通しが立たないため、雇用についても検討していくとのことである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	*	*	*

#### 4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (南関東)	◎	一般小売店〔生花〕（店員）	販売量の動き	・4月は入学式で壇上花などをたくさん納品し、販売量も多かった。現在は小学校の野菜苗の注文がかなり入っており、販売数も増えている（東京都）。
	◎	一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	販売量の動き	・3年間建て替え工事を行い、新社屋に店舗を移転した。至って順調に推移しており、来客数も多く、新規客、特に若年層を取り入れることに成功したため、売上が伸びている。来客数も増え、商材も潤沢でよく動いている。外商部の方も幾つか大きな案件を取っており、また、年間契約もしっかり取れている。努力が実り、とても良い状況である。
	◎	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・免税売上は3か月前の前年比2けた減少から2けた増加まで回復している。前々年も上回ってきており、ラグジュアリー商材の売上に寄与している。国内需要も食品やボリュームファッションを中心に、順調に推移している（東京都）。
	○	一般小売店〔家電〕（経理担当）	お客様の様子	・今年も暑くなる予想のため、エアコンの問合せ、見積依頼が例年より早く、多い。
	○	一般小売店〔家電〕（経理担当）	販売量の動き	・今年はエアコンの需要が早くなっている。全般的に値上がり傾向なこともある。
	○	一般小売店〔印章〕（経営者）	販売量の動き	・新年度になり、多少動きが活発になり、商材の動きが微増している。こうした動きが持続してくれるとよいが、なかなか想定どおりにはいかない。
	○	一般小売店〔文房具〕（経営者）	販売量の動き	・年初と比較して売上は15～20%、来客数は10%程度増加している。インバウンドも目に見えて増加しており、当店でも日によっては売上の半分をインバウンドが占めていることもある。文具メーカーによる新製品の発売サイクルも短く、高額商材の導入が売上増加につながってきている（東京都）。
	○	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	来客数の動き	・日ごしの強い夏の方が冬より商品がよく売れる。今年も4月頃から暖かく、日ごしも強くなってきたため、通常レンズとサングラスの2本を買い求める客が徐々に増えている。
	○	百貨店（財務担当）	販売量の動き	・株高、円安等を背景に国内客、インバウンド共に販売量が増加傾向である（東京都）。
	○	百貨店（店長）	来客数の動き	・世界情勢は不安定だが、来客数と買上率は上昇している。気温の変化により、衣類だけでなく食品も季節商材の動きが活発になっている。
	○	家電量販店（店長）	販売量の動き	・半導体不足からパソコンの値上げが予想され、買換え需要の流れが顕著になっている。また、OSのサポート終了に伴う買換えも少なからずプラスに働いている。さらに、エアコンの新たな省エネ基準が意識され、買換え客が増えており、これらが販売量の増加をけん引している。
	○	家電量販店（店長）	来客数の動き	・3か月前と比べると来客数は増加、販売額は減少しているものの、前年同月比では共に増加している。中国からのインバウンドが減少しているなか、他のアジア圏や英語圏からのインバウンドが増加している（東京都）。
	○	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・電気自動車購入の補助金が高額のため、やや良くなっている（東京都）。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・前年比では来客数、客単価共に増加しており、上向いている（東京都）。
○	その他飲食〔カフェ〕（経営者）	来客数の動き	・店舗をリニューアルして1年がたち、リピーターが微増している。ベーグルはコアなファンが付くようで、短時間で完売している（東京都）。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	○	その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	単価の動き	・取引先からの委託料について、引き続き価格転嫁交渉を実施している。前年度交渉分は今年度に反映されるが、2026年度反映額は6億円超となっており、景気は良くなる。ただし、材料単価の上昇、最低賃金引上げ等のコスト高の要因もめじる押しのため、懸念すべきことも多い（東京都）。
	○	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・宿泊については、2～3か月前よりも近隣の大型コンベンション施設での催事、イベントの開催が増えていることや、スポーツ関係や各種団体等により稼働が非常に高くなっている。宴会に関しても、歓送迎会や新年度を迎えるの各種会合が多く入っており、状況はかなり良くなっている。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・1月と比べれば需要は伸びているが、前年比では微増程度である。もう少し伸ばしたかったが、中国からのインバウンド減少が影響している。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・今月から都内のタクシー運賃が10%ほど値上がりしたが、乗り控えはなく、むしろ利用客が多いような印象だが、社会情勢に鑑みて、なぜそうなのかは分からない。物価が上がっているため料金の値上げも素直に受け入れられたのか、ちゅうちょなく利用されている（東京都）。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前と比べればやや良くなっている（東京都）。
	○	通信会社（経営者）	それ以外	・何となく街の人が元気になってきている（東京都）。
	○	通信会社（経営者）	販売量の動き	・引き続き交渉中の案件の受注及び工事関係が増加傾向である（東京都）。
	○	通信会社（管理担当）	お客様の様子	・ソリューションに関しては、システムの更新需要もあり堅調である。法人のモバイルに関しても、ソリューション部門の協業により順調に動いている（東京都）。
	○	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・ベースアップがあったため、やや良くなっている（東京都）。
	○	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・気候が良くなり好調である。
	○	住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・当社は不動産デベロッパー業と総合建設業である。インバウンドを含めた観光用ホテルを扱っているが、インバウンドがかなり増えているため、ホテルの稼働率も上がってくる。中国からのインバウンドが様々な事情でぱったり減っているが、当社の扱うホテルは中国からのインバウンド利用はほぼないため、影響は受けていない。一方、建設業は、材料費、人件費共に上がっており、公共工事を含めてスムーズな受注ができない状態になっている。
	□	商店街（代表者）	販売量の動き	・石油化学製品の工場の景気が悪い。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・当地域の景気動向は正直難しい局面にある。クレジットカードの取扱高は前年と比べて増減しておらず、来街者数も減っていない。物価高の影響をまともに受ける客層ではないものの、イベントなどの告知に対するレスポンスがやや鈍くなっている。世界情勢の影響か、不安要素やマインドが冷え込んでいる（東京都）。
	□	一般小売店〔茶〕（営業担当）	販売量の動き	・お茶の季節といわれるが、最近は何も関係ないようである。以前と比べて売上も良くない。販売状況も余り芳しくない（東京都）。
	□	百貨店（総務担当）	お客様の様子	・店内改装のための工事で稼働面積を縮小しているものの、高額品等に動きがあり、予算を達成している。
	□	百貨店（総務担当）	お客様の様子	・様々な客の消費行動について月次平均で見ると、全体として安定した横ばい傾向にある。内容としては、高額ブランド品等が引き続き好調で、平均価格の押し上げに寄与する一方、インバウンドによる売上は期間ごとに上下に変動している。食料品を中心とした日用品は安定的に推移しており、総合的に景気動向はおおむね平均的な水準にある（東京都）。
	□	百貨店（総務担当）	お客様の様子	・宝飾や時計等の高額品の売上は堅調を維持しているが、食料品における単価上昇の影響もあり、伸びが鈍化している（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	百貨店（営業担当）	単価の動き	・中国からのインバウンド減少の影響は続いており、来客数は減少傾向にあるものの、高級ブランドや宝飾、時計などの高額商材は国内客、インバウンド共に依然として好調で、売上をけん引しており、客単価が上昇している（東京都）。
	□	百貨店（営業担当）	単価の動き	・ショッピングセンター内でも客単価が下がっている。100円ショップ等やうどん、ファーストフードなどの単価の低いテナントは売上が好調な一方で、比較的高単価なファッションテナントは厳しい（東京都）。
	□	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・国内客、インバウンド共に特に大きな変化はみられない（東京都）。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数、客単価は前年並みを維持しているものの、買上点数の前年割れが依然として続いている（東京都）。
	□	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・物価が上がっており、客が必要な物しか買わなくなっている。
	□	スーパー（営業担当）	販売量の動き	・単価の上昇が依然として継続しており、生活防衛意識が更に高まっているため、販売量は低調気味で、買上単価も上がっていない。来客数は前年に近づいているものの、トータルでは前年並みである（東京都）。
	□	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・来客数に影響が出ている。自家需要のような物より、必要最低限の物を購入している印象を受けている。
	□	コンビニ（商品開発担当）	販売量の動き	・来店はするものの、キャンペーンなどに対する動向が鈍化傾向にある（東京都）。
	□	コンビニ（従業員）	来客数の動き	・景況感はそのままで変わらないものの、最近では商材の値上げが多く、おにぎりも少しずつ値上がりして200円近いものが増えてきている。感覚的には100～150円の商材イメージがあるため、値上げによって足が遠く客も増えている。コンビニは元々スーパーなどより価格が高いため、値上げによって更に高いと感じる客も多い。
	□	コンビニ（従業員）	販売量の動き	・3か月前と比べて景気の変化はさほどない。今月、新規客を狙った店頭販売商材の専用機器が新たに導入され、評判は悪くない。来客数が目減りしていかないように来店動機を増やし、売上につなげていかねばならない。同じコンビニチェーンでも導入されていない店舗もまだあるため、差別化要素として活用していきたい。
	□	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・夏物衣料を精力的に集めて販売準備をしていたが、思いのほか動きが少ない。
	□	衣料品専門店（店長）	単価の動き	・生活必需品の値上げの影響を受け、富裕層を除く消費者の財布のひもが固くなりつつある。購買単価については、当社の主力事業である着物やドレスの1品単価が下がりつつあることと、購買意欲が低下してレンタルで済ませる傾向が出てきている。一方、仕入れについては、商材、包装資材などの値上げ要請が増えている。中東情勢の収束にめどが立たないことには、利益の圧迫が続く（東京都）。
	□	衣料品専門店（役員）	単価の動き	・気候が良くなり、春夏物衣料が動くようになったが、客単価は低く、必要最低限の購入である。
	□	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・新年度になったが、来客数、販売量共に前年並みである。
	□	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・例年と変わらず、販売数にも大きな変化はない。
	□	その他専門店【貴金属】（統括）	販売量の動き	・販売量の動きが数か月前から鈍く、景気はやや悪い状況のままでも余り変わっていない（東京都）。
	□	高級レストラン（店長）	来客数の動き	・以前と比べて来客数や予約数にさほど変化はないものの、業態や取組により売上や業績に開きがある（東京都）。
	□	高級レストラン（営業担当）	来客数の動き	・4月度の実績は、売上は前年比100.4%、来客数は前年比97.2%である（東京都）。
	□	高級レストラン（販売担当）	販売量の動き	・販売量の大きな変動はないものの、高価格帯商材の販売は鈍い。支出削減の動きが推測される（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	<input type="checkbox"/>	高級レストラン (経理担当)	お客様の様子	・宴会の受注は数か月間一定の水準を維持しており、レストランの来客数も高水準を維持している（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・3か月前と比べてそれほど変化はない。3か月前の1月は人の動きが余りなく、レストランの売上はそれほどなかったものの、新年会などのケータリングでカバーできた。今月も前年同月と同じくらいで、余り変わらない。
	<input type="checkbox"/>	一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・物価高などの影響により、3か月前と比べて客がややシビアになっている。何もかもが値上がりしているが、まだ序の口だと考えている。
	<input type="checkbox"/>	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・今月は各種団体の総会やメーデーの帰りなどに団体予約が入っており、新年会が多かった1月と同じくらい予約数がある（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・雪解けが例年より早く、スキー場が予定よりも早くクローズするなどの影響が出ている（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	旅行代理店（営業担当）	それ以外	・中東の海峡封鎖によりガソリン価格や農業の経費に影響が出ると、車を使って観光に行く人が減る。交通機関も燃油サーチャージを導入するとすれば航空機利用は減少し、それならばと近所や自宅で過ごす人が増える。
	<input type="checkbox"/>	タクシー（団体役員）	来客数の動き	・良くなる要素がない。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（社員）	お客様の様子	・景気の後退を予感させる出来事が続いている割に、スポンサーは変わりなく継続しており、順調な様子である（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・前年と比べて販売数量に大きな変化はみられない。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（局長）	販売量の動き	・B to Cは引き続き、テレビ、固定電話サービスは厳しいが、固定インターネットとモバイルサービスは順調に推移している。B to Bは上昇傾向にあるものの、不確定要素が大きい（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新規加入、コース変更共に無駄を省き必要最小限の内容を選択する意識は相変わらず強い。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・毎月利用料をもらうサブスクリプションの業態だが、最近では利用料を下げたいという問合せが増えている。客が、毎月掛かる費用に対して敏感になっている（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（経理担当）	お客様の様子	・暖房を使わない季節になり、光熱費が下がったものの、4月からの値上げで相殺されている。暑くなりエアコンを使用するようになるとどうなることかという話を聞くことがある。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（管理担当）	販売量の動き	・サービス提供エリアの一部で通信回線を光ファイバー化しているが、そのエリアにおいても加入客数の増加を想定どおりに進められていない（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・現状は市場に大きな変化はない。半導体不足の問題等もあり、長期的にはチューナー等の資材確保が問題になる可能性がある（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	ゴルフ場（経営者）	単価の動き	・来客数の動きは悪いものの、客単価は微増しており、全体の売上には影響が少ない。
	<input type="checkbox"/>	競輪場（職員）	お客様の様子	・例年どおりで変わらない。
	<input type="checkbox"/>	その他レジャー施設〔映画〕 (営業担当)	来客数の動き	・企業業績、株価共に3か月前と比べて大きな変化はない（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	その他レジャー施設〔総合〕 (経営企画担当)	来客数の動き	・中東情勢の緊迫化により、中東や欧州からの集客に影響が出ているものの、アジアや米国、オーストラリアからの集客により、全体の来客数に変化はない（東京都）。
	<input type="checkbox"/>	その他サービス〔立体駐車場〕 (経営者)	お客様の様子	・良くない状況のままで、特別変わりはない。
	<input type="checkbox"/>	その他サービス〔葬祭業〕 (経営者)	競争相手の様子	・月初めにまとまった依頼が入ったものの、中旬以降は動きがない。
	<input type="checkbox"/>	設計事務所（経営者）	販売量の動き	・前月と全く変わらず、余り良くない。新しい仕事の指名が減っており、一般客の動きも、決定打がなく、滞っている。行政の仕事も大変少ない。新年度のため、これからの期待している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・今月の販売量は目標数字の約92%となり、3か月前と比べるとやや落ち込んでいるものの、景気は変わらない。みらいエコ住宅2026事業の申込みが始まり、客に動きが出ている。中東情勢の影響によるナフサの供給不足及び価格高騰の影響はまだ出ていない。
	□	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・4月にしては良い。
	□	住宅販売会社 (従業員)	それ以外	・中東情勢の影響により資材価格の高騰が懸念される。現時点での影響はないものの、値上げの通達はきている。今後可能な限り価格転嫁を実施していくが、販売への影響は避けられない。
	▲	一般小売店〔食料雑貨〕(経営者)	来客数の動き	・消費行動が全体的に少なくなっている。
	▲	一般小売店〔祭用品〕(経営者)	来客数の動き	・物価上昇の影響により消費が少なく、より安価な方へ流れている。インターネット販売に頼る消費者が多く、来店しても試着のみなど、購入していかない。
	▲	一般小売店〔米穀〕(経営者)	お客様の様子	・客が買物に非常に慎重になっている。また、多くの客から物資、物価高への声が聞かれる(東京都)。
	▲	一般小売店〔酒類〕(経営者)	お客様の様子	・物価上昇、社会情勢への不安から、酒の需要が減っているようである。
	▲	一般小売店〔茶〕(営業担当)	販売量の動き	・客の高齢化に伴い、1人当たりの新茶の配送件数が減ってきている。
	▲	一般小売店〔書店〕(総務担当)	それ以外	・売手市場の影響により、当社の事業継続に不可欠な人材の確保に苦戦している。繁忙月であるにもかかわらず、売上増加に見合う戦力が不足している(東京都)。
	▲	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・担当している食品部門は、現在1年間を掛けてリモデルが進行中である。一部テナントの閉鎖や移動などをしながらの運営のため、前年比では3%減少で推移している。富裕層向けの高額宝飾品は、値上げ前の特需などもあり、今までどおりの需要が続いている(東京都)。
	▲	百貨店(総務担当)	販売量の動き	・全般的に売上の伸びが鈍化しており、やや悪い状況が続いている。特に、今月は時計を始めとする高額品の動きが悪く、全体の数値を押し下げており、前年売上に対して若干未達となる見込みである。なお、物価高の影響もあり購入単価は上がっているものの、買上点数の減少が顕著となっている(東京都)。
	▲	百貨店(販売促進担当)	お客様の様子	・売上は前年を上回っているものの、アパレルを中心に買い控え傾向がみられる。入学等のオケージョンニーズや紳士のビジネス需要が動かない。一方、ビル内のファストファッションは好調に推移しており、客の節約志向が顕著である。
	▲	百貨店(企画宣伝担当)	来客数の動き	・物価上昇に伴い、生活防衛意識も高まっている。生鮮食品など生活必需品の売上は従来と変わらないものの、衣料品など不要不急の商材売上は落ち込んでいる。特に、買上客数の減少が大きい。
	▲	百貨店(管理担当)	単価の動き	・従来からの物価上昇に加え、中東情勢の影響による様々な製品の値上がりや品不足が発生し、購買意欲の減退が予想される(東京都)。
	▲	百貨店(管理担当)	販売量の動き	・食料品カテゴリーにおいて、物価高の影響により単価が上がっているため、販売量が若干減少しており、売上の伸びが鈍化している(東京都)。
	▲	スーパー(経営者)	来客数の動き	・中東情勢などの影響が徐々に始めている。この先、いろいろな物の値上がりが予想されるため、客は買い控え意識が強い。
	▲	スーパー(経営者)	単価の動き	・消費者の節約意識が一段と強まっている。
	▲	スーパー(仕入担当)	単価の動き	・前年の米騒動の反動で、前年比では単価、来客数、売上いずれも前年を割っている。
	▲	スーパー(ネット宅配担当)	来客数の動き	・4月上旬からの天候不良の影響が大きく、全体的に来客数が減少している。
	▲	スーパー(食品担当)	来客数の動き	・来客数は前年比98%だが、商品単価が上がっていることで売上は前年を上回っている。決して景気動向は良くない(東京都)。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・急激に売上が減少している。さらに、アルバイトが一向に集まらず、過去に経験したことの無い悪化が続いている。
	▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・桜の時期に降雨が多く、花見客が少なかった。たばこの値上げによる影響もある。
	▲	コンビニ（経営者）	単価の動き	・当店もいろいろとイベントをして客を引き付けようと努力はしているものの、客が乗ってきてくれない。
	▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・コンビニ業界では来客数が大きく減っており、当社では前年比93%くらいである。他の業態やミニスーパー等に客が取られていることと、物価高によりコンビニ価格がやや高い印象があるためではないかと考えている。
	▲	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・今月の売上は前年同月比98%の見込みである。このところ同様の状態が続いており、来客数も98%程度となっている。客は外出を控えている。
	▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・原油価格の高止まりによる影響により物価高が一段上がったようである。商材価格が高いためにコンビニ離れが進んでおり、前年比では5%ほど来客数が減少している（東京都）。
	▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・たばこの増税の反動による来客数の減少や、その他買い回りによる周辺購買の減少により、若干減少傾向にある。前年比では伸び率が直近に比べて鈍化している（東京都）。
	▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・店舗周辺施設のイベントが増えてきているが、平日の通勤、通学客が前年と比較して減少傾向にある上に、物価高の影響からか買上点数の減少傾向もみられる（東京都）。
	▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の動きの悪さに比例して、販売量の動きも低下している。メイン商材であるおにぎり等も5%程度落ち込んでおり、3か月前と比べて悪くなっている。
	▲	衣料品専門店（従業員）	お客様の様子	・客が世の中に対する不安をよく口にしており、必要最小限の物しか買っていない。また、価格にもシビアで、余り買わないため、やや悪い。
	▲	衣料品専門店（販売促進担当）	それ以外	・中東情勢の影響によりコストが高騰している（東京都）。
	▲	家電量販店（店長）	お客様の様子	・物価上昇に加え、中東情勢の影響による今後の燃料などの不安がうかがえる。
	▲	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・購買意欲が低下しているため、やや悪くなっている（東京都）。
	▲	乗用車販売店（販売担当）	単価の動き	・物価が上がっているため、車にまつわる付属品及び整備料金などの価格について、客が相当シビアになっている。新車を買わずに中古車を買ったり、車検についてもできるだけ部品交換をせずに済ませたりしている（東京都）。
	▲	乗用車販売店（営業）	お客様の様子	・下取り価格が下がってきている。
	▲	その他専門店 [ガソリンスタンド]（団体役員）	それ以外	・中東の海峡閉鎖の影響により、特に工業用潤滑油で欠品が発生している（東京都）。
	▲	その他小売 [生鮮魚介卸売]（営業）	単価の動き	・直接的には原油調達の問題に伴う値上がりの影響がある（東京都）。
	▲	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・中小企業や小売業では、資材を始めとしてほとんどの仕入価格と管理費が上昇しており、価格転嫁が思うようにはできていないところが多い。中東情勢は依然として不安定であり、今後については全く予断を許さない。
	▲	その他飲食 [居酒屋]（経営者）	お客様の様子	・来客数が明らかに減っている。飲食店街の人通りも少なくなっている（東京都）。
	▲	旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・中東の海峡封鎖により様々な物が入ってこなくなり、ガソリン価格や諸物価が上昇しているため、客が遠出に二の足を踏んでいる。旅行ではなく、近くのファミリーレストランでおいしい物でも食べようという状況では、我々の仕事には結び付かない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・新年度となり、毎年旅行をしている団体は企画をする時期である。例年同様の動きである。
	▲	旅行代理店（営業担当）	単価の動き	・価格転嫁ができていない（東京都）。
	▲	タクシー運転手	お客様の様子	・朝は一般家庭から駅、病院への送迎に始まり、会社の送迎と夕方までは仕事ができている。夜は飲み屋からのオーダーが少ないため駅待ちをしているが、待機時間が長い。
	▲	通信会社（社員）	それ以外	・石油の供給不安から来る値上げや供出抑制により、一般消費者向けビジネスの経営が混乱している。保守にかじを切らざるを得ず、しわ寄せが確実に消費者負担に結び付いている（東京都）。
	▲	ゴルフ場（従業員）	それ以外	・今後のエネルギー供給に対する不安とともに、現実的にあらゆる物価の高騰が続き、生活に影響を及ぼしている。
	▲	ゴルフ場（経理担当）	来客数の動き	・中東情勢の影響により経済の先行きが不透明となっているなかで、プレーヤーが高額なビジター需要の低迷は特に著しく、物価上昇及び実質賃金低下を背景に、生活防衛を意識した高額レジャー支出抑制の動向が定着している。来場者の中心が会員であることから、収益の確保は困難である。物価高により営業費用は累増の一途をたどっており、利益の創出が難しい。
	▲	パチンコ店（経営者）	来客数の動き	・不安定な中東情勢が諸物価の上昇を加速させており、消費者が財布のひもを引締め始めている。
	▲	その他レジャー施設 [ボウリング場]（従業員）	お客様の様子	・ファミリー層の客単価が落ちている（東京都）。
	▲	その他サービス [保険代理店]（経営者）	お客様の様子	・客が購入をちゅうちょしている。仕入単価が上がってきていることも要因の1つである。
	▲	設計事務所（職員）	それ以外	・中東情勢の緊迫化による建築資材等の受注停止や資材価格の高騰など、ただでさえ建設費高騰の流れが止まらないなかで、建築事業の中止や延期といった影響が出ている（東京都）。
	▲	住宅販売会社（総務担当）	それ以外	・中東情勢の先行きが読めず、受注には影響がなくとも原油由来製品の仕入れに支障が生じる。回復するまでは、在庫物件の販売等で乗り切るしかないが、数に限りがある。
	▲	その他住宅 [住宅資材]（営業）	販売量の動き	・一時的な大量受注があったとしても継続的なものは少なく、全体的には建材需要の通減が顕著になっている（東京都）。
	×	一般小売店 [家具]（経営者）	販売量の動き	・本来3～4月は入学や人の移動が多いが、来客数が非常に少なく、販売量も芳しくないため、景気は悪い。やはり中東情勢や原油調達の問題があり、耐久消費財を買うところまでは手が回らないとみている（東京都）。
	×	スーパー（販売担当）	単価の動き	・安価な物の動きが良く、高価な物の動きは悪くなっている。
	×	乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・物価上昇の影響により、悪くなっている。
	×	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・決算後でもあり、活動量が大幅に減ったことに加え、著しく需要が落ちている。また、世界市況が不透明なこともあり、買い控えもある。
	×	その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	お客様の様子	・原油調達の影響に物価高、増税と、将来不安が先行しており、賃金上昇等の明るいニュースもないため、景気が後退するのも必然である（東京都）。
	×	高級レストラン（役員）	それ以外	・引き続き中国からのインバウンドは減少しているものの、その他の国からのインバウンドは良い。ただし、中東情勢の影響による不安感の継続、増加により、来客数は横ばいである。仕入価格の高騰、物価高は変わらず、景況感は依然として厳しく不安な状況が続いている（東京都）。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・繁華街で飲食店をしているが、夜に全く人が歩いていない。世の中は飲みに行こうという景気ではないのだろうか。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	その他飲食〔カフェ〕（経営者）	単価の動き	・客の様子を見ていると買い控えをしているようで、必要な分しか購入していない。し好品や外食は後回しになっている（東京都）。
	×	観光名所（職員）	来客数の動き	・物価高や中東情勢の影響による燃料価格上昇に加え、青森と北海道での地震の影響もあってか、節約のため外出を控える動きなのか、客足が鈍くなっている（東京都）。
	×	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・建設資材の不足、価格高騰の先行きが見えず、停滞している事業が多い。
企業 動向 関連  (南関東)	◎	*	*	*
	○	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・建設機械の業界では、生産数が急に増え始めている。
	○	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・2か月前までがコロナ禍並みに悪かったため、それと比べればやや良くなっている。
	○	電気機械器具製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・半導体製品を筆頭に電子部品の需要が高い状態が継続しており、大口価格の高値もキープしているため、景気としては良くなっている。
	○	精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は増えてきているものの、仕入コストも増えている。差引きすると、まだ何とかプラスである。
	○	不動産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ホテル宿泊需要は中国以外に東南アジアなど新たな地域が増えており、引き続き堅調である（東京都）。
	○	その他サービス業〔警備〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・入札で受注が増え、売上が伸びる見込みである。ただし、利益は厳しくなる。
	○	その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が増えているものの、要員不足から受注を断らざるを得ない（東京都）。
	○	その他非製造業〔商社〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注の動きからみて、やや良くなっている（東京都）。
	□	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・地道な販売促進活動のお陰で来客数、売上共に上向しているが、客単価は下がっている。
	□	プラスチック製品製造業（経営者）	取引先の様子	・中東情勢の影響による材料の値上げや入荷制限の情報が頻繁に入ってくるようになってきている。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・中東情勢の影響に関して、今後の生産能力について質問されることは多いが、今のところ実際に影響で仕事が減ったということはない。ただし、時間の問題ではないかと考えている。
	□	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・物件価格の高止まりにより流通が滞り気味であり、現在も何となく停滞している。
	□	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・軽油の価格は落ち着いているようだが、ここ数年毎年実施している人件費のベースアップが効いてきている（東京都）。
	□	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・閑散期のため物量は落ち着いている。そのなかで、燃料価格の高騰は続いており、収益が伸び悩んでいる。
	□	金融業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・業種によってばらつきはあるが、当エリアの根幹業種である製造業は、依然として落ち込んだ受注に大きな回復の兆しはみられない。売上ベースでの金額の伸びは価格転嫁の恩恵のようで、最終損益は落ち込んでいる取引先が多い。ただし、建築関連企業は戸建て住宅やマンションを問わず受注が多少回復している。
	□	不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・物価上昇が激しい（東京都）。
	□	不動産業（総務担当）	取引先の様子	・中東情勢の影響により先の見通しが立たないため、期間、賃料など契約内容の変更に対するテナントの対応が変わってきている（東京都）。
	□	税理士	それ以外	・夜に近隣駅まで飲食店を外から観察しているが、新型コロナウイルス感染症発生前のような混み具合ではない。以前は混んでいた店でも、そこまでではない（東京都）。
	□	社会保険労務士	取引先の様子	・補助金や助成金を利用したい会社が多く見受けられる（東京都）。
	□	その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・突発的な依頼はあるものの、値上げ等の影響もあり、全体的な受注量はやや低迷気味のままで変わらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	繊維工業（従業員）	取引先の様子	・業界的には、中東情勢の混乱と不透明化が長引くと、深刻な影響が出てくる。実際、染色の発注について、通常であれば1か月くらいで納品されるが、現在は3か月くらい掛かる見込みである（東京都）。
	▲	出版・印刷・同関連産業（経営者）	それ以外	・原材料価格の高騰と需要減少の影響により、受注が減少している。
	▲	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・印鑑やゴム印、名刺印刷の仕事を、店頭とインターネットでしている。例年4月は年度替わりで仕事が増えるが、会社設立印の注文が1月は5本あったところ今は3本しかない。印鑑リフォームに関しては、1月は10万円のところが4月は2.3万円くらいで、やや下向きである（東京都）。
	▲	輸送用機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・中東情勢の影響により、自動車メーカーが中東への輸出を控えている。
	▲	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・原油調達の問題で、資材価格の高騰や納入できない品物が出てきており、工事が止まりそうである。
	▲	輸送業（経営者）	それ以外	・燃料を始めとする車両関連資材、また、ラップフィルム等の輸送関連資材の価格高騰のみならず、購入先からの販売量の制限要請もあり、輸送を取り巻く環境が悪化している（東京都）。
	▲	輸送業（経理担当）	それ以外	・中東情勢の影響により燃料価格が安定せず、先行きが不透明である。
	▲	金融業（総務担当）	取引先の様子	・取引先の建設業では、中東情勢の影響によりユニットバスやトイレが品薄状態となり、納期に間に合わなくなってきた。運輸業では、人手不足や燃料費の高騰から利益が減少している。小売業では、客は少しでも安価な物を求め、余計な物の購入を控える傾向にある（東京都）。
	▲	金融業（支店長）	取引先の様子	・原材料価格の高騰分を転嫁できていない。
	▲	不動産業（経営者）	取引先の様子	・中東情勢の影響により、リフォーム業者等、工事関係者から部材の値上げや入荷未定などの情報が多数寄せられている。リフォームや修繕工事の完了時期が見通せない上に、部材の値上げも続いている（東京都）。
	▲	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量自体は大きな減少はなく横ばいで推移しているものの、取引先ではAIを活用した内製化が進み、従来依頼されていた業務の一部が減少している。その一方で、短納期や難易度の高い案件が増える傾向にあり、業務負担の増加を実感している。また、例年この時期に受託していた比較的大きな案件が、発注先変更ではなく事業自体の中止により発生しなかったことも影響している。新規出店は増えているものの、初期投資を抑えた小規模スタートが多く、全体としてやや慎重な動きがみられる（東京都）。
	▲	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・例年3月が最も良い月だが、それと比べると雲泥の差である。前年同月とほぼ同じくらい悪い（東京都）。
	▲	広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・世界情勢や円安などによる影響が大きく、クライアントの慎重な姿勢が目立つ（東京都）。
	▲	経営コンサルタント	取引先の様子	・物価高に加え、中東情勢などの不透明感からか、消費者の動きが鈍いという客の声が多い。
	▲	経営コンサルタント	取引先の様子	・原油に関連する樹脂系原料が大変な状況になり、その余波が間もなく来る。既に各種材料が値上がりしつつあり、中小製造業の経営を圧迫している（東京都）。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度末の忙しさが落ち着き、受注量が大幅に減っている（東京都）。
	×	出版・印刷・同関連産業（所長）	それ以外	・原油調達の問題に伴う資材価格の高騰や原材料不足による受注停止等が発生している。特に、フィルム等の印刷物に付随する物が値上がりしており、非常に厳しくなっている（東京都）。
	×	電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・石油の輸入状況からみて、悪くなっている（東京都）。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	建設業（経営者）	競争相手の様子	・建築確認の取得に時間が掛かるようになったことと、中東情勢の影響があり、先が見えない。
	×	税理士	取引先の様子	・中東情勢が緊迫化し、先が見えないため、原油価格の上昇による更なる物価上昇が予想される。航空運賃の値上げは必至であり、それによる旅行控えやインバウンド減少が目に見えている。
雇用 関連  (南関東)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・課題解決型の請負案件の受注が増加している（東京都）。
	□	人材派遣会社（支店長）	それ以外	・4月の新卒採用に伴い派遣依頼は減りつつあるものの、前年は超えており、引き続き堅調である（東京都）。
	□	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・求人はあるが、増員というより欠員補充である。
	□	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・現状では足踏みしている。人材派遣長期稼働数は、3か月前と比べて横ばい、前年比では105%であり、景気は一時的な悪化への警戒が必要な状況である。特に、中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の高騰が、運輸コスト増加や原材料費の負担増加を招き、企業の心理を冷やし始めている。また、家計への影響では、物価上昇が続くなか、消費者の生活防衛意識が強まっており、飲食やサービス業の景況感が弱含んでいる（東京都）。
	□	人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・製造業からの技術者の派遣引き合いは変わらず多い。製造業の景気に悪化はみられず、やや良い傾向である（東京都）。
	□	求人情報誌製作会社（経営者）	求人数の動き	・中東情勢の影響が出始めており、せっかく上向いてきた景気に水を差されている（東京都）。
	□	求人情報誌製作会社（広報担当）	求職者数の動き	・ここしばらくの動きとして、求職者側に有利に世相が動いている。転職によってテレワークが増えたり、給与水準が上がったりしている例をよく耳にする。この状況はしばらく続く（東京都）。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	求職者数の動き	・新卒採用に焦りが無い（東京都）。
	▲	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・一部の製造業では、中東の海峡封鎖の影響により必要な材料が入らず、生産計画の変更により休業やオーダーのキャンセルが発生している。
	▲	人材派遣会社（社員）	それ以外	・物価の上昇に賃上げが追い付いていない（東京都）。
	▲	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・4月採用に向けて年間で最大の求人依頼が入る2～3月の繁忙期を過ぎたため、やや悪くなっている（東京都）。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・年度末までは各企業において人材採用ニーズが高まり、求人数が増加していたが、4月に入ってから落ち着いている。例年4月には落ち着きを見せるため、例年どおりの推移である（東京都）。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・事業所からも中東情勢の影響の話を聞くことがある。新規求人数は減少している。
×	*	*	*	

## 5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (甲信越)	◎	遊園地（職員）	来客数の動き	・1か月を通して週末の天候に恵まれた上、大人数の団体客の来園もあり、多くの客でにぎわっている。
	◎	その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・今月は各種依頼が多い。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・4月に入り、人の動きがあり売上も増加している。今のところは安定しており、気温差もあるため、温冷どちらの温度帯の商材も売行きが良い。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・前月からの流れが続き、法人、個人共に動きがあり、落ち込むことが少ない。遠方から人が集まるライブが例年より多かったこともあり、増収につながっている。
	○	タクシー（経営者）	お客様の様子	・新年度に入り、官公庁や各種団体の会合等があるため、順調である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	○	通信会社（社員）	販売量の動き	・景気そのものとの関係性はないと考えるが、これまで右肩下がりだったテレビサービスが、若干ではあるものの上向き傾向にある。
	□	商店街（代表者）	販売量の動き	・当店では、新年度に向けては新入生向けの学校販売を主に行っているが、今までであれば1人で2～3着を注文、購入していたところ、1着のみで、期待外れである。
	□	一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・経済が安定していない状況に消費者が慣れてしまったのか、消費意欲がみられない。ただし、家電業界においては2027年の規定変更を控え、照明器具のLED化や安価なエアコンの需要は伸びている。これは必要に迫られての購入で、景気に関係するとは考えにくい。
	□	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・食品催事、生活雑貨、寝具、パジャマ、インテリア関連は、新生活のスタートに当たり堅調に推移している。しかし、依然として続く中東情勢の影響による原油危機で、燃料や材料価格の高騰に伴い、積極的消費には結び付いていない。特に、食品総菜、化粧品等のデイリーユースが軟調に推移している。
	□	百貨店（店長）	販売量の動き	・物産展やイベント開催などで買い控えはまだ見受けられない。時期的に春は目的買いも多く、切り詰めている様子もない。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・値上げをしているものの、1品単価の伸びが鈍く、消費者の低価格志向が強まっている可能性がある。
	□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・天候が安定しないため、現状、売上はやや厳しい状態である。
	□	家電量販店（店長）	来客数の動き	・相変わらず、来客数の減少が続いている。
	□	自動車備品販売店（従業員）	お客様の様子	・物価上昇により単価は上がっているものの、来客数は減少しており、節約志向がうかがえる。
	□	一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・天候が良くなり、観光シーズンに入ったことから、人の動きが若干出てきている。
	□	スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数は減少したまま変わらない。いろいろと値上げしているため、売上は増えているが利益は変わらない。自転車の交通取締りが始まったことで、仕事帰りに酒を飲む文化はかなり衰退していくのではないかとみている。当店も食事を軸にメニューの見直しをしているが、なかなか難しい。
	□	都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・3か月前と比べて、客室単価は10%以上上がっている。これは季節要因と今月は市内でイベント等があり、ある程度の金額でも客が利用してくれたからである。ただし、宴会に関しては、1月の新年会と比べると4月の歓迎会の単価は1000円くらい下がっている。
	□	タクシー運転手	販売量の動き	・諸物価が上がり、客の財布のひもが固くなっている。
	□	通信会社（社員）	販売量の動き	・時期的な需要も例年縮小傾向にあり、コストは増大している。
	□	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	来客数の動き	・今月上旬は春休みのため、子どもや学生を中心に集客できた。中旬～下旬は勢いはなくなったが、常連客が戻り始めている。団体利用はやや減少したものの、それを超える一般客の来場がある。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・物価高や中東情勢等、先行きの不安からか客の財布のひもが緩まなくなっている。
	▲	スーパー（経営者）	来客数の動き	・来客数は微減で、花見行楽もぱっとしない。節約志向がみられる。
	▲	スーパー（経営者）	来客数の動き	・前年比では、売上は8%減少、来客数が11%減少している。2月、3月と増加していたが、当店から少し離れてはいるものの、大型店が2店舗開店したことも影響していると考え。前年4月は当店の支店のオープンがあり、開店の商品供給で売上が増えていたため、前年を下回ったとも考えられる。5月から消防署への納品が加わり、12万円ほど売上が増える。来客数が減った分はほかでカバーしたい。
	▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の減少、買上点数増加の傾向は変わらない。週末などのまとめ買いが以前より顕著になっている。また、夜間の値引き商材を狙って来店する客も以前より多い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・物価上昇や中東情勢の影響が色濃く出てきている。
	▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・今月は行事等があっても、特に大きく伸びるということがなく、やや厳しい。
	▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・中東情勢を始めとして、物価高に対する懸念が強くなるなか、新車購入をためらうケースが増えている。
	▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・物価高の影響により、多くの客が買い控えを余儀なくされている。また、客が購入を希望する車種がオーダーストップとなっており、販売につながらない。中東情勢の変化により、エンジンオイルを含む油脂関係が全く入荷せず、サービス部門にも悪影響が生じている。
	▲	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・国際情勢の不安定さから、物価高騰が止まらない。先行きに対する不安もあってか、外食自体減ってきている。
	▲	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・従来、新年度は各種団体や企業の会議や宴会、同窓会等、地元のグループの需要が多かったが、今年はこの需要が半減している。首都圏からの客も連休が5月に偏っているため、4月の需要は少ない。インバウンドは主要顧客である香港や中国からの客は少ないものの、従来は少なかった北米や欧州からの客がやや増加している。インバウンド全体ではやや減少している。
	▲	旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・客の動きが鈍い。遠出を避ける傾向が強くなっている。ゴールデンウィークもやはり安近短の傾向で、海外旅行も円安の影響を受けて足踏み状態である。
	▲	観光名所（職員）	お客様の様子	・国内観光客が減少している。インバウンドの来客は多いものの、買物はしていない。
	▲	ゴルフ場（副支配人）	来客数の動き	・ガソリン代など物価上昇の影響か、来場者の伸びが悪い。特に平日の来場者は、金額を見ながら動く状況が続いている。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・当地だけの問題ではないと考えるが、中心街とは名ばかりで、買物客はもちろん、仕事の人を含めても人通りを実感できる状況はほとんどない。
	×	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・先行きを考えてなのか、客の様子をみてもやや悪くなっている。
	×	その他専門店〔酒〕（店長）	単価の動き	・売上自体はどちらともいえない。価格が上がっても売上は前年を超えてプラスだが、中東情勢の不透明さもあり、単価が非常に上がり、当店以外の諸物価も上昇している。こうしたなかで酒を選んで購入してくれるのか、非常に危惧している。単価には特にシビアになっており、一部には高い物を買う客も確かにいて、堅調で頼もしいが、容量を小さくしたり、購入回数を減らしたりするとみている。
企業 動向 関連  (甲信越)	◎	*	*	*
	○	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・特注品の受注対応が続いている。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・季節要因も多少あるが、受注量が少ないようである。
	□	金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・プラス面として、大手企業業績の好調さや賃金の上昇がある。マイナス面は、物価高騰が消費に悪影響を及ぼしていることである。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が減少している。新規、既存案件共に中東情勢の影響により材料の入荷が遅延しているため、どこも動きが悪い。
	▲	電気機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・原材料の入荷が心配で、思うようには受注ができない。
	▲	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・僱事では高額商材が動かない。店頭でも客足が伸びず、低迷している。金地金の高騰は、一旦収まったが、逆に値下がりを中心に心配して買い控える動きが出てきている。
	▲	金融業（調査担当）	取引先の様子	・現状では製造業の受注は底堅く推移しているものの、コスト増加の影響が収益を下押しする環境に変化はみられない。非製造業は物価上昇に伴う消費者の節約志向の高まりにより、消費の抑制傾向が強まっている。観光関連では、スキー場関連で気温上昇による伸び悩みがみられたが、入込客は底堅く推移している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	食料品製造業 (製造担当)	受注量や販売量の動き	・量販店の棚替えで当社の商材が天分削られてしまい、軒並み数量が落ちている。
	×	建設業(経営者)	取引先の様子	・中東情勢の影響により、材料単価の上昇や品不足が続いている。
雇用 関連  (甲信越)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	人材派遣会社 (営業担当)	周辺企業の様子	・新卒の獲得がうまくいかず、通年採用に切り替える企業が増えている。また、退職者が多く各企業は苦勞している。
	□	職業安定所(職員)	採用者数の動き	・中東情勢の先行きの不透明感から、原材料、光熱費や物価の高止まりが続くとの方から、景況感が改善してはいない。政策などもあり、直ちに景況感が悪化する状況ではないものの、中長期的には先行きへの不安が残る。
	▲	職業安定所(職員)	求人数の動き	・当所管内令和8年3月の有効求人倍率は1.28倍となり、前年同月比で0.04ポイントの下降となった。月間有効求人倍率が前年同月を下回るのは23か月連続となっている。
	▲	民間職業紹介機関(経営者)	求人数の動き	・派遣やパート以外の新規求人が鈍化し始めている。
	×	—	—	—

## 6. 東海(地域別調査機関:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)

(—:回答が存在しない、\*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (東海)	◎	*	*	*
	○	百貨店(販売促進担当)	販売量の動き	・富裕層の購買が活発になりつつあるため、高額品の動きが良い。
	○	スーパー(店長)	お客様の様子	・競合店の閉店に伴い、来客数が増加した。
	○	コンビニ(店長)	来客数の動き	・通常時の来客数はやや少なく、週末はやや多い。トータルでは前年より多くなっており、以前よりメリハリがある。
	○	家電量販店(店員)	単価の動き	・高単価なエアコンが自然に売れている。
	○	家電量販店(フランチャイズ経営者)	販売量の動き	・エアコンが売れている。エアコンと蛍光灯の規制の変更についてマスコミ等で取り上げられることが多くなり、安いうちに買換えたい客の来店が増えている。4月は台数が前年比150%程度になりそうである。
	○	観光型ホテル(支配人)	来客数の動き	・宿泊、宴会及び食堂共に前年比では増加している。中国の出国抑制の減少分は、国内需要でカバーしている。
	○	都市型ホテル(従業員)	来客数の動き	・都心部に用事があるが泊まれない客が多く泊まっている。
	○	都市型ホテル(総支配人)	来客数の動き	・レストランは、ランチや喫茶が比較的好調だが夜は弱い。宿泊は、前年並み。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・全体的に、雰囲気が明るい。
	○	美顔美容室(経営者)	販売量の動き	・今月からキープキャンペーンが始まり、新規客へのキープ品の販売がある。
	○	美容室(経営者)	来客数の動き	・12月は忙しかった。今年も1月～2月は寒かったため、客足が悪かったが、4月に入り、多少は人出が良くなってきた。
	□	商店街(代表者)	お客様の様子	・最近の商店街への来客数は飽和状態ではなく、食べ歩きや買物袋を下げた客が多い。
	□	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・一足を購入するために様々なデザインの靴を試し履きするが、考えると買って購入に至らない客が目立った。領収書を発行する客も2～3足異なるデザインの靴を履いた上で購入することが多いため、1人当たりの接客時間が長くなる。
□	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・運営商業施設における客の動向には特に変化がない。ターミナル駅は商業施設の状況が大きく変わったため、人流の変化がみられる。	
□	百貨店(営業担当)	来客数の動き	・住宅業界においては建築費の高騰に伴い、過去最高の売値を更新し続けているため、販売が伸び悩んでいる。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	百貨店（営業企画担当）	単価の動き	・物産展や食品改装テナントなどによる売上は好調に推移している。特に物産展は、値上げ影響分の売上は増えている。
	□	百貨店（販売担当）	単価の動き	・高額品の購入は引き続きみられ、購買意欲のある方は一定数みられる。中価格帯商品も動きはあるが、全体的な価格上昇により単価が上がっている。一方で価格面による買い控えもみられるため、良くなっている感じは余りなく横ばいと考え。
	□	スーパー（店員）	販売量の動き	・土日の売上が予想より上がらない。競合先に合わせ値段を抑えている。
	□	スーパー（販売担当）	来客数の動き	・単価の上昇は止まらず、買上点数は伸びていない。ただし、客が必要とみる物の購入は減っていないため、販売側がその動向を捉えている商品の販売は伸びている。まだ供給が不足しているものはないため、新型コロナウイルス時に発生した紙製品のパニック買いのようなことはない。
	□	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・春先に需要が増えるトレンド商材について、1人当たりの購入点数が減少傾向にある。特におにぎりやサンドイッチなどの軽食類は、相次ぐ値上げの影響がこの傾向が著しい。だからといって菓子類などの嗜好品が下落しているわけでもないため、客が買い合わせなどを考え、総額を気にしながら買物をしているとみる。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数は前年比5%マイナスである。売上は値上げ等の影響から前年並みを保っているが、総じてみれば景気は余り良くないとみる。
	□	コンビニ（商品企画担当）	来客数の動き	・新年度を迎え、駅利用も落ち着いた様子で売上はほぼ横ばいである。
	□	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・4月入社の新従業員用の備品購入は例年並みに安定しており、その他の備品購入目的の来客数も安定している。
	□	家電量販店（営業担当）	単価の動き	・月間通して購入来客数は伸び悩んだが、月中旬から月末にエアコンが売れ始め、月単価が上がった。結果、売上は大きくは変わらなかった。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月に関しては新車や中古車の販売量は予定どおりの動きをしており悪い印象は受けない。環境性能割の廃止でファミリー向けのミニバンを中心に売れていて、意外な効果が出ている。
	□	乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・販売台数は減少しているが、販売単価が上がっており、値引き競合もなくなり1台1台大切に販売することにより利益は確保できている。
	□	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・手にする商品価格はますます上がってきていると強く感じているが、買わないと生活できないと諦めのムードが強い。さらに、世界情勢の影響により原油由来製品の品薄が商品によっては実感されつつあり、今後どうなるのか不安感が大きい。
	□	高級レストラン（経営企画）	来客数の動き	・既存店では前年を超えてはいるが、平日と休日、昼と夜の差が大きく、特に法人利用は厳しい。
	□	その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	販売量の動き	・販売量は前年比102%前後で推移している。消費者は物価高を気にしてはいるが、販売量への大きな影響はみられない。
	□	都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・雨天日が多く集客には悩まされ、月次の目標に届かなかった。週末のイベント等が開催される日は比較的天候に恵まれたが、それでも入園者数は思ったほど伸びなかった。
	□	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・天候が暖かくなり旅行の問合せも増えてはいるが、やはり物価高の影響により思いとどまる方もいる。
	□	旅行代理店（経営者）	単価の動き	・早くも夏休み商戦がスタートしている矢先の海外原油サーチャージ料金値上げにより、かなり国内需要に流れ込んでいる。国内も北海道や沖縄はやはり人気のエリアだが、価格上昇の影響で値段の折り合いが難しいケースもあり提案も大変である。
	□	通信会社（サービス担当）	販売量の動き	・今までは個人の申込が多かったが、事業所の申込も増加している。アナログ回線終了に伴い、光回線を導入する事業所が増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	テーマパーク職員（総務担当）	来客数の動き	・中東情勢の影響で取引先からビニールフィルムやアプローチ商材が欠品する可能性を伝えられた。仕入先を変更したり対策を講じているが先行きが不安定。価格上昇も避けられない。
	□	パチンコ店（従業員）	来客数の動き	・競合店がオープンして来客数が大幅に落ちている。
	□	美容室（経営者）	お客様の様子	・中東情勢の影響が大きい。
	□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・中東情勢による影響で材料納入の遅れ、価格の高騰が始まっている。
	□	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・中東情勢の影響はあるが例年どおりの低調な年度スタートであった。
	□	その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	単価の動き	・動きはあるが単価があがらない。
	▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・この地域では20年に一度の神事が始まっている。活気付くイベントが始まる一方、物価高や米国の関税、中東と米国との関係の影響が大きく、観光業界に大きな影を落としている。
	▲	一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・花が咲いて値下げした商品を買う客が増えたようにみられる。花束等の予算も税込みでという注文が結構あり、配達料まで込みで予算をいわれることもある。
	▲	一般小売店〔贈答品〕（経営者）	お客様の様子	・石油製品が高くなったことにより、関係する資材の高騰が続いている。客は財布のひもが固くなり、少しでも安い物を探して買物をしている様子である。そのため、経済全体の消費は少し悪くなっている傾向であり、物価高に給料が追い付いていない側面もある。
	▲	一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	販売量の動き	・来客数は増えているがなかなか購入に結び付かない。通販の売上も伸びない。
	▲	百貨店（総務担当）	お客様の様子	・4月上旬頃までは、入店客数も3月同様に伸長し、衣料品や雑貨などの動きも好調であった。しかし、日を追うごとに中東情勢が混迷を極めつつある報道なども多くなり、消費者の生活防衛的な動きからか入店客数も少しずつ伸び悩み、売上も前年を確保できない日も見受けられるようになってきた。
	▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・ポイントや割引セール以外は売れなくなってきている。
	▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・平日の来客数が前年を超えない状況である。
	▲	スーパー（店員）	お客様の様子	・生活必需品は単価上昇含めて好調であるが、し好品中心に販売金額と数量共に前年の実績を下回る状況もみられる。
	▲	スーパー（店員）	お客様の様子	・4月の平均気温が20度を超えるようになって、食材を腐らせないように必要な分だけ買う傾向が見受けられる。春休みを迎え子供のお昼ごはん用の買物もあったがやはり限定的であった。
	▲	スーパー（店員）	来客数の動き	・例年同様、年度末から求職者数が増加しているが、今年度は物価高、人件費高騰による経営環境の悪化なども影響している。
	▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の減少が進んでいる。今までは来客数の減少を客単価の上昇により売上を補っていたが、カバーしきれなくなってきている。
	▲	コンビニ（店長）	お客様の様子	・各種、公共料金の支払等が重なった時期であり、支出が多く苦しい家計状況が見受けられた。ドリンク1本、おにぎり1個、パン1つといった1つだけの購入が多くみられた。1回の買物で千円以上を毎日購入していた客が、500円以内に抑えて節約され始めたのも自己防衛の現れである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	コンビニ（本部管理担当）	来客数の動き	・4月の売上は前年比97.4%。その内訳として来客数前年比96.8%、客単価前年比100.6%となっており、これまで継続していた物価高騰の影響による客単価の押し上げ効果が落ち着きを見せ始めた一方で、来客数の緩やかな減少傾向が顕著になってきた点は懸念すべきである。この来客数減少の主な要因については、株価の上昇や物価の上昇といった指標上の数字とは裏腹に、一般消費者の生活実感としての景気は決して上向いておらず、むしろ生活防衛意識が高まっていることが背景にあるのではないかと。
	▲	衣料品専門店（売場担当）	来客数の動き	・就職活動シーズンが終わり、スーツを必要とする人が少なくなった。新入社員や追加で買いに来る人もいるが、スーツというより軽いセットアップを探しに来る人の方が多くなっている。上下別々のサイズで選べるし、ラフな印象も与えられる。その他にはノーアイロンのワイシャツが売れているが、来客数は減っている。
	▲	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・中東情勢の影響によるガソリン代への不安や物価上昇等から支出を抑えようという動きも多い。
	▲	乗用車販売店（従業員）	それ以外	・全体の雰囲気から景気はやや悪くなっていると判断した。売れていないわけではなく、問合せもあるが、勢いや元気がない。出品されている車も今一つ売れていない。
	▲	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・物価高に対する買い控えがどんどん進んでいる。
	▲	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・4月から車を購入する際の税金（環境性能割）が廃止になり、その分総額が安くなっているのに客足は鈍い。中古車はそれなりに売れるが、新車は価格が上がっているせいかなか売れない。
	▲	その他小売 [ショッピングセンター]（経理担当）	それ以外	・新設鋼橋発注量や民間建設投資、鉄骨需要は低迷し、伸び悩んでいる。
	▲	一般レストラン（従業員）	販売量の動き	・ゴールデンウィークに出掛けるのを控えているのか、仕出し料理の注文が増えている。
	▲	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・前年比の来客数はこれまで増えていたが、3月以降は減少している。4月～6月の宿泊の予約数も前年より少ないため、景気としてはやや悪くなっている。中東情勢の影響や原油価格高騰の政情不安が顧客心理を冷やしている。
	▲	旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・原油価格高騰により海外渡航が厳しくなっている。
	▲	旅行代理店（経営者）	それ以外	・近隣の喫茶店やレストランの来客数が以前より減っており、夕食には無料でコーヒーを付け始めたり、周年記念として通常より割安なディナーコースを何か月も続けるなど必死で常連客のつなぎ止めをしている。逆に高級スーパーの来客数が増え始めたり、ドラッグストアが肉や野菜等のコーナーを拡充するなど競争の激化が進み始めている。外食から内食へと節約が静かにゆっくりと進んでいる。
	▲	旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・原油価格高騰の影響による燃油サーチャージが約2倍に値上げとなり、ゴールデンウィークの海外旅行の渡航者数の減少に影響している。旅行代金は家族単位で10～40万円程度増加しており、さすがにそこまで余暇に充てる余裕はない。
	▲	タクシー運転手	お客様の様子	・中東情勢の影響により様々な弊害が発生しているため、以前と比べても状況が非常に悪くなっている。本来この時期は上向き傾向であるはずが、全く逆の動きになっている。石油が入ってこないために本来では考えられない物価高になっており、客の買い控えが顕著になって非常に人出が悪い。早く中東情勢の問題を解決して本来の状態に戻してほしい。
	▲	テーマパーク（職員）	お客様の様子	・中東情勢の影響により欧米のインバウンドが減っている。
	▲	観光名所（案内係）	お客様の様子	・誰に聞いても、値上げがどんどんひどくなっていると返答がある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	ゴルフ場（経営者）	単価の動き	・良くなる要因がない。
	▲	パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・新年度が始まり、客は忙しい日々を過ごしているのだろうと推測する。実際に来店する頻度が落ち、売上が減ってきている。
	▲	理美容室（経営者）	来客数の動き	・天候が暖かくなり客が増える時期であるが、客は余り来ない。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・客からは値上がりやガソリンなどの中東の海峡封鎖に関する話題が多い。先が見通せないという声ばかりで、余り良い話が聞けない状況が続いている。
	▲	その他サービス〔介護サービス〕（職員）	それ以外	・中東情勢の影響により、資材やウレタン、プラスチック系素材を使った製品、商品等の緊急価格改定や発注制限が通達され、少なからず悪影響が出ている。
	▲	設計事務所（職員）	お客様の様子	・客から景気が良くなるという話は聞かない。
	▲	住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・中東情勢の影響により、大手企業でもナフサやシンナーの確保に苦勞し2か月先までのめどしかたっていない。また、主に塗料などの建築資材が不足しており、建築工事が止まり始めているとのことである。
	▲	その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	それ以外	・不動産業の社長に聞いたところ、購入希望者はいても、価格が高いためなかなか決まらず、ハウスメーカーの建売も余っていると言う。同業の不動産業者の間でも、過剰在庫で新築住宅も中古住宅も売れず、オイルショック以来の苦戦とのことで、この先厳しい状態が続くそうである。
	▲	その他住宅〔展示場〕（従業員）	来客数の動き	・住宅展示場に来場する人数は減少しており、実際のハウスメーカーの成約数も減少している。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・ガソリンを始めとする物価が更に上昇し続けており、物の買い控えの様子がみられる。
	×	一般小売店〔結納品〕（経営者）	販売量の動き	・毎年4月は多少景気は上向くが、今年はそうではない。
	×	百貨店（経理担当）	それ以外	・中東情勢の影響に伴う原油、石油製品高や金利の動向、株価の乱高下など先行きの不透明感から、全所得者層で慎重な消費姿勢が見受けられる。
	×	コンビニ（企画担当）	販売量の動き	・これまで来客数が前年割れの状態が続いていたが、それに加え売上も前年割れの状態となった。客単価の上昇で維持していた売上がついに維持できなくなった状況である。
	×	コンビニ（店長）	来客数の動き	・例年であれば2～4月にかけて徐々に売上が上がっていくが、今月は来客数が大幅に減り、2月並みの売上となってしまった。
	×	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・来客数は変わらないが、単品購入が多いため客単価が下がっている。例年は一見客の購入が多い時期であるが、今年は来店すらない。
	×	衣料品専門店（販売企画担当）	販売量の動き	・販売量が、前年比では70%ほどになっている。
	×	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・例年4月は需要が下がる傾向にあるとともに、最近では中東情勢が不安定なことも重なり、重苦しい空気が漂っている。
	×	バー（経営者）	来客数の動き	・歓送迎会は全くない。
	×	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・前年同月と比べると、新規加入数は2割減少、解約数は2割増加、最も件数の伸びる3月と比べると、新規加入は半減、解約数は同程度と、かなり悪化している。
	×	設計事務所（経営者）	それ以外	・ほとんど案件はない。
×	住宅販売会社（従業員）	競争相手の様子	・下請業者から休めるようになったと聞いた。	
企業動向 関連 (東海)	◎	—	—	—
	○	鉄鋼業（経営者）	それ以外	・年度替わりの季節要因で3か月前よりまだ良い。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先の設備投資がある程度期待できるため、今後が楽しみである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	○	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	それ以外	・人材不足のため派遣社員を何名か入れたが、全く定着しない。気に入らないとすぐに他へ行ってしまう。
	□	食料品製造業（社員）	受注量や販売量の動き	・各種原料価格の高騰を受けて、製品価格を改定した結果、一部商品について販売数量が低下している。
	□	化学工業（総務秘書）	それ以外	・目下の懸念は中東の海峡封鎖で、海外旅行組には大きな痛みはあるが一般市民にはさほど大きな負担は強いられておらず、株価の動向が映すように良好な景況感が保たれている。売手市場の採用状況、初任給の引上げや賃上げ報道も多く、景気は下向きではない。
	□	窯業・土石製品製造業（社員）	受注量や販売量の動き	・ほぼ全分野で客からの注文が順調で、今月も4月としては過去最高の売上となった。
	□	一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・今月は特に北米における半導体関連の設備投資が多かった。
	□	電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・業務は進んでいるものの、予定の範囲内で、良いとも悪いともいえない。
	□	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・相場とみられていた土地の販売価格について、なかなか反響がなかったため表示価格を下げたところ問合せが増え、成約につながった。
	□	通信業（法人営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・金融業顧客向けに通信サービスの相対契約を提案したが、価格交渉が難航するだけでなく、契約条件の細部にわたるまで既存契約を上回る条件交渉があった。ビジネスには必要不可欠な通信サービスボリュームを下げる所から経営改善を実施しようとしている様子が垣間見えた。とはいえ、新年度を迎えて早々となる4月に、景気が上向きや下向きになるかを示唆する分かりやすい動きは少なかった。
	□	金融業（企画担当）	取引先の様子	・主要な取引先が発注価格に関して、人件費単価を値上げする等の経費見直しを検討し始めている。
	□	不動産業（経営者）	それ以外	・例年よりも晴天の日が多いこともあり、前月までと同様に外出や遠出をする人が増加傾向にある。今月の売上は前年を上回っている。
	□	広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・主に紙媒体関係の原材料価格が上昇しているため、広告出稿も受注量を減らされる傾向にある。
	□	会計事務所（職員）	取引先の様子	・売上や利益が大きく変化していない。設備投資も必要最低限にとどまっている。
	□	その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・大きな変化はない。相変わらず各社の設備投資は慎重で、新しい物がなかなか出てこない。競合先も仕事量は少なく、手隙の状態である。
	▲	食料品製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が想定どおり上がってこず、消費の勢いが明らかに弱くなったようである。
	▲	パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	受注量や販売量の動き	・中東情勢の不安定化により、資材等の原材料価格が上昇しており、影響がある。また、円安も続いているため、受注量や販売量が減少して景気はやや悪い。
	▲	化学工業（営業担当）	それ以外	・中東情勢の影響により原料のプラスチック価格が大幅に上昇している。4月の出荷数量は微増であるが、収益は大幅に減益である。5月以降は原料値上げの価格転嫁を実施し、収益面は改善見込みではあるが、容器の出荷量は減少する見込みである。
	▲	金属製品製造業（従業員）	取引先の様子	・何といても中東情勢の影響による各資材の調達不安が広まってきている。シンナー系に始まり、幅広い資材で先行きが見通せず、客先と納期の相談がしづらい。
	▲	輸送用機械器具製造業（管理担当）	それ以外	・中東情勢の影響が続いていて原油価格高騰が続く。いろいろな物が不足し電気代にも影響が出る。
	▲	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・原油関連製品や並びにそれらに付随して販売される製品の出荷が減少している。
	▲	輸送業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・仕事量はあるものの、単価的に厳しくなっている。燃料代の高騰はもとより、各協力会社からは原油不足により資材調達が困難だと懸念の声が上がっている。そのうち、仕事の依頼があっても対応できない状況になるおそれがある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	輸送業（従業員）	それ以外	・原材料価格の高騰などのため収益に影響が出ると予想している企業がある。しかし、人手は足りない企業がほとんどである。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・仕事の量や工場では生産量にさほど底上げはない。ただし、物価やガソリン代が高騰しているため、生活費が圧迫され節約しなければならないという声をよく聞く。皆、節約志向であることから、景気はやや悪いと判断した。
	▲	金融業（従業員）	それ以外	・日常生活やニュースをみる限り、原油価格やナフサ不足の影響により、物価の上昇やガソリン価格の上昇が引き起こされ、ガソリンの供給量も不安定となっている。
	▲	会計事務所（職員）	それ以外	・石油不足により、備品や資材の値上げ、供給不足が発生しており、先行きが不透明な状態である。
	×	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が落ち込んでいる。引き続き受注残も減少している。
	×	通信業（総務担当）	それ以外	・消費者目線では、石油関連商品がどんどん値上がりし、購買がますます慎重になっている。ゴールデンウィークであるが、外出しようという行動に結び付かない。
	×	新聞販売店〔広告〕（店主）	取引先の様子	・新年度向けの販売量は増加しているが、価格改定が多く行われるようになってきた。
雇用 関連  (東海)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・3か月前と比べると求人数は増えているが、現状の景気は良くはない。
	□	人材派遣業（営業担当）	周辺企業の様子	・中東の海峡封鎖問題により、製造業に大きな影響が出ている。人員削減の可能性があるのでから景気は後退しているとみる。
	□	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・新年度に入り求人数は3か月前と比べると減少しているものの、前年同月比では横ばいで大きな変化はない。
	□	人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・株価は上昇傾向にあるが、物価高騰に対して引き続き賃金上昇が間に合っていない。
	□	アウトソーシング企業（エリア担当）	周辺企業の様子	・中東情勢の緊迫化とともに原油価格高騰に伴う資材価格の高騰、中東向けの自動車生産や輸出停止等、業界への影響が出ている。先が見えない状況が長続きすれば雇用維持、最悪は廃業や倒産が増加してくると危惧している。
	□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求人数について、3か月前と比較して、全体的に2.7%減と微減の状況であった。産業別では、運輸業・郵便業、卸売小売業、宿泊業・飲食サービス業の新規求人数が増加、建設業、生活関連サービス業・娯楽業の新規求人数は減少となった。
	□	職業安定所（職員）	それ以外	・有効求人倍率はほぼ横ばいで同水準を維持しているものの、新規求人数などは微減が続いている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・中東情勢の影響により、トラックにとって必須のエンジンオイルがなかなか入手できない状況にある。オイル交換の時期を延期するなどの対策も考えているが、最悪の場合、車両整備に甚大な影響を及ぼして事業運営に支障を来す事態も想定される。
	□	民間職業紹介機関（営業担当）	求人数の動き	・中東情勢の影響により、事業環境及び利益確保を目的として一部企業でのキャリア採用凍結の動きも見られる。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・自動車関連企業の派遣先で、6月末で業務終了の話が幾つか発生している。一方で、今後の業務終了件数を上回るほどの引き合いが獲得できていない。
	▲	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	採用者数の動き	・相変わらず高額商品よりも単価の低いお買い得な商品の動きは良い。客単価としては代わり映えなく、横ばいである。
	▲	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・催事の有無により月ごとの来客数は異なるが、前年と同様で大きな変化はない。
	▲	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・一部に中東情勢の影響はあるが大きな変化にまでには至っていない。
▲	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・縫製業の廃業が頻発していることや医院の廃業が複数発生した。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・登録者数は横ばいであるが、同業他社との競合が激化している印象を受ける。また、中東情勢の影響から募集を見合わせる取引先企業が出始めており、先行きが不透明である。

## 7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北陸)	◎	商店街（代表者）	来客数の動き	・売上は前年同月比で約8%増加となる見通しで、堅調である。客層の変化が鮮明になっており、前年まで売上の柱であった中国からのインバウンド需要が約半分に激減したが、フランスやドイツなど欧州、及び台湾からのインバウンドが数倍に増加し、その穴を完全に埋めている。また、日本人観光客による高額商材の購入も安定しており、特定の国やイベントに売上が左右されなくなっている。インバウンドの質の変化と国内需要の底堅さが、景気を押し上げている。
	○	一般小売店〔鮮魚〕（経営全般）	販売量の動き	・3か月前と比べると緩やかな改善傾向がみられる。単価は高くても買う価値があると客が認めた物や品質の高い商材についても、一定数の動きが見られるようになっている。
	○	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・冬場の天候不順から抜け出したただけだが、やや良くなっている。来客数は前年並みでもコスト増加が経営を圧迫している。
	○	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・気候に影響されやすいアパレル業において、春らしい落ち着いた天候は売上が安定させていると考える。
	○	家電量販店（店長）	販売量の動き	・新たな省エネ基準がメディアにも取り上げられ、エアコンの販売量が伸びている。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	来客数の動き	・施設のリニューアルに伴い商圏が拡大し、広域から集客できるようになったことで来客数が増加している。
	○	一般レストラン（統括）	来客数の動き	・経済状況に対する不安から物価が上がっており、年度末前後の消費動向を心配していたが、直近の動向は大きく変わることなく予想以上に客が来店している。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・今月の前半は天候に恵まれ、多くの人が花見で地元の観光名所が集まり、観光客も増えた。また、複数のクルーズ船が寄港し、多くの人が中心部に出掛けたため、タクシー利用が多く、良い状況である。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数はあるが、物価高や世界情勢の不安定さなどの影響か、前向きな話題を客から聞かない。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・春の観光シーズンが幕開けとなり、中旬以降は国内外からの観光客の姿が商店街に目立ち始め、飲食店やブランド品を扱う洋服店や宝飾店がにぎわっている。隣接する百貨店では下旬から食品イベントがあり、近隣の駐車場も混雑している。
	□	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・世界情勢が不透明ではあるものの、株高の影響で富裕層においては輸入時計や絵画など高額商材の購買需要が旺盛であり、好調に推移している。インバウンドによる売上も中国以外の国が好調であり、前々年実績には届かないものの前年実績は超える見込みである。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数は3か月前と比べて減少している。商品単価の上昇から売上金額は前年並みを維持しているが、フランチャイズビジネスとしては本部にロイヤリティを支払うため、値上げ分が全て利益とはならない。売上は維持しているが経費は増加しており、全体としては利益が減少している。来客数も新型コロナウイルス感染症発生前などと比べて3分の2程度となっている。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・石油関連の値上げが続いており、購買の心理的な負担になっている。
	□	家電量販店（本部）	来客数の動き	・全体としては堅調な水準である。新たな省エネ基準の改定を控え、現行基準のエアコンを購入したいという特需的な動きが広がっている。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・販売量がほとんど変わらない状況が続いている。新車の購入に対して慎重な様子は変わらない。
□	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車、中古車共に前年実績とほぼ同水準に収まり、客の購入意欲にも大きな変化がない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	乗用車販売店（経理）	販売量の動き	・新車需要は変わらずに推移している。
	□	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・不安定な世界情勢が続いており、耐久財への消費は後回しになっている感じが否めない。来客数も減っている。
	□	観光型旅館（経理）	それ以外	・2024年に発生した能登半島地震以降、休業状態が続いており、再開までにまだかなりの期間を要する。
	□	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊部門は引き続きインバウンドが堅調で、宴会部門は低調である。
	□	通信会社（職員）	お客様の様子	・客からの問合せ内容に特に変化がない。
	□	通信会社（役員）	販売量の動き	・通信、放送サービス共に獲得契約数が前年同期と比べて同様の数字で推移している。
	□	その他レジャー施設 [スポーツクラブ]（経営者）	来客数の動き	・中東情勢の影響により物価が上昇している。
	▲	一般小売店 [精肉]（店長）	単価の動き	・肉屋では牛肉の売上が余り芳しくなく、豚肉や鶏肉にシフトしている様子で、客単価が上がらない状況が顕著である。
	▲	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・終息が見えないウクライナ情勢や中東情勢など原油や食料品の高騰で世界経済の根幹が不安定で、先行きが見通せない状況であり、消費行動により慎重さがみられる。
	▲	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・4月に入り急に状況が悪化している。来客数や購買数の減少に加えて、低単価商材を探したり、比較検討するために欲しくても購入を先送りしたり、客が何も買わないという行動が増えている。ゴールデンウィーク前の外出に関する購入も非常に少ない。一方、買いやすい価格で話題性のある商材の動きは良い。また、一部の客においては、ラグジュアリー商材の消費が活発である。
	▲	スーパー（総務担当）	それ以外	・原油価格の高騰に伴い、生活必需品が値上がりしている。
	▲	スーパー（役員）	単価の動き	・中東情勢の影響が出始めている。消耗品などを中心に大幅な値上げが5月から始まる。
	▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・前年と比べ来客数が振るわない。コンビニの割高感もあり、近隣競合店に後れを取っている。店舗の売場改善等の対策は実施しているが、外部環境に依存する部分も大きいと実感している。
	▲	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・物価の上昇が続いている。商品単価の上昇で売上をカバーしているが、来客数が減少している。
	▲	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・平日の人の動きが特に悪い。
	▲	観光型旅館（経営者）	それ以外	・中東情勢による原油不足や、原油価格高騰などの影響による経費の増加を不安視している。
	▲	都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・国内の個人宿泊客が3か月連続で前年割れとなっている。
	▲	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・三陸沖を震源とする地震の影響などで団体旅行のキャンセルが発生している。
	▲	通信会社（役員）	それ以外	・半導体不足により、サービス提供に必要な端末が購入できないケースが出てきている。また、中東情勢の影響が長期化し、端末や工事費等の価格が上昇してきている。
	▲	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・物価高の影響もあり、個人客を中心に来客数が前年同月と比べてマイナスとなっている。
	▲	競輪場（職員）	販売量の動き	・記念競輪等の車券売上収入が前月に続いて下落している。石油製品などの物資不足による先行きの不透明感が影響している。
	▲	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・金利の上昇、中東情勢の影響による資材不足や不確実な納期などで、受注及び納期共に厳しい状況になってきている。住宅価格の上昇も影響している。
	▲	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・建築資材の価格上昇が止まる見通しが立たない状況が続いている。
	▲	住宅販売会社（営業）	お客様の様子	・中東情勢の急激な悪化による物価上昇を懸念し、買い控えの動きが一部で見られる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	商店街（代表者）	単価の動き	・少し人出があった目でも、売上を集計すると満足はいくものではない。原油価格高騰の影響により商品価格は上がっているが、客単価は落ちている。
	×	一般小売店〔書籍〕（従業員）	それ以外	・世の中の情勢が全てであり、悪くなっている。
	×	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・終わりのない物価高や中東情勢の影響により、し好品である酒類は消費者にとって優先順位が低い状態である。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・駅前周辺の居酒屋などは、相変わらず若い人が多く忙しいと聞いているが、客の年齢層が高い当店は厳しい状況である。景気が悪くなっているという話や、世界情勢の影響で物が入らなくなってきたりなど、厳しい話を客からは聞いている。
企業 動向 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・車載関連部品の受注はほぼ予定どおりで好調である。産業機器関連の受注は新型コロナウイルス発生前の水準に戻り、それ以上の受注が入っている製品もある。民生関連にも若干の動きが出ており、売上は上昇傾向となっている。
	○	精密機械器具製造業（財務担当）	受注量や販売量の動き	・引き続き販売金額は伸びているが、前期と比べて伸び率はやや低下している。
	□	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・能登半島地震での被災により多くの取引を失い、3回目の春の行楽シーズンを迎えたが、本来この時季に受注が伸びる業務用商材が低迷し、いまだ震災前の売上を大きく下回って推移している。さらに、中東情勢によるナフサ由来の資材価格の急激な上昇も重なり、収支は非常に厳しい状況にある。
	□	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は変わらずに推移している。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前となる1月は年初で前年からの繰越工事が多かったが、4月は令和8年度完成の大型工事の手持ちがあり、人余りにはなっていない。
	□	通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・中東情勢の影響は否めないが、いまだ各社の業績まで影響していないため、引き続き好調に推移している。
	□	司法書士	取引先の様子	・例年より高い価格帯の新築住宅が増えているが、数量は例年より少ないとみている。
	▲	プラスチック製品製造業（広報）	それ以外	・中東情勢による原油調達問題が影響している。樹脂の原材料調達に制限が掛かり、生産量が落ち込んでいる。
	▲	輸送業（管理会計担当）	受注価格や販売価格の動き	・軽油を始めとする仕入価格の高騰とともに供給量の制限も掛かりつつある。
	▲	金融業（融資担当）	取引先の様子	・中東情勢の不透明感からエネルギー価格が高騰し、各種コストが上振れしていることに加え、プラスチックや溶液等の石油由来の製品が不足している。
	▲	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・仕事が少ない業者と、春先に少し動きが出たという業者が半々の状況である。
	▲	税理士（所長）	取引先の様子	・中東情勢の影響により資材が入ってこないため、建設業や塗装業及び製造業の稼働が止まり始めている。輸送費や包装材の価格高騰により、卸売業や小売業でも厳しい話しか聞かない。
	×	繊維工業（総括）	それ以外	・中東向け民族衣装の輸出が停止しているほか、主原料である石油由来の糸や燃料油が高騰を続けており、全て価格転嫁することは困難である。溶剤やこん包資材も、値上げに加えて調達が困難となっており、溶剤によっては調達できない場合、稼働を停止せざるを得なくなる可能性も生じる。
	雇用 関連 (北陸)	◎	—	—
○		*	*	*
□		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・業種を問わず大きな変化はみられない。人手不足や原材料価格が高騰している状況が変わらず、業績にも影響を与えているという声を聞く。中小企業では新規採用からキャリア採用にシフトする傾向がみられ、中小企業における強い人手不足感がある傾向は変わらない。
▲	人材派遣会社（役員）	採用者数の動き	・派遣している人員が数人減っている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	新聞社〔求人広告〕（営業）	それ以外	・中東情勢の影響による燃料価格の高騰が、多種多様な業種の経営を圧迫しており、出口がみえない状況に企業は萎縮している。
	×	—	—	—

## 8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (近畿)	◎	一般小売店〔時計〕（経営者）	単価の動き	・来客数はそれほど多くなかったが、売上は大きく伸びた。時計の購入価格、修理代共に、客単価が上昇している。いずれも20年来の客が来店したことが要因で、以前に購入した時計が壊れて来店するなど、久しぶりの来客が重なっている。
	◎	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・繁忙期のため、来客数が増えている。
	◎	家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・新たな省エネ基準の施行を背景に、エアコンの販売が前年比で大きく伸びている。これからの夏本番を迎え、ボーナス商戦とあいまって景気回復への貢献が期待できる。
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・気候が良くなって人出が増え、買回品も動き出している。
	○	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	来客数の動き	・インバウンドの来店が年間のピークを迎え、来客数の増加に伴い、売上もアップする。
	○	一般小売店〔化粧品〕（経営者）	単価の動き	・4月は序盤から好調に推移しており、最終的に前年を上回る結果となった。来客数は減少したが、客単価は前年比で105%となり、90%台半ばに落ち込んだ来客数の悪化を補う形となった。春の新色商材で海外のラグジュアリーブランドの売上が伸びたほか、ギフト需要の拡大でフレグランス関連が5%増加している。
	○	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・近隣での大規模病院の開業や、同業他店の閉店により、来客数が前年比で5.0%増と好調に推移している。また、地域で唯一の百貨店となったことで、ギフト商材の売行きが好調であり、当面はこの流れが続くと予想される。
	○	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・前年と比べて、対ドルや対円で円安がかなり進んでいることもあり、インバウンド売上は前年比で20%以上の増加となっている。ただし、直近は中国の労働節前の航空運賃上昇により、売上は減少傾向にある。一方、国内売上も株価の上昇を背景に高額品が売れており、外商売上はもちろん、外商を除く売上も好調に推移している。
	○	百貨店（広報担当）	販売量の動き	・気温の上昇に伴い、春物ファッションを軸に好調となっており、新生活需要や各種ギフトも活況である。免税売上も、中国からのインバウンドは依然厳しい状況ではあるが、中国以外も含めた富裕層が売上をけん引している。
	○	百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・今月も物産催事と期間限定ショップの展開による効果で、来客数、売上共に好調に推移している。また、インバウンド売上の復調に加え、春物の婦人服を中心に、堅調な動きがみられる。
	○	百貨店（商品担当）	販売量の動き	・中東を含む海外情勢の変化に伴い、資源価格や物価の上昇で買い控えが発生すると予想していたが、今月はインバウンド、国内客共に予想以上の売行きとなっている。
	○	百貨店（宣伝担当）	販売量の動き	・中国からのインバウンドが減り、1～2月の免税売上は大きく落ち込んだが、直近ではインバウンド全体の増加がみられる。中国からの個人旅行者が復調したほか、欧米やアジアからのインバウンドが増えた。また、国内客においても、株価上昇の影響により、富裕層を中心に貴金属や時計といった資産価値の高い商品への購買意欲が高まっている。
	○	スーパー（店員）	単価の動き	・野菜の価格がかなり下がったため、よく売れており、いちごの収穫も最盛期でよく売れている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	○	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・中東情勢の影響で、石油関連商品の値上げや入荷制限などがみられるほか、客の間でもまとめ買いの意識が高まり、食品用ラップやゴミ袋といった消耗品の販売が一気に増えている。結果として、日用雑貨部門の売上は前年を上回っている。
	○	乗用車販売店（マネージャー）	販売量の動き	・大きな上振れはないが、前年に比べて少しずつ来客数が増え、販売実績にも影響が出ている。
	○	その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	販売量の動き	・送料無料キャンペーンを行っている影響で、受注量がかなり増えている。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・非常に苦しかった3か月前と比べると、売上は40%増えているが、前月の増加率からは5ポイント縮小している。3月から続いている企業の中規模の宴会が、売上を維持している主な材料とみられる。一方、個人客の利用は、物価上昇による節約志向で昼夜共に減少している。
	○	通信会社（社員）	販売量の動き	・インターネットの高速サービスへの乗換え需要が増えている。
	○	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・2～4月は引っ越しなどの環境変化の時期であり、新生活関連の需要が高まるなど、売上は3か月前と比べて120%になっている。
	○	その他レジャー〔スポーツ施設〕（経理担当）	お客様の様子	・株価の継続的な上昇による影響がみられる。
	○	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・春の転居シーズンということもあるが、成約率が上がっている。
	○	その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	販売量の動き	・春の賃上げが高水準となっており、社員のモチベーション向上が期待できる。
	□	一般小売店〔野菜〕（店長）	お客様の様子	・価格を気にして、安い商品を探して動いている客が多く、非常にシビアな状況である。
	□	百貨店（商品担当）	お客様の様子	・直近はインバウンド売上が回復傾向であり、中国以外の東南アジアからのインバウンドの動きが好調である。物産展などの催事も好調で、大阪・関西万博の1周年企画等も好調となるなど、販売促進策による来客数の増加がみられる。ただし、婦人服や紳士服などは客の動きが鈍く、継続的な回復には至っていない。
	□	百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・物価上昇や中東情勢の影響など、個人消費に打撃となる要素が多いものの、景気の大きな下向き傾向はみられない。インバウンド売上については、前年が円高基調となった反動のほか、中国人客の減少も他国客の増加により補うことができている。
	□	百貨店（販売推進担当）	来客数の動き	・春の改装期を迎え、新規オープンしたショップは非常に好調な立ち上がりとなったが、特選輸入ブランドや時計などの高級品が苦戦し、店全体ではほぼ前年並みの動きにとどまっている。
	□	百貨店（外商担当）	来客数の動き	・近隣の商業施設を含むエリア全体では、平日、週末にかかわらず、来客数が安定的に多い。
	□	百貨店（販促担当）	来客数の動き	・今月も安定した気候の下、全体的に穏やかな推移となっている。ファッション、食品共に大きな変化はなく、来客数、客単価共に前年並みの動きとなっている。今月は催事による集客が良く、店舗の来客数の増加に寄与している。
	□	百貨店（マネージャー）	お客様の様子	・大きな流れは変わらず、投資目的の動きもあり、富裕層による美術品や宝飾、特選品の購買がみられる。また、集客のための仕掛けも功を奏し、好調である。インバウンドは、来客数は減少したものの、単価の倍増などで好調を維持している。一方、国内中間層はゴールデンウィークを控え、客単価や購入量の悪化が目立つ。食品、ファッション共に、コストパフォーマンス重視のシビアな購買姿勢がみられるなど、選択消費の動きが続いている。
	□	百貨店（営業推進担当）	単価の動き	・食料品の売上は比較的堅調に推移しているが、衣料品関連では苦戦が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数に変化はなく、横ばいである。
	□	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・各自治体による商品券などの配布が相次いでいる。消費税率の軽減時期が見通せないなか、消費者は積極的に利用しており、売上の増加につながっている。
	□	スーパー（販売促進担当）	販売量の動き	・コストプッシュ型の価格上昇の継続で、客の財布のひもが固くなっている。来客数を維持できても、客単価の低下によって、売上の減少につながっている。
	□	コンビニ（経営者）	単価の動き	・来客数は微減であるが、値上げが続いている影響で、客単価はやや上昇している。
	□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・17時～22時にかけての来客数が減少している。周囲の飲食店の来客数も増えていないが、これには商店街全体の店舗減少も影響している。
	□	コンビニ（店員）	販売量の動き	・桜の時期は大量に購入する客が多かったが、その後は落ち着いている。常連の客が多く、普段どおりの買物をしている。
	□	コンビニ（店員）	販売量の動き	・相次ぐ値上げが影響しているのか、店内調理のサンドウィッチや弁当の廃棄が目立っている。
	□	コンビニ（店員）	お客様の様子	・来客数や売上に余り変化はみられない。インバウンドも減ることはなく、客の比率としては国内客よりもインバウンドの方が多い。
	□	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・3か月前と比べて、営業売上、来客数共に、ほぼ横ばいの状況となっている。本来であれば、4月頃から気温の上昇とともに売上が増加してくるが、中東情勢の影響で石油関連の価格上昇が懸念材料として残っている。
	□	家電量販店（店員）	お客様の様子	・社会情勢の変化が、客の動きの変化に直結している。中東情勢の影響による先行き不安もあり、購買意欲は低下傾向にある。
	□	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・物価や金利の上昇で、高額商品の購入の検討期間が長引くケースが増えている。
	□	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新車の動きが良くなく、今月は売上目標が未達の予定である。自動車税の環境性能割が廃止になり、今月は販売台数の増加が期待されたものの、厳しい結果となった。新車の不調については、新型車種が発売前であるほか、車両単価の高騰が要因とみられる。一方、中古車の販売やサービス部門は目標達成の見込みである。
	□	乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・中東情勢の変化による、様々な物の価格の高騰が少なからず影響している。客との会話でも、前向きな姿勢が少ない。
	□	乗用車販売店（営業企画）	単価の動き	・業況は輸出の動き次第となっている。
	□	住関連専門店（店長）	お客様の様子	・開業医や会社経営者など、資産に余裕がありそうな客が高い商品を買わなくなり、店内の特価品などで済ませるケースが増えている。
	□	その他専門店【食品】（経営者）	販売量の動き	・販売数量には大きな変化がない。
	□	その他専門店【ドラッグストア】（店員）	お客様の様子	・原油の供給不安でまとめ買いの動きがみられ、通常よりも物販の売上が増えている。紙類の購入も増え、商品の欠品が続いているほか、単価の上昇もまだ続いている。
	□	その他専門店【宝飾品】（販売担当）	お客様の様子	・地金の相場が3月の最高値よりも少し下がっている。再び上がるという期待から、消費者の購買意欲には変化がみられたが 販売側からすれば好機というほどではない。
	□	その他専門店【医薬品】（管理担当）	販売量の動き	・気温の上昇に伴い、UV関連や制汗剤、殺虫剤などの夏物商材のほか、制度化化粧品、カウンセリング化粧品、化粧雑貨などの売上も大きく上向いた。一方、食品や日配品などの生活必需品は横ばいであり、花粉症関連の医薬品や健康食品、衛生用品などは減少となった。3か月前と比較し、来客数や買上点数に変化はないものの、客単価や1品単価は上昇している。
	□	その他飲食【自動販売機（飲料）】（管理担当）	販売量の動き	・中東情勢の変化が、一気に不安要素となりそうである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	観光型ホテル (経営者)	販売量の動き	・前年は4月中旬～10月中旬まで大阪・関西万博に関連する団体客が多かったが、今年はその特需がないため、販売量の減少が懸念される。ただし、今月に関しては、従来の団体客の利用があり、何とか前年並みの販売量を確保できている。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・4月は歓迎会の時期であり、タクシーの利用率は少し上昇したが、物価の上昇による節約志向は強く、先行きの不安を取り除かなければ景気は上向かない。
	□	競艇場(職員)	単価の動き	・前月よりも売上の増加率は縮小しているが、ネット投票の売上が拡大し、前年比で5%前後の伸びとなっている。一方、客単価は大きく変わっていないほか、各拠点のレース場や場外発売場の売上は、前年よりも減少する見込みである。
	□	その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕(企画担当)	来客数の動き	・季節による繁閑差の影響が大きいため、3か月前と比較して、来客数が悪いとも良いともいえない。前年と比較すると増加傾向となっている。
	□	美容室(店長)	来客数の動き	・今月は化粧品が多く売れたが、その分仕入れを増やしたため、利益は増えていない。
	□	住宅販売会社(企画担当)	販売量の動き	・物価上昇による建築費の上昇のほか、地価の上昇も加わって、厳しい状況が続いている。
	▲	商店街(経営者)	お客様の様子	・物価の上昇が続いている。
	▲	一般小売店〔雑貨〕(店長)	単価の動き	・値上がり品目が多い。
	▲	一般小売店〔書籍〕(管理担当)	来客数の動き	・前年の大阪・関西万博の開催による反動減もあるものの、来客数の落ち込みが目立ち始めている。
	▲	百貨店(売場主任)	販売量の動き	・物流コストや人件費の高騰による物価上昇で、買い控えが発生している。
	▲	百貨店(外商担当)	販売量の動き	・中東情勢の変化による石油製品の供給不安などで、購買意欲が減退している。株価の乱高下といった不安定な状況から、高級品の動きも鈍くなっている。
	▲	百貨店(マネージャー)	来客数の動き	・1月の来客数は前年比で6.0%増であったのに対し、今月は2.0%前後の増加となっている。日配品や洋菓子など、食品関連は引き続き好調に推移しているが、衣料品や雑貨関連は前年割れとなるなど、物価上昇への懸念による節約傾向がみられる。
	▲	スーパー(経営者)	お客様の様子	・客の購入がディスカウント商品に集中している。
	▲	スーパー(店長)	単価の動き	・来客数が増加している一方、売上はそれほど伸びていない。商品の値上げが続くなか、客単価は伸びず、最近増えた競合店を買い回りの傾向が見受けられる。
	▲	スーパー(店長)	販売量の動き	・売上が減少している。ガソリン価格の高騰など、生活に直結する部分での支出が増え、生活防衛姿勢が強まっている。
	▲	スーパー(社員)	お客様の様子	・長引く値上げの影響で、徐々に客の買い控えが進んでいる。生活必需品の売行きは変わらないものの、こだわりの商品などの動きは鈍い。
	▲	コンビニ(経営者)	販売量の動き	・最近、中近東や欧米からの来訪が増加する一方、東南アジアからの来訪は減少しており、全体の購入量の減少がみられる。常連客も財布のひもが固くなっている。
	▲	コンビニ(経営者)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク前でもあり、客が節約している影響で、飲食店も平日は閑散期が多い。
	▲	家電量販店(営業担当)	それ以外	・建築関係にナフサ不足の影響が出始めている。
	▲	住関連専門店(店員)	お客様の様子	・物価の上昇で生活費が圧迫されているため、家具などは使える物を使い、買換えを控える客が増えている。
	▲	その他小売〔ネット通販〕(管理担当)	単価の動き	・値上げの依頼が増えている一方、買上数は落ち込んでいる。
	▲	高級レストラン(スタッフ)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク前の閑散期ではあるものの、例年以上に来客数が少ない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	一般レストラン (企画)	販売量の動き	・前月、前々月と比較すると販売量は徐々に上向いているが、3か月前と比較すると減少している。一方、既存店売上の前年比は105%を超えている。
	▲	観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・週末の利用者数やゴールデンウィークの予約状況、3か月先までの予約状況などが、前年比で良くない。
	▲	観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・中東情勢の変化で石油関連価格が全て値上がりしており、旅行気分にならない。
	▲	都市型ホテル (客室担当)	来客数の動き	・中東情勢の変化や、中国からのインバウンドの減少による影響が出ている。
	▲	都市型ホテル (フロント)	単価の動き	・燃料価格の高騰で、燃油サーチャージが引き上げられたため、ホテル料金の値下げ交渉に波及している。インバウンドの団体客が減少しているほか、国内の個人客の動きも鈍化している。
	▲	都市型ホテル (客室担当)	販売量の動き	・今年のゴールデンウィークは最大で12連休となり、稼働率が上がりにくい。中東情勢も一向に解決の糸口がみえず、中国からのインバウンドも個人客は少しみられるが、相変わらず少ない。
	▲	都市型ホテル (客室担当)	単価の動き	・大阪・関西万博の閉幕以降は販売単価が下がっているほか、経費の高騰と重なり、利益が減少している。近隣施設も同様に販売価格が下がっており、苦しい状況である。
	▲	都市型ホテル (営業担当)	販売量の動き	・今月に入ってから、予約の取り込みなどの伸びが鈍化している。
	▲	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・燃油サーチャージの上昇により、客が海外旅行を避ける傾向にある。
	▲	旅行代理店(役員)	販売量の動き	・原油価格の高騰による影響が各分野に及んでおり、生活用品の値上げに伴う景気への悪影響が懸念される。
	▲	通信会社[貴金属オークション] (経営者)	お客様の様子	・中東情勢の変化には終息の気配がなく、客の購買力が少し低下しているため、取扱商品の売行きが鈍化している。
	▲	通信会社(経営者)	お客様の様子	・原材料費の大幅な上昇のほか、中東情勢の変化による材料不足の影響が出ている。
	▲	通信会社(社員)	販売量の動き	・最需要期が過ぎ、動きが落ち着いている。
	▲	通信会社(役員)	販売量の動き	・来客数、販売量共に、前年を割り込んでいる。物価上昇に伴う買い控えの影響を強く受けており、特に高額なスマートフォンの苦戦が目立つ。
	▲	遊園地(経営者)	来客数の動き	・4月の賃上げなどの効果を見込んでいたが、中東情勢の変化による物価上昇の加速への懸念で、客足が伸びない。
	▲	競輪場(職員)	単価の動き	・3か月前の客単価は8657円であったが、今月の客単価は8494円に低下している。
	▲	住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・住宅設備関係で値上げが進んでいるほか、納期遅延の動きも増えている。
	▲	住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・材料価格の高騰による、消費マインドの低下が懸念される。
	▲	住宅販売会社 (従業員)	競争相手の様子	・資材価格の高騰により、リフォームや土地開発などの工事代が膨らみ、業績に影響が出始めている。
	▲	その他住宅投資の動向を把握できる者[不動産仲介] (経営者)	それ以外	・中東情勢の変化により物価が上昇し、消費の減少につながっている。
	▲	その他住宅[展示場] (従業員)	販売量の動き	・運営する住宅展示場での成約数は、建築単価や住宅ローン金利の上昇傾向を受け、3か月前と比較して減少傾向にある。
	▲	その他住宅[情報誌] (編集者)	お客様の様子	・中東情勢の先行き不透明な状況により、建築関連コストの増加が避けられないため、不動産価格の高騰が予想される。現状の価格も実需層にとってはかなり高止まりした状況であるため、市場では不安の声も大きい。
	×	一般小売店[ガラス細工] (店長)	単価の動き	・客に購入意欲はみられるが、単価を気にする様子があるなど、不安要素が払拭されていない。
	×	一般小売店[呉服] (店員)	お客様の様子	・中東情勢の影響で石油の輸入が止まり、全ての物が値上がりしていることで、客の買い控えが発生している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	百貨店（管理担当）	それ以外	・売場の大幅な見直しによる影響で、売上は減少している。ただし、目標は大きく上回っており、景況としては堅調に推移している。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・前年と比べて、来客数が2～3割減少している。
	×	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・ショーウィンドウをみる客は少なくないが、実売にはつながっていない。
	×	家電量販店（店員）	それ以外	・商品の入荷が遅延し始めてから、商談に陰りがみられる。
	×	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	それ以外	・石油関連ではガソリンの安定供給が続いているが、重油や灯油等は品薄状態が続いており、十分な供給が難しい。石油製品の仕入制限と、値上げによる経費の増加で、先行きの見通しが全く立たない。また、店舗の改装も材料不足のため延期となっている。
	×	その他飲食〔洋菓子〕（管理担当）	来客数の動き	・3か月前よりも売上は減少している。周辺の工事などの外的要因で通行量が減少している影響のほか、前年4月は好景気であったため、その反動による悪化が大きくなっている。
	×	旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・中東情勢の影響により、客の財布のひもが固くなっている。生活必需品以外への支出を抑えて貯蓄に回す動きが顕著で、旅行や余暇への関心が薄れている。
企業 動向 関連 (近畿)	◎	—	—	—
	○	プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気自体は余り良くないが、販売量と受注量は増えている。当社はプラスチック板の印刷や加工を行っているが、部品がなくなれば生産できなくなるため、駆け込みでの発注が増えている。かなり先の納期の受注が通常よりも増えており、生産資材の確保には難航しているが、生産は止まらずに動いている。
	○	電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・前年に続き、受注は堅調であるが、自動車業界には回復の動きがみられない。
	○	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月は取扱製品の需要期に当たるため、出荷量が増加している。ただし、例年と比べると勢いはない。
	□	繊維工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・商品の値上げの動きが強く、買い控えが行われるなか、値引きでの販売が常態化しているため、利益の確保が厳しい。
	□	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新年度に入って、断続的に新規の見積りが出ており、4～6月期の好調への期待が高まったが、大きな変化はない。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月は大口注文がない一方、小口案件は通常の動きとなっている。やや低迷気味ではあるものの、ここ数か月の景気に変化はない。
	□	一般機械器具製造業（設計担当）	それ以外	・物価は上昇しているが、販売量が急激に減る動きはみられない。
	□	輸送用機械器具製造業（役員）	取引先の様子	・受注済の案件では、原価の上昇に伴う価格転嫁ができないほか、未受注分でも価格の引上げ交渉が困難である。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注や問合せの動きが継続している。ただし、中東の海峡封鎖の影響で、ポリ塩化ビニールやプラスチックといった材料が3割以上も値上がりしている。
	□	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・建築資材の値上げや商品不足で、工事現場への納入が延期となる事例が数件みられる。ただし、値上げ前のまとめ買いで、倉庫への電気設備機器の納品が一定以上に進んでいるため、今後の仕事量に大きな変化はない。
	□	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・家電は売れているが、家具が売れていない。
	□	金融業（営業担当）	取引先の様子	・中東の海峡封鎖による原油価格の高騰で、ナフサ関連の商品の仕入れが難しくなっており、徐々に影響が出てくる。
	□	金融業〔投資運用業〕（代表）	それ以外	・景気浮揚の兆しが少し出始めたところで、今度は原油不足が原因の物価上昇が進んでいる。
	□	その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	取引先の様子	・材料や部品の輸入が非常に多いため、値上げが必要となり、その通知をするだけでも大変である。値上げが落ち着くまでは忙しくなる一方、増収にはつながらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	食料品製造業 (従業員)	取引先の様子	・中東情勢の影響でナフサの供給が逼迫しており、今月から当社でも資材の入手が困難になっている。これからますます困難になることは確実で、商品の製造ができなくなる。
	▲	食料品製造業 (管理担当)	受注量や販売量の動き	・前年は4月から大阪・関西万博の開催効果が出始めていたため、その反動が出ている。
	▲	食料品製造業 (営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・原価の増加で取引価格を上げたこともあり、売価は上がったものの、売上は少し悪くなっている。
	▲	繊維工業(団体職員)	受注量や販売量の動き	・中東情勢の問題で、重油の供給が不足している。その結果、加工工程に遅れが出ており、商品を作れない状況になってきている。
	▲	繊維工業(管理担当)	それ以外	・中東情勢の変化により、材料価格の高騰や資材の仕入れに対する不安が高まっている。
	▲	出版・印刷・同 関連産業(企画 営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・物価高の影響が徐々に出始めているため、利益率が低下している。
	▲	化学工業(製造担当)	受注量や販売量の動き	・研究用試薬の受注量が減少しており、在庫も余っている。
	▲	化学工業(管理担当)	それ以外	・中東の海峡封鎖による、価格の上昇や原料不足などの影響が出ている。
	▲	窯業・土石製品 製造業(管理担 当)	受注量や販売量の動き	・中東情勢がこう着状態であり、石油関連製品の価格が上昇する懸念が高まっている。物価上昇や円安基調が続いているなど不安要素も多く、取引先からの受注量を考慮すると、やや悪くなっている。
	▲	その他製造業 〔履物〕(団体 職員)	受注量や販売量の動き	・原材料価格の高騰に加え、一部の部品で供給がストップし始めている。
	▲	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・先のみえない物価上昇の影響で、住宅への投資意欲が低下している。
	▲	輸送業(サービ ス担当)	受注量や販売量の動き	・受注量が前年比で95%となっている。原油価格が高騰しているほか、品不足でもあり、流通量が減少傾向となっている。
	▲	金融業〔保険〕 (経営者)	受注量や販売量の動き	・近隣も含めて、来客数は減少傾向にある。景気の先行き不透明感や物価の上昇のほか、ゴールデンウィークを控えた買い控えなどが影響している。
	▲	不動産業(営業 担当)	取引先の様子	・インターネットでの販売が増えて、実店舗が減少するなか、店舗の閉店が続いている。それに伴って空室率が上昇して、賃料が下がるなど、景気が悪くなっている。
	▲	広告代理店(営 業担当)	受注量や販売量の動き	・交通広告全般で、4月の動きが前年よりも悪い。
	▲	その他サービス 業〔受託調査〕 (調査担当)	取引先の様子	・中東情勢の影響による原油不足により、運送コストが1～2割上昇しており、収益を圧迫している。また、売上も前年比で5%以上の減少が3か月続くななど、厳しい状況となっている。
	▲	その他非製造業 〔衣服卸〕(経 営者)	取引先の様子	・販売状況には前月から変化がない。財布のひもが固く、日用品の店頭での売行きは前年を下回っているが、WBC(ワールド・ベースボール・クラシック)関連グッズやキャラクターの期間限定ショップなどは非常に好調な売行きとなっている。一方、直近では中東情勢の混乱の長期化で資材の買占めや入荷の遅延などがみられ、今後の仕入価格も読めなくなっている。円安の進行で、多くの会社では仕入価格の上昇が見込まれているなど、先行きは厳しい状況が予想される。
	×	パルプ・紙・紙 加工品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・ナフサが需要に対して不足しているため、来月からは生産がかなり減少する。
	×	その他非製造業 〔電気業〕(営 業担当)	受注価格や販売価格の動き	・物価の上昇が止まらない。
	雇用 関連 (近畿)	◎	—	—
○	民間職業紹介機 関(営業担当)	周辺企業の様子	・2028年卒業者向けのインターンシップ等の広報が活発化している。当社では、5月のインターンシップ向け合同企業説明会の出展申込みが好調で、大手企業がグループ全体で出展するケースもある。4月も他社のイベントでは参加者数が好調だったと聞いている。	
○	民間職業紹介機 関(営業担当)	求人数の動き	・常に人手不足であり、給料も増加傾向にあるなか、年間で最も需要が高まる時期となっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	人材派遣会社 (役員)	求人数の動き	・中東情勢が不透明な状況のなか、求人への動きには変化がない。
	□	人材派遣会社 (支店長)	採用者数の動き	・例年と比べて、動きがかなり鈍い。
	□	人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・求人市場の動向として、事務職の募集は減少傾向にあるが、建設・医療業界の求人は堅調に推移している。一方、事務職の給与面では時給の停滞が続いており、求職者のニーズと市場の求人条件にミスマッチが生じていることが大きな課題といえる。
	□	人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・求人数が減少するなか、60代以上の求職者による応募は増えているものの、40代以下の応募数が減少している。
	□	人材派遣会社 (管理担当)	求人数の動き	・新入社員の入社により、人員が充足傾向にあることから、求人数は伸び悩んでいる。
	□	アウトソーシング企業 (社員)	採用者数の動き	・新年度に入ったが、当部署には特に人の動きもなく、新入社員もいない。
	□	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	それ以外	・新聞広告やデジタル広告の推移に、特に大きな変化はみられない。
	□	職業安定所(職員)	求職者数の動き	・雇用保険の受給手続に来所する求職者数は、例年と余り変わらない。
	□	職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数が増えていないほか、中東情勢の影響で材料の仕入れや受注に不安を抱えている企業が散見される。
	□	職業安定所(職員)	求人数の動き	・国際情勢の変化や物価上昇による影響はみられるものの、求人数は前年と同水準となっている。
	□	職業安定所(職員)	求人数の動き	・4月の求人数は前年よりも少ないが、景気への大きな変化は今のところみられない。ただし、中東情勢の変化による影響への不安の声が高まっている。
	□	学校〔大学〕 (就職担当)	求人数の動き	・求人動向に変化の兆しはあるものの、景気自体に影響するまでには至っていない。
	□	その他雇用の動向を把握できる者	求人数の動き	・新規求人では、卸売、小売業や宿泊・飲食サービスの減少幅が大きい、これには前年の大阪・関西万博の開催による反動減も大きい。一方、これまで減少傾向にあった建設業や製造業で下げ止まりの兆しがみられる。建設業では公共事業関連が好調で、製造業では半導体関連が好調との声がある。
	▲	新聞社〔求人広告〕 (営業担当)	それ以外	・物価の上昇や円安傾向が止まらず、少しずつ景気は悪くなっている。
	▲	民間職業紹介機関 (職員)	求人数の動き	・年度初めで公共工事の案件がまだ動いていない。
	▲	学校〔大学〕 (就職担当)	それ以外	・4月から値上げが続いており、買い控えの進行などで景気が悪くなっている。
	▲	学校〔大学〕 (就職担当)	採用者数の動き	・医療福祉関連施設の一部では、コストの上昇などによる業績悪化がみられ、求人を下方修正する動きが出始めている。直近2～3年の公的医療機関による順調な求人動向にも、業績悪化懸念による変化の兆しがみられる。民間の医療機関の求人数はこれから示されるが、世界情勢が混とんとするなかで新年度を迎え、変化が出てくる可能性がある。
	×	*	*	*

## 9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (中国)	◎	競艇場（企画営業担当）	販売量の動き	・今月下旬に全国発売のG1競争があったため、インターネット投票の売上が十分に確保できた。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・観光客を含め、来店の動きがある。
	○	一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・販売量については、輸出は現在好調である一方、国内では新茶が高値のため、従来どおりの販売ができず減少している。全体としては、やや良い状態である。
	○	一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークに入り、売出しもあるため、少しにぎやかになると期待している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	○	コンビニ（店長）	販売量の動き	・今年に入ってから、前年度に比べて景気は明らかに停滞気味であったが、4月に入って人の動きが出ており、インバウンドも増えてきている。
	○	家電量販店（企画担当）	販売量の動き	・季節要因によるエアコンの特需により、全体の売上をけん引している。
	○	乗用車販売店（業務担当）	販売量の動き	・新型車の発売により販売量は徐々に良くなっていく。
	○	その他専門店〔土産物〕（経営者）	お客様の様子	・景気対策として市民1人当たり1万円分のクーポン券が配布されたため、それを利用して、いつもより購入点数が増えており、客の表情も明るい。
	○	その他専門店〔和菓子〕（経営者）	来客数の動き	・当地への観光客がインバウンドを含め増加傾向にある。
	○	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・3か月前と比べて来客数、売上共に回復傾向にある。特に1月から2月にかけて減少していた予約も回復しており、前年比では約2割伸びている。一方、一般利用は余り伸びていないが、トータルで前年を上回っている状況である。
	○	観光型ホテル（予約担当）	販売量の動き	・大型連休の予約以外についても、件数が増えている。
	○	観光型ホテル（副支配人）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は例年と同じく宿泊は一杯だが、その前後の予約が少ない。しかし、前年より微増している。
	○	都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・今月の宿泊数、レストランの売上、来客数は、3か月前と比較して約5%増加している。
	○	都市型ホテル（宿泊担当）	単価の動き	・物価上昇のなかでも、宿泊や宴席の単価は一定程度維持されており、単価上昇を受け入れる動きがみられることから、やや景気の持ち直しを感じている。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・4月に入り、歓送迎会などで人の動きがある。利用はそれほど多くはないものの、以前と比べるとやや改善がみられる。
	□	商店街（代表者）	販売量の動き	・前年同期と比べて売上が1割減っている。購入数量も少なくなっている。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・中東情勢の影響により物価高騰が続いている。春になり客の表情は明るいだが、景気が目に見えて良くなっているわけではなく、このままの状況が続く。
	□	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・総合イベントの参加者が増加しており、ブランドに特化した店外イベントへの客も増えている。高価格帯の商品を購入する客が増える一方で、来客数は減少傾向にある。手に取りやすい商品の動きは鈍くなっているが、高価格帯商品の動きは好調である。
	□	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・来店客は増加しているが、売上に変化がない。
	□	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・売上や購入客数、入店客数に大きな変化はない。
	□	百貨店（外商担当）	お客様の様子	・下落していた株価の回復に伴い、客の購買意欲は若干ながら向上している。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数の増加に加え、販売点数の増加が顕著に表れており、全体の売上を押し上げている。総点数の増加以上に1人当たりの買上点数が伸びている点は良い傾向である。この傾向は前年から継続しているが、今後、更に伸長するかは不透明であり、当面は現状維持で推移するものとみられる。
	□	スーパー（販売担当）	販売量の動き	・中東情勢の不安定化に伴う原油価格の高騰で値上げ製品が多い。今まで売れていた商品も動きが鈍くなった。
	□	コンビニ（副地域ブロック長）	来客数の動き	・物価高の影響により客足が鈍化しており、特に主婦層の来店が減っている。夕方以降の時間帯での減少が特に大きく、ここ数か月はその傾向が顕著に数値に表れている。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・いろいろなものの価格上昇に加え、送料も値上がっているため、厳しい状況である。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・賃上げが物価上昇に追い付いていないとみる。
	□	衣料品専門店（代表）	来客数の動き	・例年ゴールデンウィーク前は旅行用の服を求める客が多いが、今年は少ない。
	□	家電量販店（店長）	お客様の様子	・物価上昇に伴い、客の節約志向が一層強まっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	家電量販店（副店長）	販売量の動き	・エアコンと洗濯機は好調だが、冷蔵庫とパソコンが不振である。店舗全体では前年並みの水準であり、景気は良くも悪くもなっていない。
	□	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・予算が厳しいため、案件はあってもなかなか決まらない。
	□	乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・4月の販売量は前年比92%と依然厳しい状況である。
	□	乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・人気商品があるときは順調に売れるが、既存商品の売行きは余り変化がない。
	□	乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・年度が替わり、市場の動きは鈍化し、来客数も減少傾向にある。一方で、原油価格の高騰を背景に一部商品では動向が上向くなど、市場全体が悪化している状況ではない。今後は、物価や原油価格の高騰がどの程度続くかが懸念材料として残る。
	□	乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・ガソリン価格の上昇により、ハイブリッド車や電気自動車の問合せは増えているが、物価上昇により、購入までに時間が掛かっている。
	□	その他専門店〔革製品〕（店主）	単価の動き	・これまでに受注したオーダーメイドの依頼が残っているため、一定の売上は確保できる見込みである。
	□	一般レストラン（経営者）	単価の動き	・中東情勢の影響により、景気の先行きには不透明感がある。一方で、我が国の原油供給については一定の確保の見通しが立ちつつある。こうした状況から、景気が回復基調にあるのか、悪化しているのか判断が難しい。また、株価は上昇しているものの、物価も引き続き上昇しており、今後これが景気にどのような影響を与えるのか、先行きは依然として見通しにくい状況である。
	□	都市型ホテル（宿泊担当）	販売量の動き	・春の行楽シーズンということもあり、例年同様に国内外の観光需要はあるものの、大きな変動はみられない。
	□	タクシー会社（営業所長）	お客様の様子	・昼間、夜間共に受注状況は芳しくなく、前年比で約95%と減少している。値上げの効果で売上自体は微増であるが、営業回数は減少している。
	□	通信会社（企画担当）	来客数の動き	・新年度のスタートに当たり、前年同期と比較すると顧客の動きはやや増加しているものの、前月との比較では大きな変化はない。
	□	通信会社（販売企画担当）	来客数の動き	・中東情勢に伴う生活コストの増加が懸念される。
	□	設計事務所	お客様の様子	・状況に大きな変化はなく、計画どおり進行しているように見受けられる。
	▲	商店街（理事）	お客様の様子	・食料品はもとより生活必需品に至るまで価格上昇が続くなかで、生活防衛意識が働き、買い控えの傾向が高まっている。
	▲	商店街（代表者）	単価の動き	・客に購入意欲がなく、売上が低迷している。
	▲	一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・新年度の繁忙期を終え、一段落した。
	▲	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	お客様の様子	・メガネ一式購入の割合が減り、フレーム修理やレンズのみの交換をする客が増えた。
	▲	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・投資関係で収入を得ている富裕層が、国際情勢の不安を背景に消費に慎重になってきている。
	▲	百貨店（売場担当）	お客様の様子	・従来の百貨店での品ぞろえでは、世界情勢の不安定化に伴う各種消費財の値上げによる買い控えへの対応が難しく、売上は前年を下回る状況が継続している。
	▲	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・数十万円のブランド衣料やバッグは売れているが、売上は前年を下回っており、厳しい状況である。来月以降も同様に厳しい状況が予想される。
	▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・2～3か月前までは、来客数は前年の98～99%程度で推移していたものの、販売単価が前年を上回っていたため、値上げの効果により売上は前年を約2%上回っていた。しかし、今月は来客数と販売点数が減少し、売上は前年の99.5%となっている。
	▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数はほぼ前年並みに推移しているが、値上げの影響で買上点数が伸びず、前年の98%となっている。4月は雨の影響もあり、必要な物だけを購入し、不要な買物を控える傾向があった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	スーパー（財務担当）	お客様の様子	・物価高騰による節約のための価格訴求商品の買い回りにより、来客数は前年を上回る状況が続いており、単価上昇もあいまって売上は前年を上回っているものの、景気の良さを示すものではない。
	▲	スーパー（業務開発担当）	来客数の動き	・来客数が4ポイント、販売点数が5ポイント減少している。
	▲	スーパー（営業システム担当）	販売量の動き	・世界情勢に関する明るいニュースが少ないこともあり、ゴールデンウィークは遠出よりも家で過ごす傾向がある。連休期間中もまとまった支出をする勢いもなく、停滞している。一方で、値引き商品、とりわけ惣菜類の販売は好調である。
	▲	コンビニ（支店長）	来客数の動き	・中東情勢の影響により原材料価格が高騰している。
	▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物資の供給不足や値上げ傾向により、先行きは不透明な状況となっている。
	▲	乗用車販売店（リース担当）	単価の動き	・物価高騰でメンテナンスに掛かる費用を抑えたい客が増えている。
	▲	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・景気が下向きの原因は、円安に加えて中東情勢によるものとみられる。株価は高水準で推移しているものの、一般消費者にとって直接的な恩恵を感じられず、警戒心から買い控えにつながっている。
	▲	その他専門店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・地金価格の高騰により、商品が売りづらくなっており、消費者も高額品の購入には慎重になっている。
	▲	その他専門店〔宝石店〕（店員）	お客様の様子	・40～60歳代の自家需要の客層では、価格高騰を受けて購入を控える傾向が高まっている。
	▲	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・物価上昇とその報道の影響により節約志向が強まり、買い控えや来店控えが広がっている。新年度に伴う入学、就職、転勤などの支出に加え、税金の支払も重なり、家計への負担は一層増している。また、ゴールデンウィーク前という季節要因もあり、可処分所得のなかでも優先順位が下がりがちな外食は、週を追うごとに来客数が減少している。特に平日及び週末のディナータイムにおいてその傾向が顕著であり、週末のファミリー層の予約は前年の50%程度まで落ち込んでいる。
	▲	旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・中東情勢の影響により、海外需要は欧州方面が大幅に減少し、方面変更やキャンセルが発生するなど影響を受けている。国内旅行は堅調に推移しているものの、取扱人員は減少している。一方で、単価上昇等の影響により販売額は増加する見込みである。
	▲	タクシー運転手	単価の動き	・中東情勢による石油取引の不安定化により、燃料価格や各種石油製品の物価が上昇し、様々な分野の企業活動において運営環境が厳しさを増している。景気は低迷する可能性がある。各企業の努力のみでは対応が難しい外部要因である。
	▲	通信会社（運用担当）	それ以外	・中東情勢による経済の不安定化により、景気は悪化している。
	▲	通信会社（広報担当）	お客様の様子	・価格の安い物を求める傾向にあり、現在は石油製品を値上げ前に買う傾向がある一方で、それ以外の物は値上げ幅が小さいことから購入を後回しにしている様子がみられる。
	▲	放送通信サービス（総務経理担当）	お客様の様子	・ケーブルテレビ利用料の延滞率、延滞解消率はほぼ横ばいであり、家計における可処分所得への景気の影響は余りみられない。
	▲	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・固定電話やCSチャンネルなど月額契約サービスの解約が増加している。
	▲	テーマパーク（業務担当）	来客数の動き	・4月の来客数は前年の50～60%となっている。子供の人数が減り、ファミリー利用も減少している。一方で、シニア層など2人での利用はやや増加しているものの、全体としては人数、売上共に減少している。
	▲	ゴルフ場（営業担当）	来客数の動き	・物価高騰の影響により予約数が減少しており、インバウンドも減少している。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・物価上昇が続くなか、客は警戒感を強めており、金を使うことにためらいがある様子である。
	▲	設計事務所（経営者）	それ以外	・建築費の高騰に加え、建築材料の供給が滞る状況により現場が進まない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・来場客の動きが鈍くなっており、建築費の上昇と所得の差が広がるなかで、金利の上昇もあり、支払が困難な客が増えている。
	▲	住宅販売会社（事業推進担当）	お客様の様子	・物価高騰に加え、中東情勢の影響もあり、ますます販売価格は上昇する傾向にある。購入が必須の顧客を除き、商談はかなり慎重になっており、販売は更に鈍化し、マンション在庫が増えている。
	▲	住宅販売会社（住宅設計担当）	単価の動き	・中東情勢の不透明さにより建設資材の流通に不安があり、単価への影響も懸念される。
	×	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・商品価格の上昇に伴い、客離れが相当進んでいる。コンビニ商品の主力であるおにぎりや弁当が軒並み値上がりしているため、パン1つ、おにぎり1つしか買わない客が目立つようになり、売上は厳しい状況となっている。
	×	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・石油関連商品の仕入価格が1.5～2倍に上昇し、売価に価格転嫁したら需要が減った。また、入荷未定の商品もあるため、販売ができない商品も発生している。コロナ禍よりも厳しい水準となっている。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新年度で人の動きが出てくると考えられたが、大きな変化はなかった。インバウンドについても前年より少ない。
	×	通信会社（総務担当）	それ以外	・中東情勢の関係で様々な資機材の納入時期が不透明になっており、情報通信サービス提供用の設備構築に支障が出始めている。また事例として、大規模修繕を控えているマンションでは、部材の納入時期が不透明であることに加え、費用についても前年と比較して大幅に上昇する見込みとなっている。
	×	美容室（経営者）	来客数の動き	・節約志向が高まっている一部の客においては、来店頻度が低下する傾向がみられる。
企業 動向 関連  (中国)	◎	食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・10月以降、受注量の増加が継続している。
	◎	輸送用機械器具製造業（経理担当）	それ以外	・物価上昇に伴う価格転嫁の要請が承認され、前年分ではあるものの、売上として計上できている。
	○	繊維工業（財務担当）	受注価格や販売価格の動き	・原油価格の高騰等により原材料価格が変動しているが、急な価格転嫁ではなく、少し様子見のところがあ
	○	輸送業	受注価格や販売価格の動き	・受注が増えている。
	○	金融業（経済産業調査担当）	それ以外	・新型量販車種の影響もあり、自動車を中心とした輸出や生産に持ち直しの兆しがみられる。
	○	会計事務所（経営者）	受注量や販売量の動き	・コンサルティング分野等、非正常的業務に関する新規案件の受注や引き合いが増加している。人手不足による失注も少しずつ解消してきている。
	□	農林水産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・良くも悪くもなっていない。
	□	鉄鋼業（総務担当）	取引先の様子	・取引先の販売環境は依然として低調である。
	□	非鉄金属製造業（業務担当）	取引先の様子	・電子材料関係の取引先は好調な状況を維持している。中東情勢の影響により、石油系有機溶剤の供給が不安定なことが懸念材料である。
	□	金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・自動車業界の客先からの受注が今月から増加すると見込んでいたが、5月以降になった。
	□	建設業（経営者）	取引先の様子	・建設工事において材料価格の高騰は予想しているが、プロジェクトの中止には至っていない。
	□	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・価格転嫁に対する対策や社会的な理解は進んでいるとみられる。一方で、中東情勢の影響による資機材の高騰や納期の問題など、客先の設備投資への影響も含めて不安要素もある。
	□	輸送業（業務推進担当）	取引先の様子	・特に大きなプラス要素やマイナス要素もなく、取引先の動向にも目立った様子はない。
	□	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・大きな変化はみられない。
	▲	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月からの値上げで、受注量が10%程度減少している。売上も計画値に対して3%低く、厳しい状況である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	化学工業（総務担当）	取引先の様子	・全体的に中東情勢の警戒感からモノの流れが停滞し始めている。
	▲	窯業・土石製品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・こう着状態である中東情勢の動向や取引先の事業方針の転換など、先行きに不安がある。
	▲	電気機械器具製造業（総務担当）	それ以外	・中東情勢の影響により、原材料価格の高騰が続いている。また、材料が入荷できない事態になると事業に大きな影響を与える。
	▲	輸送業（企画担当）	取引先の様子	・設備を発注しても、塗料等の供給が確約できず、納期及び仕様に影響が出始めている。また、設備及び設備工場の見積価格についても大幅に上昇してきている。
	▲	通信業（企画担当）	取引先の様子	・今後の電気料金の高騰やICT全般における情報通信機器価格の上昇に関する情報が取引先から入ってきている。また、納期が不確定な案件もあり、客への提案につながらない事象も出てきている。
	▲	通信業（営業担当）	取引先の様子	・中東情勢の不安定化による資材調達への影響が顕在化してきた。
	▲	不動産業（総務担当）	それ以外	・賃貸住宅の需要時期が落ち着き、来客数及び成約件数は減少している。また、前年同月と比べて来客数が約5%落ち込んでいる。
	×	建設業	受注価格や販売価格の動き	・中東情勢の問題で、石油関連全ての価格が上昇している。また、在庫も少なくなってきた。
雇用 関連 (中国)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（求職者対応）	求職者数の動き	・年明けの1月時点と比較し、求職者数が顕著な増加傾向にあり127%増加している。比較的未経験からでも挑戦しやすい事務派遣へ流入していることが一因とみられる。
	○	民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・採用選考スピードが速まってきている。じっくり吟味している間に他社の選考も進むことから、自社に取り込むためにもスピードを上げている。
	□	人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・毎年のことだが、ゴールデンウィークの前後は求職者、求人共に鈍化傾向となる。また、転職の時期としても6月のボーナスをもらってから動く人も多いため、この1～2か月は厳しい状況となる。
	□	人材派遣会社（経営企画担当）	求職者数の動き	・例年、4月の派遣稼働者数は年間業績を占う上で重要な発射台となる。過去の経験から、前年を下回ると通年で業績が苦戦する傾向があるため、このスタートが肝腎である。今年は前年を上回る稼働者数を確保し、良いスタートを切ることができた。今後、どれだけ実績を積み上げていけるかが大きな鍵となる。
	□	求人情報誌製作会社（総務担当）	それ以外	・県内飲食店の予約状況については、前年と比較して件数、人数共に大きな変化はない。特に3～4月にかけての集客は期待外れであった模様である。
	□	求人情報誌製作会社（新卒採用担当）	求人数の動き	・大手企業が採用目標数を拡大させているという明るい兆しがある。一方で、生成AIの急速な普及に伴い、ジュニア層のITエンジニアに対する求人数が減少傾向にある。これまではポテンシャル採用枠だった層も、より高い専門性や即戦力が求められるようになり、採用市場に2極化が生じている印象を受ける。
	□	求人情報誌製作会社（広告担当）	採用者数の動き	・新卒学生の企業選択では安定している会社が最多で、給与の良い会社が2番目、続いて自分のやりたい仕事ができる会社の順となった。大学3年生の4月から翌年2月のプレ期間は、インターンシップや仕事体験への参加を通じて、自社の魅力をうまく学生に伝えた中小企業への関心が高まり、中小企業志向の増加に一役買った。
	□	学校〔短期大学〕（進路指導担当）	求人数の動き	・求人数は順調に増加しているが、前年度と同水準であるため、特に景気が上向きとの判断はできない。
	▲	求人情報誌製作会社（新卒採用担当）	採用者数の動き	・人手不足は変わらないが、企業側がコスト削減等の理由で採用活動を鈍化させている印象を受ける。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・急激な価格高騰による消費不振に加え、経済の先行きに不透明感が増すとともに、AI導入等も進み、採用関係まで鈍化している。
	▲	職業安定所（事業所部門）	周辺企業の様子	・燃料価格の高騰で徐々に影響が出ていることや先行きに不安を感じている企業が増えてきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	求職者数の動き	・人材紹介事業において、求職者からの問合せ数が3か月前と比較して86%と減少している。
	▲	学校〔大学〕（就職担当）	それ以外	・中東情勢や日中関係の影響が懸念される。
	×	—	—	—

#### 10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (四国)	◎	—	—	—
	○	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・過去の月と比べて比較的天候に恵まれたため、僅かではあるものの久しぶりに販売量が増加した。
	○	家電量販店（副店長）	販売量の動き	・蛍光灯が2027年度末までに段階的に製造禁止になることや、エアコン省エネ基準が2027年度から改定されることを踏まえた価格上昇予測により、シーリングライトは前年比180%、エアコンは140%、全体では116%で推移している。
	○	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・人気車種の再販売によって受注が一時的に回復し、単月で見れば販売量が増加した。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	来客数の動き	・飲食や土産を主とした食品が好調である。現在は、来客数が増えるタイミングでもあるが、好調だった前年以上である。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・四国遍路の仕事が入ってきている。3月中旬にタクシー料金が値上がりになったが、街で働いている人は、それによってある程度収入が増加しているようなので、以前より少し良い。
	○	観光遊園地（主幹）	来客数の動き	・大型イベントを実施した影響により、市内中心部や施設への来客数が増加した。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・入学式、入社式の方とアリーナのコンサートに行かれる方の来店が多かった。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・4月に2回実施したイベントが盛況で、来客数は前年と比較して7～8%伸びている。イベントの影響によって商店街への人手がかなり増加する傾向がある。また、新しい飲食店が増加したことに対して、客は魅力を感じているようにみられる。
	□	商店街（常務理事）	来客数の動き	・港湾地区でのにぎわいやSNSの情報発信が奏功しており、若年層を中心に来街者が増えて商店街には活気がある。おおむね飲食店は潤っている一方で、物販店はそのにぎわいを売上につなげられていない。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・地政学的リスクがもたらす影響が地方経済にも及んでいる。生成AIの波及が新たな産業革命を起こす時代に入ってきた。インフレ経済の急激な進行が進めば大きな波乱が起これとみられる。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・中東情勢の影響による物価高が続き、客の購買意欲が低下している。また、外出を控える傾向にあるようにみられる。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・母の日の予約が例年より早く入ってきている。購入を決めている人は、価格が上昇していても早々に予約している。一方で、迷っている人は購入しない方を選択するため、どちらかにはっきりと分かれている。
	□	百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・中国からの来客数の大幅な減少の影響で、売上も大幅に減少している。国内は、一部の高額品のみ好調に推移するものの、商品の価格上昇による物価高の影響により、客の購買意欲が低下している。
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・継続する価格上昇の影響により、来客数と買上点数は前年を下回る厳しい状況である。異業種でも、食品の取扱を始める企業が多く、競争に苦戦している状況である。
	□	スーパー（財務担当）	単価の動き	・来客数の減少が継続しているが、客単価の上昇がそれを若干上回り、何とかカバーしている。
□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数が少なく、客単価も余り上がらない状況が続いている。物価高の影響もあり、インバウンド相手の商売以外は余り景気が良くないとみられる。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・自社だけでなく、当地域全体の宿泊者数も前年比で平均3%ほど伸びているため、景気は3か月前と同様に良い傾向とみられる。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・2～3か月前から余り変動はない。例年は、新入社員への歓迎会などがあるが、それも毎年減少している。今年も数えるほどしかなく、昼間の状態も余り良くない。
	□	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・業界の例年の傾向として、第1四半期は販売が落ち着く時期であり、今後販売に寄与されそうな新たなトピックもない。
	□	設計事務所（所長）	単価の動き	・短期間で物価が乱高下するため、良いのか悪いのか分からない状態である。
	▲	一般小売店〔文具店〕（経営者）	販売量の動き	・例年、年度初めの影響で多少売上が減少するが、今年は原油価格上昇が影響して、売上が減少傾向にある。
	▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・物価高で外食を控える傾向にあることから、飲食店への納品が低迷しているうえ、さらに家庭用の納品も減少している。
	▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の前年割れが続いている。
	▲	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・中東情勢の影響によって価格改定の依頼が随時来ており、今後の物価や原価の上昇は否めない。また、それらの報道が客の耳に入ることにより、さらに節約志向が高まるものとみられる。
	▲	スーパー（人事）	来客数の動き	・雨天も多く客足が鈍っていることに加え、節約意識が高まっている。
	▲	スーパー（統括担当）	単価の動き	・客の購入単価が低下してきた。無駄が出ないように、少量の商品を望む声が聞かれる。
	▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・来客数、売上共に減少している。消費意欲の弱さがみられる。
	▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数が徐々に減少しているが、客単価と売上はインフレの影響により増加している。
	▲	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・為替変動や中東情勢の影響により、輸入原材料及びパッケージ包材の価格が上昇している。また、気候が国内の生鮮果菜などへ与える影響も懸念される。
	▲	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・前年と比べ売上は5%程度減少している。中東情勢の影響による価額上昇が客の心象にも負担になっており、来客数とともに客単価も減少している。
	▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・価格上昇の影響もあり、検討はするものの購入にいたらないケースが増えている。必要にかられて購入する場合も、附属品等は購入を控えているようにみられる。
	▲	乗用車販売店（役員）	それ以外	・中東情勢の影響により、物不足が発生してきている。
	▲	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・4月から多くの物の価格が上昇したことや、当店の値上げの影響により、売上、来客数共に少ない。
	▲	都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・先行きの不安から動きが悪い。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・4月は例年来客数が少なめである。
	×	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・新学期の採用品の売上が、年々減少している。少子化や紙の本から電子書籍への移行などが要因として挙げられる。
	×	コンビニ（総務）	来客数の動き	・売上が前年比98.2%となる中、来客数は前年比96.0%と一層悪い。
企業動向関連	◎	—	—	—
(四国)	○	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・中東情勢の影響により需要の先食いが始まるとともに、価格転嫁も進んでいる。
	□	食料品製造業（商品統括）	それ以外	・中東情勢の影響で不確定要素が多く、分からないのが本音である。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・民間工事で若干動きはあるが、相変わらず公共事業が少ない。
	□	輸送業（経営者）	取引先の様子	・政府の対策により、不安要素は少なく感じる。
	□	通信会社（総務担当）	受注量や販売量の動き	・当初計画どおり販売目標は達成できた。
	□	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・年末頃から売上は前年割れで推移しており、4月も変わらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	金融業（副支店長）	取引先の様子	・3か月前と比べて大きな変化はない。
	▲	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量は回復しているが、中東情勢の影響を受けて建築現場で遅延が起こる可能性がある。今後の動きに注力していくが、受注が減少する可能性が大きいとみている。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・成約が決まらないため、景気が悪いとみられる。また、開発にかける資金等の入手が困難な状況である。
	▲	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・個人の消費動向が低調である。中東情勢の影響により、建設資材が確保できない事態になってきている。
	▲	不動産業（経営者）	取引先の様子	・不動産仲介業では、新築住宅建築用地を住宅メーカーにあっせんすることも事業のうちであり大きな部分を占めているが、新築着工件数の減少により取引も減少している。
	▲	税理士事務所	取引先の様子	・金利が上がったことで、資金繰りが余計に苦しくなっている。
	×	繊維工業（経営者）	それ以外	・春物商材の受注が活発で、新商品の評判も良く、順調に推移している。しかし、中東情勢の影響によって前月頃から副資材の価格上昇に拍車がかかり、なっ染プリント加工に使用する顔料接合材の入手が困難になる可能性が出てきた。6月以降のプリント加工数量が制限されるため、対策に迫られる状況が続いている。
	×	建設業（総務）	受注価格や販売価格の動き	・中東情勢の影響によって材料代がどんどん上昇し、値段も頻繁に変動している。また、入荷も遅く、入荷時期が読めないこともある。
	×	広告代理店（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・原材料価格の上昇が止まらず、販売価格に転嫁するよりも先に新たな値上げがある。
雇用関連	◎	—	—	—
	○	—	—	—
(四国)	□	人材派遣会社（オフィス責任者）	周辺企業の様子	・人材募集の理由としては、事業拡大や業績好調による増員というよりも、欠員対応がほとんどであり、特に状況に変わりはない。
	□	人材派遣会社（総務部長）	求職者数の動き	・求職者数が減少している。
	▲	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・県内中小企業では新卒採用が厳しくなってきたが、建築、建設業界及び周辺業界、化学関連業界は、中東情勢の影響に伴う建材や原材料の仕入価格の高騰による先行きの不透明感から業績が悪化しており、更に新卒・中途とも採用を控えつつある。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・民間企業からのマス告知の需要が減少している。
	×	—	—	—

## 11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	◎	家電量販店（店長）	お客様の様子	・省エネ基準改定を控えていることから、エアコンが爆発的に売れている。
(九州)	◎	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・今月は販売量が新記録となる実績で、受注も好調である。
	◎	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・改良車種の注文開始に伴い、来客数が多くなっている。税制改正が施行され登録や納車販売も増えている。
	◎	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・中東情勢や物価高などを受けて予約減少を予想していたが、今のところ影響はない。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街を通る人の動きが良くなっているため、消費行動にも現れている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・4月に入り気候が良くなり、来訪者が増加傾向にある。中国からのインバウンドはいないが、国内外の観光客が商店街で消費活動をしている。
	○	一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・ハウス関係や薬物野菜、大型野菜は顕著な生産量があり、単価が落ち着き客が購入しやすい状況である。3か月前と比較するとそこそこ販売量が良くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・当店は生花のギフトをメインにしているが、3月は転勤や卒業式等で日によっては朝までこなせないこともある。4月は入学式や開店祝いの需要があり、ある程度の販売量があり売上は順調である。
	○	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・4月上旬は堅調に推移し、下旬は周辺施設のイベントや人気グループのコンサートなどの影響もありにぎわっていた。
	○	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・春から初夏への移り変わりで、衣料品が動き始めている。物産催事など期間限定で販売する高額の食料品が売れ、メリハリのある消費行動がみられる。
	○	百貨店（リーダー）	お客様の様子	・気候の変化に伴い、生活必需品にとどまらず、外出用の新しい服を買い回りしている。
	○	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・自動車関税の引上げや環境性能割の廃止により新車受注が上向いている。
	○	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	お客様の様子	・コーヒーの売上は通例では前年と比較して変わらないことが多いが、新年度になり、新規の外国人客が若干増加している。近隣の大規模工場の影響だと考えられ、売上は上向きの傾向である。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・4月上旬は春休みで、家族での館内のレストランの利用や宿泊が多くみられた。客室は通常の利用人数よりもトリプル利用が多く、旅行での利用が多い。
	○	旅行代理店（統括者）	販売量の動き	・中東情勢次第で大きな影響があるが、一時期の状況からは多少の好転がみられる。
	○	タクシー（統括者）	販売量の動き	・タクシー乗務員の面接や採用が前年比1.5倍で推移し、供給量が増加している。
	○	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・年度当初に当たり、既存の保守案件の契約が進んでいるほか、サイト運用やマーケティング施策のアウトソースに関する相談もみられ、顧客の投資意欲は比較的高い。新規案件は検討が多く、販売量としては前月と比べて大きな変化はなく横ばいで推移している。
	○	ゴルフ場（営業）	来客数の動き	・インパウンドの団体客が特に増えている。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・中東情勢に伴う物価高によって消費は落ち込んでいいる。特に主婦や高齢者の購買は慎重である。
	□	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・3か月前と比較した際に、売上状況と売上構成に大きな変化はない。
	□	百貨店（経営企画担当）	来客数の動き	・来客数の前年比は、1月95.5%、2月97.1%、3月95.3%、4月96.3%である。依然として来客数の前年割れが続いており、特にインポート商品や宝飾、美術品等の高額品の売上の落ち込みが大きくなっている。
	□	スーパー（店員）	お客様の様子	・米の価格に関する問題はまだ収まらず、銘柄米でお買い得なものばかりが売れ、問合せも多い。
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・国際情勢の不安定さにより、客の購買動向は特売日に集中している。店舗への来店頻度が下がり、特売日にまとめ買いをする傾向が強くなっていて、特売日以外は来客数が極端に減少している。
	□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・売上の上昇幅は僅かではあるが、まだ前年を上回っている。弁当などの日販食品も値段が上がっているが、外食の値上がりほどではないため、比較的堅調さを保っている。しかし、月によって来客数に違いがあり、気になるところである。
	□	コンビニ（経営者）	単価の動き	・客は物価高騰により、価格が高い商品を手にとることはなく、より安価な商品を購入するため、売上は減少傾向となり厳しい状況になっている。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・ガソリンの価格高騰の影響はみられず、大きな変化はない。物価対策のプレミアム付商品券がスタートしたが、現状では大きな影響はない。
	□	コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・時間帯によって、午前中の来客数は前年よりも伸びていない。午後のピーク時や曜日によっては回復している時間帯はあるが、1日を通じた来客数や売上は前年と比べて変化していない。
	□	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・3か月前と比べると更に物価が上がっており、客から身に染みているという話を聞く。食品や生活必需品、健康管理に関するものは最低限の購入をしなければいけないため、それ以外には金が回っていないのが実状である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	家電量販店（店長）	お客様の様子	・エアコンの省エネ基準改定に客が影響され、売上自体は伸長しているが、ついで買いは少なく、財布のひもは固い。
	□	家電量販店（店員）	販売量の動き	・近年の状況の慢性化により、物価高に対する声は減少している。しかし、物価高による販売量の落ち込みは依然として実感している。
	□	住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・今月は地元で産業祭りがあり、新規顧客の購入が順調に伸び、売上が良かった。
	□	住関連専門店（従業員）	来客数の動き	・来客数が非常に落ち込んでいる。
	□	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	来客数の動き	・当ショッピングセンターでは、3か月前にはシール特需が始まり、現状と同程度の盛り上がりを見せていた。4月に入りシール特需は落ち着きを見せているが、カプセルトイの好調や前年よりやや早い人気映画の公開に伴い来客数が増加している。今月もヒット商品に支えられている商況で順調に推移している。
	□	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	来客数の動き	・来客数の減少傾向や客単価の上昇傾向は変わっていない。
	□	旅行代理店（職員）	販売量の動き	・春の日帰りバスツアーは3か月前より売上、人数共に好調であるが、海外募集型の減少が大きく販売量は変わらない。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・電話予約よりWeb予約が増えている。
	□	タクシー運転手	来客数の動き	・個人的にタクシー配車アプリの活用を増やしたため客は増加しているが、仮にアプリ配車を利用していなければ前年比95～100%で推移しているとみられる。
	□	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・観光業の活気は元に戻りつつあるが、石油価格の高騰の影響が大きく響いている。
	□	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光インターネット回線の販売量が全く伸びない。
	□	競馬場（職員）	お客様の様子	・競馬場における売上や入場者の現在の動向は3か月前と比べて大きな変化はない。
	□	美容室（経営者）	販売量の動き	・2～3か月前と比較すると徐々に景気が上向いている。
	□	その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	販売量の動き	・20～30歳代の来店や売上が減少傾向である。また、前年との比較でも幼児や小学生の入会が減少している。
	□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・みらいエコ住宅2026事業がスタートしたものの、客の動きが見られない。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・3月下旬から4月上旬にかけては、年度の移行期のため来客数は多かったが、20日を過ぎると減少に転じてしまった。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年この時期は景気が良くなるが、日用品、衣料品、雑貨等の小売店は厳しい状態である。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街では、大型連休前であるにもかかわらず厳しい状況が続いている。物価高やイラン情勢等により先行きが不安定なことから客の財布のひもが固くなっている。
	▲	一般小売店〔精肉〕（店員）	それ以外	・仕入価格や包装資材などが高騰しており、利益を圧迫している。また、値上げが受け入れられるか先行きが危惧される。
	▲	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	お客様の様子	・物価変動により、毎月来店していた客の動きが2か月間隔になり購入数が少なくなるなど、来客動向や消費活動が鈍くなり、売上に影響が出ている。新茶時期に入るため、客が求めやすい価格設定で販売する予定である。
	▲	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・石油価格の高騰で物価にも影響があり、消費マインドが弱くなっている。紳士、婦人衣料は依然として苦戦を強いられているが、食品催事、飲食等は好調に推移している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・店頭では、世界情勢の不安定さからガソリンや石油製品の値上げなど将来に対する不安の話をする客が非常に多い。また、衣替えのシーズンだが、将来の不安からモノやコトに対する支出を抑える客が多くなっている。
	▲	百貨店（営業企画担当）	単価の動き	・様々なカテゴリーで物価高が消費者に影響を及ぼし、高額品を始めデイリー品に対しても消費マインドが低下している。
	▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・中東情勢の不安定化により原油価格や物流コスト増加が続き、物価高騰への懸念が強まっている。生活必需品の値上がりで消費者の節約志向が一段と強まり、価格訴求の強いディスカウントストアへ流れる動きも見られる。その結果、来客数の動きにも影響が出て、身の回りの景気がやや悪化している。
	▲	スーパー（店長）	単価の動き	・単価の上昇が続き、客の消費への姿勢はとてども慎重である。
	▲	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・石油問題を背景として様々な物品の値上げが考えられる。各店舗の近隣に新規競合店が出店し、更に価格訴求型の販売促進が行われていることなどから、来客数や購入点数が減少し前年を下回る状況が続いている。
	▲	スーパー（経理担当）	来客数の動き	・中東情勢の先行きが見えないため、生活防衛意識が高まり来客数減少につながっている。
	▲	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・物価高により、来客数が減少している。
	▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・夜間帯の来客数が前年比90%になり落ち込みが継続している。節約ムードが定着し、ディスカウント業態へ流れる傾向である。
	▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・イラン情勢の不透明化により、物価の動きが激しくなり、経済が不安定で客足が鈍っている。
	▲	旅行代理店（統括者）	来客数の動き	・当社の市内7店舗の来客数が減少している。余暇への消費額が影響し、特にファミリー層の動きが鈍くなっているため、景気の影響を受けている状況である。
	▲	通信会社（役員）	お客様の様子	・燃料費や生活物資の値上げの更なる長期化が影響し、生活必需品以外への購買意欲が減退している。
	▲	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・韓国からの来場者が減少し、連日の天候不順によるキャンセルで入場者は減少傾向にある。台湾からの来場者が期待できる。
	▲	美容室（店長）	お客様の様子	・客の来店回数が減少しており、物価上昇を懸念している。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	それ以外	・採用環境が急速に厳しくなっている。他業界の大幅な賃上げに伴い人材流出が増加し、担い手不足からサービス提供の期間損失が比例して増加している。
	▲	設計事務所（代表）	単価の動き	・ナフサ不足のため商品が高騰していて、入荷がない状況である。
	▲	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・子供の学校教育以外で塾や英会話等を辞める事例が増え、景気は悪くなっている。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・中東情勢の影響により原油価格が高騰し、食品を始めとした生活に関する全ての商品に値上がりの可能性が発生している。ファッション販売では苦戦が続いていることが客の様子から判断できる。
	×	衣料品専門店	来客数の動き	・中東情勢の報道から消費に対して慎重になっている。
	×	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・中東情勢の影響によって様々な商品が値上がりし、節約志向になっている。
	×	衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・様々な物の値上がりで、客は洋服を買い控えている状況である。
	×	家電量販店（従業員）	それ以外	・中東情勢によりメーカーからの製品や工率部材の高騰及び入荷遅延、出荷停止などの影響が出始めている。
	×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・前月は客の動きがあったが、今月は非常に悪く、来客数がかなり減っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	設計事務所（所長）	それ以外	・イラン情勢で、石油化学製品の品不足や価格上昇が顕著で、新築やリフォーム等の建築施工に大きな支障が出ている。また、生活必需品への影響も出始めており、特に地方の個人事業主や零細企業では、収入の増加も見込めない。
企業 動向 関連  (九州)	◎	—	—	—
	○	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・イラン情勢により原油価格が高騰し、各種材料の値上げが懸念されるが、各取引先ではその状況乗り越えるための動きが見られる。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・冬に鳥インフルエンザの発生が少なかったため、生産は計画どおりに流れている。販売では輸入の畜産物が予定どおりに入っており、国産の引き合いは相変わらず強い。価格も過去にない相場になり、さらに3～4月は需要が多い月であるため、その需要に対応できない状況である。生産コストは、中東情勢を心配していたが、今月までは限定的な影響にとどまり、ある程度の業績で終わることができている。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・前年度の受注状況は3月で完了している。今年度の予定は客、メーカー共に様子見の状態になっている。景気は良くなりつつあるが、外的要因で材料受注が難しい状態がしばらく続くと予測している。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注量はそこそこ増えてきたものの、単価が厳しく仕事の回転率向上に奔走している。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注に関しては引き続き増加傾向にあるものの、中東情勢の影響による原材料の調達難や価格高騰など不安材料が多く、今後の生産に大きく影響される。
	□	その他製造業 〔産業廃棄物処理業〕	受注量や販売量の動き	・全体的に現状と変わらない取扱量であるが、商品によって増減がある。顧客も原料が手に入らないため、危惧している。
	□	輸送業（従業員）	取引先の様子	・中東情勢の影響で材料等が手に入らず生産等の動きが悪くなっているため、引越し等の需要はあるが相殺されているような状況になっている。
	□	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・イラン情勢により国内の化学品メーカーを始めとして、原油から製品をつくる多数の企業に減産や停止、個数制限、値上げ等様々な影響が発生している。世界的な情勢であるため、輸出入の低調傾向が続いている。
	□	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・倉庫保管量、出荷量共に減少しているが、例年と比べ景気判断を左右するほど大きな変化ではない。
	□	金融業（経営者）	それ以外	・会員数の減少に歯止めがかかっていない。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・県内企業の業況判断は製造業や卸小売業で厳しい見方が強まっている。卸小売業では仕入価格上昇により資金繰りがタイトになっている。
	□	金融業（営業）	取引先の様子	・イラン情勢における原油価格の高騰等の影響や品不足は特に発生しておらず、現状での変化はない。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・自動車関連産業では受注が安定しており特に変化がない。
	□	不動産業（経営者）	取引先の様子	・取引先や顧客企業の情報は、先行き不安などの話題が多く、余り変動がない。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・自社の受注や案件数に大きな変化がない。
	□	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・今月は新しいダイレクトメールで販売促進に努めているが、その効果が現れていない。
	□	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村のまちづくり、福祉に関する調査、計画策定の委託業務を行っているが、今年度のまちづくりに関する業務として、都市計画や公共施設の調査や計画策定の業務があり、委託金額が大きく、大半がプロポーザルにより業者が選定される。福祉に関する調査も高齢者や障がい者の計画がまとまってプロポーザルとなり、規模の大きい業者や実績を有する業者が優先され、受注できる機会が少なくなっている。
	▲	金融業（営業担当）	取引先の様子	・中東情勢の影響により取引先における資材や原材料の値上げが徐々に発生している。コスト高をすぐに吸収できる売上を計上できる中小企業は少なく、収益悪化の見込みが高い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	▲	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上は、前月比でプラスであるが、前年比ではマイナスとなっており、全体の流れではマイナス基調は変わっていない。世界的に情勢は不透明になっており、不安視する動きが広がっている。さらに、原油価格の上昇により様々な物の価格が高騰し3か月前と比較しても景気はやや悪くなっている。
	▲	経営コンサルタント（社員）	受注価格や販売価格の動き	・アルコール度数の低い物が売れ、高級酒は売れていない。節約志向が高まっている。
	×	食料品製造業（経営者）	それ以外	・イラン情勢の影響により、来月から石油製品の値上げが始まるため、営業利益をかなり圧迫する状況になる。
	×	繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・今月は同業者の閉鎖や縮小があり、30人以上雇用している工場も閉鎖している。個人経営の工場は苦しい状況である。今後も厳しい状況が続く。
雇用関連	◎	—	—	—
(九州)	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・4月中旬から、求人数や求職者の登録に動きが出てきて、約2割の増加となっている。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・短期の案件やスポット案件の引き合いはあるものの、長期案件の増加にはつながっておらず、全体の求人数としては大きな変化はみられない状況である。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・依然として求人数が、前年を下回っている。
	□	新聞社「求人広告」（社員）	それ以外	・飲食店などはインバウンドの影響によりにぎわっているようにみられるが、地元生活者としては景気が上向いている実感はない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数や就職件数が前年比で増加しており、企業の採用意欲に変動はない。
	□	学校「大学」（就職支援業務）	求人数の動き	・2027年3月卒業予定の大学生や大学院生対象の大卒求人倍率は1.62倍で、2026年卒の1.66倍から0.04ポイント低下しているが、企業では引き続き堅調な採用意欲がみられる。なお、大企業については採用予定数が2026年度の実績を下回る調査結果が出ているため注視している。
	□	学校「専門学校」（就職担当）	採用者数の動き	・当市のIT業務はエネルギー系や金融系の仕事が多く、IT人材について採用基準が上がり、人材が少ない。
	▲	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人の動きでは、企業側の採用に関する動きが鈍い。観光業などはにぎわっているが、事務派遣に関する採用の動きは低調である。
	▲	新聞社「求人広告」（担当者）	周辺企業の様子	・求人広告の動きから、景気はやや弱含んでいる。求人では募集枠の縮小や掲載頻度の減少が目立ち、販売促進系の出稿が減っている。また、中小企業経営者からは社会保険料の負担が重く、社員採用が難しくなり、消費税の納税負担も大きくなり、広告費を抑えざるを得ないといった声がある。人件費や原材料費の上昇も重なり、全体では企業の慎重姿勢が強まっている。このため周辺企業の景況感はやや悪化している。
	▲	新聞社「求人広告」（担当者）	それ以外	・物価の高止まりや世界情勢による原油、ガソリンの価格高騰に対する不安などもあり、消費行動については意欲も活動もやや鈍っている。既に業種によっては諸資材の仕入れに制約を受けている企業がある。
×	—	—	—	—

## 12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	◎	家電量販店（営業担当）	単価の動き	・おきなわ省エネ家電購入応援キャンペーンが開始され、対象商品であるエアコン、冷蔵庫、テレビが前年比で2けた伸長している。
(沖縄)	◎	観光型ホテル（専務取締役）	来客数の動き	・4月の来客数及び稼働率が前年を上回っている。
	◎	観光型ホテル（企画担当）	販売量の動き	・1月の販売室数が前年比10%減少に対し、4月は前年比26%増加でプラスに転じている。
	○	一般小売店「土産」（営業部長）	販売量の動き	・原材料等の高騰により商品価格は上昇したが、販売量は現状維持のため、売上は伸びている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	○	百貨店（経営担当）	販売量の動き	・ホワイトデーや新生活需要により、販売量が増加している。
	○	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・物価高による選別消費はみられるものの、季節行事に伴う動きがより活発化している。生活必需品には慎重な一方で、清明祭や入学・就職祝いといった節目の行事には、高単価な重箱や関連商品の売行きが好調となっている。行事食を中心とした需要が景気を下支えている。
	○	コンビニ（経営企画担当）	単価の動き	・たばこやチケットを除いた売行きが好調である。
	○	乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・受注は引き続き好調を維持している。
	○	その他専門店〔陶器〕（製造）	販売量の動き	・長年にわたり製造されている商品の販売量が増加している。
	○	その他専門店〔書籍〕（部長）	販売量の動き	・インバウンドが引き続き好調であり、売上増加につながっている。
	○	観光名所（職員）	来客数の動き	・県内の団体客が増加傾向にある。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・飲食店が日々増加する一方で、小売店は減少しているため、景気判断が困難な状況である。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数の前年割れが継続しているが、周辺店舗に変化はない。客単価は物価高の影響により前年を上回っているが、買上点数は伸びていない。来客数や買上点数から買い控えがみられる。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物価高による影響で、客が慎重に買物を行っている。
	□	その他飲食店〔ファーストフード〕（総務部）	販売量の動き	・ゴールデンウィークを境に来客数と販売量は上昇するが、4月の来客数と販売量の伸びはわずかとなっている。
	□	観光型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・客室稼働率が前年を上回っており、欧米客が増加している。
	□	通信会社（サービス担当）	販売量の動き	・直近3か月の販売量に変化がなく、客の購買行動も大きく動いていないため、景気は横ばいだと判断している。
	□	住宅販売会社（営業担当）	来客数の動き	・分譲住宅の問合せが多い。
	□	住宅販売会社（役員）	来客数の動き	・仲介物件への問合せや来客数は、3か月前と比べて大きな変化はみられない。また、物件価格の高騰により検討層の動きは慎重であるが、実需や投資需要は一定数存在しており、案内数も安定している。
	▲	一般小売店〔酒〕（店長）	販売量の動き	・食料品の物価高による影響で、飲食店は苦慮している。
	▲	スーパー（店舗管理）	競争相手の様子	・競合他社の物価高に対する取り組みにより、顧客が流出している。今後も継続する場合、対応を検討せざるを得ない。
	▲	一般レストラン（代表者）	来客数の動き	・来客数が減少している。
	▲	旅行代理店（マネージャー）	お客様の様子	・原油や物価の高騰により、出張回数が減少している。航空券や宿泊費用も増加しておりどうしようもない。
	▲	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・販売数が減少しており、購入のため来店する客も少ない状況である。
▲	観光名所（職員）	来客数の動き	・4月下旬から来客数が減少しているものの、インバウンドに変化はみられない。	
×	その他飲食店〔バー〕（経営者）	来客数の動き	・平日はある程度人出はみられたものの、週末は人出が減少している。	
企業 動向 関連  (沖縄)	◎	—	—	—
	○	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・一般消費が増加している。また、ホテルや土産品は引き続き好調に推移している。
	○	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月の受注状況は好調である。また、その他の建築計画もすでに複数の見込みが立っている。
	○	輸送業（総経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・前年同月比で増収増益となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	□	建設業（経営者）	取引先の様子	・原油及びナフサの調達に懸念がある。資材の受注停止が発生しており、価格についても見通しが立たない状況である。
	□	通信業（総務）	それ以外	・観光は好調なものの、食料品や燃料費などの価格上昇が続いていることから、節約志向は強いとみている。
	▲	窯業土石業（取締役）	受注量や販売量の動き	・中東情勢の影響で今後の受注状況も変化するが、現状だと見積依頼や生産、販売は減少傾向にある。
	▲	輸送業（経営企画室）	それ以外	・中東情勢の影響によって燃料のみならず原油関係素材も枯渇している。梱包用フィルムやラック等の価格高騰や受注停止に伴い、コスト増加や仕入先の見直しなどが発生している。
	×	*	*	*
雇用 関連  (沖縄)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は前年同月比で減少したが、求人者から人手不足の相談は多い。
	□	学校〔大学〕（就職支援担当）	それ以外	・長期化する物価の上昇及びエネルギー問題により将来に対する不安感が高まっている。
	▲	人材派遣会社（総務担当）	求職者数の動き	・求人案件に対しての求職者の動きが鈍い。
	▲	求人情報誌製作会社（審査）	求人数の動き	・4月はゴールデンウィーク直前であり、教育に時間を割けないホテルや飲食サービス業の求人募集は減少傾向にある。新年度採用も3月で終了しており、その影響も出ている。
	▲	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・前倒しで多くの求人を受けていた分、前年比で求人数は減少している。IT関連の求人は多いものの、生成AIを活用する企業が増えていることで、人員削減を実現している企業もみられる。
×	—	—	—	